

大学等名	茨城大学
プログラム名	農学分野データサイエンス教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位  ③ 教育プログラムの修了要件

② 対象となる学部・学科名称

④ 修了要件

プログラムを構成する「基礎科目群(下記1~8)」(11単位)すべてと、「専門教育科目群(下記9~12)」から4単位以上、合計15単位以上を取得すること。

必修科目群: 1. 情報リテラシー、2. AI・データサイエンス入門、3. 微積分学入門、4. 線形代数学入門、5. 統計学、6. AI・数理・データサイエンス演習、7. プログラミング基礎、8. 農学実習

専門教育科目群: 9. 農作業学、10. 生物生産機械学、11. 地理情報学、12. 農業気象学

必要最低単位数  単位 履修必須の有無

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
微積分学入門	1	○	○										
線形代数学入門	1	○	○										
統計学	2	○	○										
プログラミング基礎	2	○		○	○	○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	
情報リテラシー	2	○	○				○															
AI・データサイエンス入門	1	○	○		○	○	○	○														
AI・数理・データサイエンス演習	1	○	○	○	○			○	○	○												

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
農学実習	1	○			
農作業学	2				
生物生産機械学	2				
地理情報学	2				
農業気象学	1				

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目


⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
<p>(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。</p>	<p>1-6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差 「統計学」(3回目)</li> <li>相関係数 「統計学」(13回目)</li> <li>相関関係と因果関係 「統計学」(14、15回目)</li> <li>正規分布 「統計学」(4、5、6回目)</li> <li>帰無仮説と対立仮説 「統計学」(10、11、12回目)</li> <li>ベクトルと行列 「線形代数学入門」(1、5回)</li> <li>ベクトルの演算、ベクトルの和とスカラー倍、内積 「線形代数学入門」(1、2、3、4回)</li> <li>行列の演算、行列の和とスカラー倍、行列の積 「線形代数学入門」(5、6、7、8回)</li> <li>逆行列 「線形代数学入門」(6回)</li> <li>関数の傾きと微分の関係 「微積分学入門」(3回)</li> <li>1変数関数の微分法、積分法 「微積分学入門」(3、4、5、6、7、8回)</li> </ul> <p>1-7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アルゴリズムの表現(フローチャート) 「プログラミング基礎」(1回)</li> </ul> <p>2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など) 「AI・データサイエンス入門」(2回)</li> <li>構造化データ、非構造化データ 「AI・データサイエンス入門」(2回)</li> <li>情報量の単位(ビット、バイト)、2進数、文字コード 「AI・データサイエンス入門」(2回)</li> <li>配列 「プログラミング基礎」(9、10回)</li> </ul> <p>2-7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字型、整数型、浮動小数点型 「プログラミング基礎」(1回)</li> <li>変数、代入、四則演算、論理演算 「プログラミング基礎」(2回)</li> <li>関数、引数、戻り値 「プログラミング基礎」(7、8回)</li> <li>順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成 「プログラミング基礎」(3、4、5、6、7回)</li> </ul>
<p>(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。</p>	<p>1-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ駆動型社会、Society 5.0 「AI・データサイエンス入門」(1回)</li> <li>データサイエンス活用事例 「AI・データサイエンス入門」(7回)、「AI・数理・データサイエンス演習」(2、3、4、5、6、7回)</li> </ul> <p>1-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析の進め方、仮説検証サイクル 「AI・数理・データサイエンス演習」(4回)</li> <li>分析目的の設定 「AI・数理・データサイエンス演習」(4、6回)</li> <li>様々なデータ分析手法(回帰) 「AI・数理・データサイエンス演習」(3回)</li> <li>様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など) 「AI・数理・データサイエンス演習」(2回)</li> <li>データの収集、加工、分割/統合 「AI・数理・データサイエンス演習」(4、6回)</li> </ul> <p>2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ 「AI・データサイエンス入門」(1回)</li> <li>ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス 「AI・データサイエンス入門」(7回)、「AI・数理・データサイエンス演習」(6回)</li> <li>ビッグデータ活用事例 「AI・データサイエンス入門」(7回)</li> </ul> <p>3-1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム 「AI・データサイエンス入門」(3回)</li> <li>汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI) 「AI・データサイエンス入門」(3回)</li> <li>AI技術の活用領域の広がり 「AI・データサイエンス入門」(3、7回)</li> </ul> <p>3-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI倫理、AIの社会的受容性 「AI・データサイエンス入門」(6回)</li> <li>プライバシー保護、個人情報の取り扱い 「情報リテラシー」(6回)、「AI・データサイエンス入門」(6回)</li> <li>AIに関する原則/ガイドライン 「AI・データサイエンス入門」(6回)</li> <li>AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性 「AI・データサイエンス入門」(6回)</li> </ul> <p>3-3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実世界で進む機械学習の応用と発展 「AI・データサイエンス入門」(3、7回)、「生物生産機械学」(14回)</li> <li>機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習 「AI・データサイエンス入門」(4、5回)</li> <li>学習データと検証データ 「AI・データサイエンス入門」(4、5回)</li> <li>過学習、バイアス 「AI・データサイエンス入門」(6回)</li> </ul> <p>3-4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実世界で進む深層学習の応用と革新 「AI・データサイエンス入門」(1、7回) (画像認識、自然言語処理、音声生成など)</li> <li>ニューラルネットワークの原理 「AI・データサイエンス入門」(5回)、「AI・数理・データサイエンス演習」(7回)</li> <li>ディープニューラルネットワーク(DNN) 「AI・データサイエンス入門」(5回)、「AI・数理・データサイエンス演習」(7回)</li> </ul>

	3-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIの学習と推論、評価、再学習 「AI・数理・データサイエンス演習」(7回)</li> <li>・AIの開発環境と実行環境 「AI・数理・データサイエンス演習」(7回)</li> </ul>
<p>(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。</p>	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ収集 「農学実習」(6、11、12、14回)、「農作業学」(8回)、「地理情報学」(4回)</li> <li>・データベース 「地理情報学」(3回)</li> <li>・データ加工 「地理情報学」(6、9回)</li> <li>・データ可視化 「地理情報学」(7回)</li> </ul>
	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析 「農作業学」(6、7、10回)、「生物生産機械学」(10回)、「地理情報学」(8、10、11、12回)、「農業気象学」(2回)</li> <li>・AI予測技術 「農学実習」(2、13回)</li> <li>・AIとロボット 「農学実習」(4、7回)</li> </ul>

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<p>昨今のデジタル社会において「データサイエンス」は、社会で活躍するにあたって身につけるべき基礎的な教養と捉えられつつある。農学分野においても例外ではなく、気象データ、生育データなど様々なデータを大量に扱う必要があり、データサイエンス教育の必要性が高まっている。またAIと呼ばれる機械学習等を用いた農学分野の課題に対する取組みも、すでに数多く社会実装されており、それらを活用できる農学分野の専門知識を持ったデータサイエンティストの需要も年々高まっている。</p> <p>そのような社会的背景を受け、農学分野データサイエンス教育プログラムでは、農学分野の専門知識を有し、かつ以下の能力を持つデータサイエンティストの養成を目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力</li> <li>・データサイエンスを活用し課題解決につなげる基礎能力</li> <li>・農学分野の実課題にデータサイエンスを応用するための大局的な視点から俯瞰する能力</li> </ul>
--

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
農学部	163	160	640	49	27	22	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			49	8%			
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
				0		0				0			0			0			0			0			0			0			0			0	#DIV/0!						
合計	163	160	640	49	27	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49	8%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人

② プログラムの授業を教えている教員数  人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)

(役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名)

(役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

委員長 井上栄一、農学部長 宮口右二、農学部教授 大久保武

農学部教授 長谷川守文、農学部教授 伊丹一浩、農学部教授 中島雅己

農学部教授 上妻由章

農学部准教授 中平洋一、農学部准教授 内田晋、農学部准教授 西川邦夫

農学部准教授 上塚浩司、農学部准教授 菊田真吾

農学部教授岡山毅、農学部教授困下嗣基、農学部教授山崎将一

農学部教授岡江健、農学部教授佐藤達雄、農学部教授豊田淳

農学部准教授 庄山紀久子、農学部准教授 浅木直美、農学部准教授 七夕小百合

農学部准教授 小針大助、農学部講師 長澤淳

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	8%	令和5年度予定	16%	令和6年度予定	28%
令和7年度予定	41%	令和8年度予定	55%	収容定員(名)	640

具体的な計画

令和4年度から教育プログラムを開始したところであり、現在履修中の学生のうち、どれだけプログラムを修了するのが重要な指標となる。現状で163名中49名が教育プログラムに参加しているが、当面の目標として50%がプログラムを修了することを目標とする。なお、教育プログラムの修了要件に、3年次以降向けの専門科目が含まれているため、修了判定が確定(留年生を除いて)するのが令和7年度終了時となる。

次年度以降の修了者割合は以下の通りに設定する。

令和4年度 49名(8%)  
 令和5年度 110名(16%)  
 令和6年度 180名(28%)  
 令和7年度開始 260名(41%)  
 令和8年度開始 350名(55%)

目標を実現するために、新入生を対象に入学後のガイダンスで当教育プログラムの有用性をしっかりと広報するとともに、履修中の学生に対しても、修了までのモチベーション維持と学修サポートを行っていく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

教員リソースの問題から現状では考えていない。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生ガイダンス、もしくは授業中に積極的に発信していく。  
 また、教育プログラムとは別に開催予定の農学分野データサイエンス教育事業イベントでも積極的に情報発信を行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

担当教員による時間外指導(オフィスパワーによる随時指導)に加えて、授業終了後や、ラーニングマネジメントシステム等を使ったチャットやメールによる学習相談を実施する。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

ラーニングマネジメントシステム等を使ったチャットやメールによる学習相談を実施する。

大学等名 茨城大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

茨城大学農学部総合戦略・IR委員会

(責任者名) 井上栄一

(役職名) 茨城大学農学部総合戦略・IR委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和4年度から開始したプログラムであり、現在は農学部総合戦略・IR委員会にて、科目履修の状況や単位の修得状況の分析を実施し、プログラムの円滑な履修について確認を行っている。現状で163名中49名がプログラムに参加している。
学修成果	本学で実施している授業アンケートの理解度の項目を分析することで授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を総合戦略・IR委員会で整理・分析したのち、授業担当者から構成される農学分野データサイエンス教育ワーキンググループが活用し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学で実施している授業アンケートの理解度の項目を分析することで授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を総合戦略・IR委員会で整理・分析したのち、授業担当者から構成される農学分野データサイエンス教育ワーキンググループが活用し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業アンケートを通じた後輩他の学生への推奨度の取り組みは実施していないが、全学共通のプログラムとして履修案内や新入生ガイダンスでもプログラムを案内し、学生への推奨の取り組みとしている。  令和4年度からプログラムを開始したため、科目別のアンケート結果のみで、プログラムのアンケートがない。そのため、後輩等他の学生への推奨は、履修案内への記載と、それを基にした新入生ガイダンスでの案内で行っている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和4年度から開始したところであるが、初年度の履修者数は計画通りである。2年目に入ることから、継続して履修者数、履修率を達成できるよう改善を図っていく。
学外からの視点	



自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	卒業生調査や卒業から3年後に実施する卒業後調査において、本プログラムを修了した卒業生の進路、活躍状況、企業等の評価について把握することが可能である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	現在、茨城大学農学部は、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムに特定分野校(理工農)として参画しており、その活動の中で、農学関連企業と共同で勉強会やイベントを実施しており、企業側で求められている農学系のデータサイエンス人材像を模索中である。今後とも企業からの要望をプログラムに反映させていくことを計画している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムにおいて、構成される科目群は、ほとんどが農学部の教員によって担当されている。そのため、授業内で学習する知識が農学分野においてどのように応用されるかについて、度々説明が行われている。こうしたアプローチにより、学生は「学ぶことの意義」を強く意識しながらプログラムに参加することができる。 また、「学ぶことの意義」を意識することで、モチベーションを高く保つことができ、「学ぶ楽しさ」につながる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	農学分野データサイエンス教育ワーキンググループにおいて、毎学期実施される授業アンケート結果や教員自己点検結果、成績分布等をもとにFDを実施し、内容・水準を維持・向上しつつ学生にとってよりわかりやすい授業への改善を行うこととしている。 また、学生も参加可能なイベントを開催し、数理・データサイエンス・AIの応用現場の理解を促進している。

科目名

**情報リテラシー**

①	学修目標	大学の情報システムに接続し、情報をやり取りできる。ワードプロセッサで文章を作成できる。プレゼンテーションソフトを使用して発表資料を作成できる。表計算ソフトを使ってデータ解析をできる。情報セキュリティを理解し実行できる。 法的リテラシーを習得し、情報化社会に適切に対応できるようになる。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	現代はビッグデータ、AIなど情報技術が急速に進歩し、スマートフォン、ネットショップなど生活のいたるところに情報技術が浸透しており、大学の学修もそれを抜きには不可能です。しかし、便利な反面、以前では考えられなかったような危険も潜んでいます。そこで、この授業では、大学で学ぶのに必要な情報リテラシー、社会との関わりについての法的リテラシーを学び、データサイエンスの入門としてExcelを使ったデータリテラシーを学びます。
④	年間の授業計画	第1回:ガイダンスと情報リテラシー ガイダンス。 第2回:情報リテラシー Wordによる文書作成、文書作成の基礎、文章入力、文書の体裁操作(行間、インデント、タブ、箇条書き、図、表、数式を含む文書) 第3回:情報リテラシー PowerPointによるスライド作成方法、提供した資料に基づいてプレゼンテーション資料を作成する。 第4回:情報リテラシー-Excelによる表計算(1)、表計算の基本操作 式の入力方法、連続したデータの入力方法、セルの参照方法 第5回:法的リテラシー:情報セキュリティ、ユーザー認証、Webサイトの安全性 第6回:法的リテラシー:個人情報保護、コンプライアンス 第7回:法的リテラシー:著作権 第8回:情報リテラシー:情報受信と情報発信、情報収集 第9回:データリテラシー:データサイエンスの基礎 第10回:データリテラシー:統計の信憑性 第11回:データリテラシー:Excelによるデータの分析1:与えられたデータの個数、合計、平均、偏差などを関数を使わずに計算する。 第12回:データリテラシー:Excelによるアンケート集計(文字データの操作方法)集計表、クロス集計表の作り方。標本数の求め方、 第13回:データリテラシー:Excelによるデータの分析2 度数分布表、相対度数を求める。 第14回:データリテラシー:Excelによるデータの分析3 与えられたデータを統計関数を使って処理する 第15回:データリテラシー:Excelによるデータの分析4 ある作物の丈の長さから収穫量から丈の長さとの関係があるかを調べる。 (データの読み込み、観察、分析、可視化、予測)
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	長澤 淳
⑦	成績評価方法等	共通試験実施の予定 「合」の場合は課題を用いて評点をつける。

科目名

**微積分学入門**

①	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列や関数の極限の求め方が理解できる</li> <li>・多項式、三角関数、指数関数、対数関数などやそれらの積、複合形の導関数を求め、グラフの概形を求める方法が理解できる</li> <li>・多項式、三角関数、指数関数、対数関数などの原始関数の求め方や定積分の計算方法が理解できる</li> <li>・単純な形状について面積、体積、曲線、重心の計算方法が理解できる</li> </ul>
②	授業の方法	オンライン授業（リアルタイム配信型）
③	授業内容	<p>次年度の専門科目「微積分学」を履修する学生、あるいは将来専門分野において微分法・積分法を使う学生のうち、高校で微分法または積分法を学ばなかった学生のための準備として、1変数関数の性質を微分法および積分法を用いて学んでもらう。</p> <p>本授業はDS要素である「関数の傾きと微分の関係」、「1変数関数の微分法」、「積分と面積の関係」、「1変数関数の積分法」を含む。</p>
④	年間の授業計画	<p>第1回：シラバスを用いたガイダンス及び数列の極限、無限級数とその計算方法</p> <p>第2回：関数の極限と計算方法</p> <p>第3回：初等関数の導関数の計算方法</p> <p>第4回：合成関数の微分法、二次導関数</p> <p>第5回：グラフの概形の求め方</p> <p>第6回：積分法と原始関数</p> <p>第7回：定積分とその応用、面積の計算</p> <p>第8回：体積・重心の計算（45分）、試験[対面]</p>
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	西脇 淳子
⑦	成績評価方法等	期末試験：100点

科目名

**線形代数学入門**

①	学修目標	ベクトルや行列、内積、行列の積、逆行列の計算ができる。
②	授業の方法	オンライン授業（リアルタイム配信型）
③	授業内容	次年度の専門科目「線形代数学」を履修する学生、あるいは将来専門分野において線形代数を使う学生のための準備として、ベクトルと行列に関する基本的な知識を身につけてもらう。 本授業はDS要素である「ベクトルと行列」、「ベクトルの演算」「ベクトルの和とスカラー倍」、「内積」、「行列の演算」、「行列の和とスカラー倍」、「行列の積」、「逆行列」を含む。
④	年間の授業計画	第1回：シラバスを用いたガイダンス及び2次元ベクトルの基礎と計算 第2回：ベクトルの内積と位置ベクトル 第3回：3次元ベクトル 第4回：ベクトルの応用問題 第5回：行列の基礎と計算、行列の積 第6回：単位行列と逆行列 第7回：行列の応用問題 第8回：ベクトルと行列の応用（45分）、期末試験[対面]
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	西脇 淳子
⑦	成績評価方法等	期末試験：100点

科目名

## 統計学

①	学修目標	以下の4点を到達目標とします。 ①データを処理し、比較するための統計的な考え方を理解し、どのような場面でどのような統計学的手法を用いればいいのかわから判断できるようになること。 ②正規分布するデータ群の性質を理解すること。 ③統計学的な性質を用いて、母集団の状態を推測できるようになること。 ④線形回帰分析について、相関分析との違いを理解した上で、実践できるようになること。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	理科系の学生にとって、データの処理や比較を行う際に、統計学は必須の道具です。この授業では初学者でも統計学を実践的に活用できるようになることを目標に、基礎から応用までを学びます。
④	年間の授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：データ処理のための準備／小テスト 第3回：母集団と標本、分布の中心の傾向と広がり／小テスト 第4回：正規分布①：離散型確率分布（二項分布）と連続型確率分布（正規分布）／小テスト 第5回：正規分布②：正規分布と標準化／小テスト 第6回：正規分布③：標準正規分布表と信頼係数／小テスト 第7回：統計学的推定①：母平均の推定(1)～母標準偏差が既知の場合／小テスト 第8回：統計学的推定②：母平均の推定(2)～母標準偏差が未知の場合／小テスト 第9回：統計学的推定③：母標準偏差の推定／小テスト 第10回：統計学的検定①：母平均の検定～基本的な考え方／小テスト 第11回：統計学的検定②：母平均の検定～応用と演習／小テスト 第12回：統計学的検定③：母標準偏差の検定／推定と検定の復習／小テスト 第13回：相関分析／小テスト 第14回：回帰分析と線形最小二乗法①～式の導出／小テスト 第15回：回帰分析と線形最小二乗法②～実践と応用／全体の復習／小テスト
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	庄山 紀久子
⑦	成績評価方法等	以下を積算することによって、100点満点で評価します。 ①小テスト（毎週授業の冒頭を実施、主に前の週の授業内容から出題）：2点×14回＝28点 ②宿題（主にその週の授業内容に関する問題演習）：2点×11回＝22点 ③期末テスト：50%

科目名

**プログラミング基礎**

①	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変数を理解し使用できる。</li> <li>・配列について理解し使用できる。</li> <li>・条件判断文を理解し使用できる。</li> <li>・繰り返し文を理解し使用できる。</li> <li>・関数を理解し使用できる。</li> <li>・ファイル入出力について理解する。</li> <li>・オブジェクト指向の概念を理解する。</li> </ul>
②	授業の方法	対面
③	授業内容	農学分野においても、スマート農業の推進にともなうICTの導入により増大するデータを適切に処理することが求められており、プログラミング能力は欠かせないスキルとなっている。本講義では、基礎的なプログラミング技法について解説し、簡単なプログラムを自作できる技術の習得を目指す。プログラミング言語は、scratch言語で基本を習得した後、python言語にも触れる。
④	年間の授業計画	第1回：ガイダンス、プログラミングの基本 第2回：変数と式 第3回：条件判断処理 1 第4回：条件判断処理 2 第5回：繰り返し処理 1 第6回：繰り返し処理 2 第7回：関数 1 第8回：関数 2 第9回：配列 1 第10回：配列 2 第11回：入出力 第12回：演習 1 第13回：演習 2 第14回：演習 3 第15回：課題発表
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	岡山 毅
⑦	成績評価方法等	<input checked="" type="checkbox"/> 講義内課題（100％）により評価する。

科目名

## AI・数理・データサイエンス演習

①	学修目標	(1) 表計算ソフトを用いた基本的なデータ操作を行うことができる。 (2) 表計算ソフトを用いて作成した図表を通じてデータが持つ意味などを正しく読み取れる。 (3) 農学分野におけるデータサイエンスやAIを活用するための基礎的な知見を得る。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	社会的なデジタル化が不可逆的に進んでおり、農学分野においても、AIやデータサイエンスをうまく活用することが求められています。そのための基礎的な方法について、農学分野で扱われる実データ、実課題を題材とし、主にツールとして表計算ソフト（エクセル）を用いた演習形式の授業を実施します。
④	年間の授業計画	<p>第1回：ガイダンス、エクセル使用方法の復習（岡山） 【授業内容】本授業の概要を説明するとともに、基本的なエクセルの使用方法について確認する。</p> <p>第2回：データ可視化（木下） 【授業内容】様々な図表についてエクセルを用いながら説明する。</p> <p>第3回：データ観察（木下） 【授業内容】単回帰・重回帰などについてエクセルを用いながら説明する。</p> <p>第4回：農場の環境データ操作（小松崎） 【授業内容】農場で実際に収集した環境データの操作方法をエクセルを用いながら説明する。</p> <p>第5回：農場で収集したデータ解析（小松崎） 【授業内容】農場で実際に収集した環境データの解析方法をエクセルを用いながら説明する。</p> <p>第6回：インターネットから情報を収集する（長澤） 【授業内容】webサイトからのデータ収集方法とその処理方法について説明する。</p> <p>第7回：農学分野におけるAI事情（岡山） 【授業内容】農学分野で活用がすすんでいるAIについて実例を紹介する。</p> <p>第8回：演習全体の質疑応答（小松崎・木下・長澤・岡山） 【授業内容】講義を通じたまとめを行う。</p>
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	岡山 毅, 小松崎 将一, 長澤 淳, 木下 嗣基
⑦	成績評価方法等	講義内課題（100%）により評価する。

科目名

## AI・データサイエンス入門

①	学修目標	(1) 多様なデータの種類を理解し、データが持つ意味などを正しく読み取れる。 (2) モノのインターネット (IoT) などで収集された多種多様なデータ (ビッグデータ) の機械学習への活用を理解できる。 (3) IoTや人工知能 (AI) が社会に及ぼす影響を説明できる。
②	授業の方法	オンライン授業 (リアルタイム配信型)
③	授業内容	農学分野においても、ICT (情報通信技術)、IoT (モノがインターネット経由で通信すること)、人工知能 (AI)、およびデータサイエンスをうまく活用することが求められます。そのための基礎的な知識について本授業で触れたいと思います。
④	年間の授業計画	第1回「データ・AIによって社会で起きている変化」データサイエンスとは？ 第2回「社会で活用されているデータ」動画・文字・音声などのデータの種類 第3回「データ・AIの活用領域」特に、AIの歴史・現在・将来について 第4回と第5回「データ・AI利活用のための技術」機械学習・ディープラーニング 第6回「データ・AI利活用における留意事項」倫理的話を中心に 第7回「様々な分野における事例紹介」ゲーム、医療、自動運転、芸術、農学分野における事例紹介 (スマート農業について) 第8回まとめ
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	岡山 毅
⑦	成績評価方法等	講義内課題 (100%) により評価する。



科目名

## 農学実習

①	学修目標	生産現場の農作業を通して農業、農学についての基本的概念を体験的に理解できる。日本農業技術検定2級合格程度の技能の習得を目標とする（受験は任意）。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	初年次に履修してきた専門基礎科目（農作業、家畜管理、農業資材、土壌や農地、農業機械、流通や農業経済など）に関連する知識を、国際フィールド農学センターの圃場および施設等を用いた実習を通して深める。
④	年間の授業計画	<p>第1回：シラバスを用いたガイダンス実施・GAPの学習（七夕）</p> <p>第2回：家畜の取り扱い方法と行動制御【DS要素：AI予測技術】／牛舎の衛生管理と微生物を利用したたい肥製造（小針）</p> <p>第3回：田植え体験による作物と農地の特徴を学ぶ（七夕）</p> <p>第4回：ナシの摘果作業を通じ茨城の果樹生産を学ぶ【DS要素：AIとロボット】（小松崎）</p> <p>第5回：甘藷植え付け体験を通じた土壌管理と生態系の学習（七夕）</p> <p>第6回：タマネギの収穫、病害虫観察と貯蔵についての学習【DS要素：データ収集】（佐藤）</p> <p>第7回：農業機械の構造と整備の実際と草刈り機の利用【DS要素：AIとロボット】（小松崎）</p> <p>第8回：農牧場作業でのトラクタの利用の基本【DS要素：AIとロボット】（小松崎）</p> <p>第9回：水稲収穫とイネの品種の学習（七夕）</p> <p>第10回：甘藷つるの管理と有機物管理（七夕）</p> <p>第11回：甘藷収穫から学ぶサツマイモの品質と貯蔵【DS要素：データ収集】（七夕）</p> <p>第12回：果樹の収穫作業とポストハーベスト管理【DS要素：データ収集】（小松崎）</p> <p>第13回：牛舎の衛生管理と微生物を利用したたい肥製造／家畜の取り扱い方法と行動制御【DS要素：AI予測技術】（小針）</p> <p>第14回：タマネギ植付と露地野菜生産【DS要素：データ収集】（佐藤）</p> <p>第15回：まとめ・データ解析演習【DS要素：データ観察、データ可視化】（七夕）</p> <p>DS要素：データサイエンス教育要素</p>
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	七夕 小百合, 小松崎 将一, 小針 大助, 佐藤 達雄
⑦	成績評価方法等	各回の課題75点（各5点×15回）ならびに最終レポート25点により評価する。

科目名

**農作業学**

①	学修目標	授業では、農業生産の現場を強く意識したものであり、農作業について広く理解することをねらいとしている。配布資料を中心としながら、農業機械の利用を前提として圃場や作物、各種生産施設などの学習も積極的に取り入れ、より実践的な知識を身につける。また、データサイエンスに関連した学習内容を身につける。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	農作業システムに求められる課題は、将来にわたって農業生産性、競争力、収益性等の点で優れているとともに、天然資源を保全し、環境の保護に役立ち、健康や食物等の安全性をも増進するような農業の実現に寄与することである。本授業では、今までの農業機械化体系技術を越えて、資源・環境の保全と健康・安全食物の生産・供給の両立という要請に応えた農作業システムのあり方について理解を深める。また、データサイエンス学修要素を取り入れ、農作業と農業環境理解を深める。
④	年間の授業計画	<p>第1回：農作業システムの特徴</p> <p>第2回：農業機械化システム</p> <p>第3回：作付体系と耕地生態系</p> <p>第4回：農作業におけるエネルギー利用</p> <p>第5回：土壌管理と農作業（アクティブラーニング：討論）</p> <p>第6回：主な農作業体系（稲作）(DS要素: データ分析)</p> <p>第7回：主な農作業体系（畑作）(DS要素: データ分析)</p> <p>第8回：主な農作業体系（露地野菜作）(DS要素: データ収集 IoT)</p> <p>第9回：環境保全と農作業</p> <p>第10回：農業経営規模と機械システムのデータ解析(DS要素: データ分析)</p> <p>第11回：農業機械の利用と人間工学</p> <p>第12回：農作業の担い手教育</p> <p>第13回：地球環境と農作業システム</p> <p>第14回：農業生産システムの評価</p> <p>第15回：農作業学の役割と将来（アクティブラーニング：討論）</p> <p>DS要素：データサイエンス教育要素</p>
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	小松崎 将一
⑦	成績評価方法等	2回程度の中間レポートおよび最終レポートにより判定する。中間レポートと最終レポートは、それぞれ50点づつとする。

科目名

## 生物生産機械学

①	学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械力学・機械要素の基礎を学ぶ。</li> <li>・生物生産機械の内燃機関を中心としたエネルギー利用について理解する。</li> <li>・生物生産機械の構造と役割を理解する。</li> <li>・精密農業・スマート農業における生物生産機械の役割を理解する。</li> </ul>
②	授業の方法	対面
③	授業内容	生物生産機械全般について平易に解説する。生物生産機械の内燃機関を中心としたエネルギー利用についても解説する。生物生産機械の分類と生物生産機械の構造について、対象作物ごとに解説を行うとともに、種々の生物生産機械の役割について明らかにする。また、昨今話題となっているスマート農業にも触れる。
④	年間の授業計画	<p>第1回：本授業の概要</p> <p>第2回：農業の機械化</p> <p>第3回：機械力学の基礎</p> <p>第4回：機械要素の基礎</p> <p>第5回：ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン</p> <p>第6回：電動機</p> <p>第7回：トラクタの構造と機能、けん引性能</p> <p>第8回：耕うん・整地用機械</p> <p>第9回：収穫・調整用機械</p> <p>第10回：選果機（DS要素: データ分析）</p> <p>第11回：機械化作業の安全</p> <p>第12回：機械化計画</p> <p>第13回：精密農業</p> <p>第14回：スマート農業（DS要素: AIの応用分野）</p> <p>第15回：未来の生物生産機械（グループ発表）</p> <p>DS要素: データサイエンス教育要素</p>
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	岡山 毅
⑦	成績評価方法等	小テストもしくは小レポート：90点（各10点×9回程度）／グループ発表 10点

科目名

**地理情報学**

①	学修目標	地理情報学に関連した情報技術の知識獲得と、現代の地図作成において欠かせない要素であるリモートセンシングの技術に関しての理解をおこなう。特に、地理情報学の概念の理解と技術の習得を行う。
②	授業の方法	対面
③	授業内容	地理情報学とはコンピュータで取り扱う地図に関する学問である。コンピュータ上で様々な地図を用いることで、新しい情報を容易に得ることができる。しかし、そのためには地図に関する様々な知識が必要となる。その知識を学ぶとともに、地理情報とは密接な関係にあるリモートセンシングの解説をおこなう。
④	年間の授業計画	<p>第1回：ガイダンスとGISの基本概念 シラバスを用いた授業の概要説明と、GISの基本的な概念を解説する。</p> <p>第2回：GISの基本動作 本講義で用いるソフトウェアQGISの基本的な使い方について解説する。</p> <p>第3回：データベース (DS要素: データベース) 地理情報システムを理解するうえで必要となるデータベースの基礎について学ぶ。</p> <p>第4回：地図データと属性データ (DS要素: 収集) 空間参照系についての理解を行うとともに、インターネット上のデータの紹介をする。</p> <p>第5回：空間データ 測地系、投影系について解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第6回：空間データの統合・修正 (DS要素: データ加工) 空間データの加工について解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第7回：視覚的伝達 (DS要素: データ可視化) 可視化の基本な方法について解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第8回：空間解析 (DS要素: データ分析) 空間データの操作やオーバーレイ分析などの解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第9回：領域分割 (DS要素: データ加工) バッファリングや分割についての解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第10回：点データ分析 (DS要素: データ分析) 点データの視覚的分析と、数理的解析を行い、演習に取り組む。</p> <p>第11回：ラスタデータ分析 (DS要素: データ分析) 標高データを用いた様々な分析方法の解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第12回：ネットワーク解析 (DS要素: データ分析) 最短距離検索やネットの分割、到達圏分析などについて解説を行い、演習に取り組む。</p> <p>第13回：リモートセンシングの技術 リモートセンシングの技術のうち、センサーについての基礎的な解説を行う。</p> <p>第14回：リモートセンシングのデータ処理 リモートセンシングと人工衛星の関係について基礎的な解説を行う。</p> <p>第15回：各種のリモートセンシング画像とまとめ リモートセンシング画像の処理について解説を行う。</p> <p>期末試験</p> <p>DS要素：データサイエンス教育要素</p>
⑤	単位数	2
⑥	担当教員	木下 嗣基
⑦	成績評価方法等	レポート70%、期末試験30%

科目名

## 農業気象学

①	学修目標	日本および世界の食料生産と気候・気象との関係について理解すること。具体的には以下のような基礎的な問いに答えられるようになること：過去において気候・気象が世界および日本の食物生産にどのように影響を与えてきたか？；気候・気象はどのようなメカニズムで食物生産に影響を与えるか？；将来の気候変動はどの程度で、それがどのくらい現在の食料生産を変化させるか？
②	授業の方法	オンライン授業（リアルタイム配信型）
③	授業内容	日本および世界の作物生産と気候・気象の関係について概説する。気候・気象は作物生産を決定する重要な要因の一つである。本講義では、作物生産が気候・気象によってどのように影響を受けるかについて、過去の事例や統計データ、作物生理の観点から解説する。また本講義では、近年その影響が懸念されている将来の温暖化・気候変動についても最新の研究結果をもとに解説する。
④	年間の授業計画	第1回：農業気象学とは？ 第2回：作物生産と気候・気象の関係 第3回：発育と環境 第4回：放射 第5回：光合成 第6回：呼吸 第7回：熱・物質・運動量の輸送 第8回：エネルギー収支および定期試験
⑤	単位数	1
⑥	担当教員	木下 嗣基
⑦	成績評価方法等	定期試験(100%)

令和4年4月1日（金）  
農学部学務グループ

農学部履修案内の正誤表

下記のとおり、誤りがございましたので、訂正いたします。

【農学部履修案内】

(1) 教育職員免許状取得のための履修案内

- ①「Ⅲ. 免許状取得に必要な単位数」1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（本学基盤教育科目）の表部分

(正) 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作

(誤) 情報機器の操作

※ 要件単位数には変更はありません。

- ②「教育の基礎的理解に関する科目」の表部分

(正) 教職概論 A：水戸 前学期木3

(正) 教職原理 A：水戸 前学期月4

(誤) 教職概論 A：水戸 前学期木3、木5

(誤) 教職原理 A：水戸 前学期集中

- ③「3. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の表部分

(正) ICTを活用した教育の理論及び方法 が追加

(誤) 記載なし

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
総合的な学習の時間の指導法	1	※	阿見（未定）	必要
特別活動論	1	※	阿見（未定）	必要
教育の方法と技術 A	2	2	阿見（未定）	必要
生徒指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2	※	阿見（未定）	必要
教育相談 A	2	※	阿見（未定）	必要
ICTを活用した教育の理論及び方法	1	3	阿見（未定）	必要

学生番号	
氏名	

令和4年度  
農学部履修案内

茨城大学農学部

**【この冊子について】**

- ・この冊子は令和4年度入学者を対象に作成されています。入学年度によって掲載内容が異なることがありますので、注意してください。
- ・この冊子に掲載されている内容は変更される場合がありますが、その際は、掲示などで周知しますので、見落としのないよう注意してください。
- ・この冊子は卒業するまで大切に保管するようにしてください。紛失しても、再度の配付は行いません。



**【Memo】**

A large rectangular area with rounded corners, containing 25 horizontal lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the box. The box is empty, ready for text input.

# 目 次

茨城大学農学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	iv
I 農学部の教育課程	1
1. 単 位	3
2. 履修手続	4
3. 履修上の注意	5
4. 試験およびレポート提出における注意	6
5. 成 績	7
6. 在学年限・修業年限	9
7. 学籍の異動	10
8. 早期卒業制度	11
9. 農学部カリキュラム	12
10. 入学前の既修得単位認定について	14
11. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について	14
12. 農学部において取得できる資格等	15
II 専門科目課程表	17
1. 水戸キャンパス開講の農学部専門科目	19
2. 阿見キャンパス開講の基盤教育科目	19
3. 食生命科学科 国際食産業科学コース	20
4. 食生命科学科 バイオサイエンスコース	22
5. 地域総合農学科 農業科学コース	24
6. 地域総合農学科 地域共生コース 環境保全学系	26
7. 地域総合農学科 地域共生コース 工学系	28
8. 地域総合農学科 地域共生コース 社会科学系	30
9. AIMS関係科目	32
10. 地域志向教育プログラムにおける5学部混合地域PBL科目	32
11. 教育職員免許状取得のための履修案内	33

Ⅲ	教育プログラム	43
	アントレプレナーシップ教育プログラム履修要項	45
	地域志向教育プログラム履修要項	47
	地域協創人材教育プログラム履修要項	49
	グローバル英語プログラム履修要項	51
	A I M S プログラム履修要項	56
	食品衛生管理者等任用資格プログラム履修要項	58
	農学分野データサイエンス教育プログラム履修要項	60
Ⅳ	学生生活	63
	1. 保健室	65
	2. 保険制度	66
	3. 困りごとや悩みごとの相談	66
	4. ハラスメントの相談	67
	5. 修学および学生生活上の相談	68
	6. 農学部における学生支援	69
付録		71
	1. 共通教育棟1・2号館（1階）配置図	73
	2. 阿見地区（農学部）配置図	74
	3. 農学部講義棟、こぶし会館平面図	75
	4. フードイノベーション棟平面図	76
	5. 農学部事務棟、実験研究棟平面図	77
	6. 茨城大学農学部オフィスアワー（令和4年度）	81
	7. 各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）	83

# 茨城大学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

## ○ディプロマ・ポリシー

茨城大学の教育目標は、変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことができる総合的人間力を育成することである。そのために茨城大学の学生が卒業する時に身に付けているべき能力を、以下に示す5つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー(卒業基準)として定める。これら5要素の比重は分野毎に異なるが、茨城大学を卒業する学生は、どの分野で学んだとしてもこれらの知識・能力を備えていることが必要である。

- ① (世界の俯瞰的理解) 自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解
- ② (専門分野の学力) 専門職業人としての知識・技能および専門分野における十分な見識
- ③ (課題解決能力・コミュニケーション力) グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力
- ④ (社会人としての姿勢) 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性
- ⑤ (地域活性化志向) 茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

## ○カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに示す茨城大学の教育目標を実現するためカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を以下に示す。

- ① (教育課程の編成) ディプロマ・ポリシーで定めた5つの能力を育成するため、共通教育と専門教育からなる4年あるいは6年一貫の体系的な教育課程を編成する。
- ② (課題解決能力の育成) 課題解決力を育み、学生が自らの理想に基づいた将来を切り拓く基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するため、共通教育及び専門教育でそれぞれの特徴を生かしたアクティブ・ラーニング科目を充実させる。
- ③ (実践的英語能力の養成) グローバル化が進む地域や職域での活動を支える実践的英語能力を共通教育、及び専門分野に即した形で専門教育において養成する。
- ④ (地域・国際志向と態度を育成する教育の推進) 共通教育及び専門教育のそれぞれにおいて、地域の理解と国際的な視野を育み、異なる地域や分野、文化的背景をもった人達とのコミュニケーション力や協働性を育成する科目を充実させる。
- ⑤ (教育の質の保証) 丁寧な学修ガイドにより学生の主体的な学びを促進し、単位の実質化を図るとともに、各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行う。学修成果の可視化に努め、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を推進する。

\*ディプロマ・ポリシー (DP) とは、卒業基準・学位授与の方針を意味する。

\*カリキュラム・ポリシー (CP) とは、教育課程の編成・実施方針を意味する。

# 農学部ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

## 農学部ディプロマ・ポリシー

茨城大学農学部の教育目標は、国際的な視点による食料・食品の高度化及び農業を核とした新産業創出に主体的かつ意欲的に取り組み、地域の農業と地域コミュニティの活性化を支える実務型農学系人材を育成することである。そのために、茨城大学が卒業生に求める資質に加え、農学部の学生が卒業時に身に付けているべき5つの能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

**【世界の俯瞰的理解】**多様な文化と価値観を持って、グローバル社会における農業・食料問題を包括的に理解している。

**【専門分野の学力】**総合科学としての農学分野の専門知識と技術を修得している。

**【課題解決能力・コミュニケーション力】**「生命を支える食料と食品」の課題を科学的視点から多面的に検討し、他者と協調しながら解決する能力を修得している。

**【社会人としての姿勢】**農学系専門職業人として、生涯にわたり主体的に学び続け、自然との共生社会の実現に貢献する意欲を有する。

**【地域活性化志向】**獲得した専門性を活かし、地域社会の持続的発展に寄与する意欲を有する。

## 食生命科学科ディプロマ・ポリシー

食生命科学科では、上記の農学部ディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

**【専門分野の学力】**動植物や微生物の生命現象に関する基礎を理解し、生命科学や食品科学に関する専門知識と技術を修得している。

**【社会人としての姿勢】**修得した知識や技術を、生物機能の高度利用や安全な食料・食品の生産、供給へと展開していくことができる総合力や創造力を修得している。

**【課題解決能力・コミュニケーション力】**高度職業人として様々な問題に対峙し、生命科学分野や食品分野で国際的に活躍できる思考力や語学力を修得している。

## 地域総合農学科ディプロマ・ポリシー

地域総合農学科では、上記の農学部ディプロマ・ポリシーに加えて、以下の能力をディプロマ・ポリシーとして定める。

**【専門分野の学力】**食や農に関する生産から販売までの一貫した専門知識・技能を修得している。

**【課題解決能力・コミュニケーション力】**地域社会の抱える課題を正確に把握する力を修得している。

**【地域活性化志向】**茨城県を中心とする関東圏北部を題材に地域産業振興や地域の発展に貢献できる思考力と行動力を身に付けている。

## 農学部カリキュラム・ポリシー

茨城大学農学部の教育目標を実現するためのカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである。

**【教育課程の編成】**ディプロマ・ポリシーに定めた5つの能力を育成するために、基盤教育科目と専門科目からなる4年間の体系的な教育課程を編成する。

**【課題解決能力の育成】**地域社会と連携した農学教育により、グローバル社会における課題に対峙するための深い洞察力と多面的視野による課題解決能力を醸成する。

**【実践的英語能力の育成】**基盤教育科目による英語の基礎力を礎に、農学系専門職業人としてグローバルに活躍するために必要な専門用語等に関する英語力を主に専門科目において学修させる。

**【地域理解と国際理解を育成する教育の推進】**地域及び海外をフィールドにした体験型実習や講義により社会の多様性を理解し、複雑な現代社会の課題を解決するための協調性、コミュニケーション能力等の汎用性能力を醸成する。

**【教育の質の保証】**学修時間の確保と厳格な成績評価により単位の実質化と可視化を図るとともに、教職員と学生の相互協力と点検により、変化が著しい農学分野に対応して不断の教育改善を推進する。

## 食生命科学科カリキュラム・ポリシー

食生命科学科では、上記の農学部カリキュラム・ポリシーに加えて、以下のカリキュラム・ポリシーを定める。

**【教育課程の編成】**生物の機能や生物資源の高度な利用法について理解させるために、動物、植物及び微生物についての生命現象、及びそれらの分子レベルから個体レベルに至る相互作用に関する基盤的な講義科目と発展的な専門講義科目、及び実験科目を体系的に学修させる。

また、食品の加工・流通の分野で国際的に活躍できる人材を育成するために、食品科学に関する知識・技術について、基盤的な講義科目と発展的な専門講義科目、及び実験科目を体系的に学修させる。

**【課題解決能力の育成】**生命科学や食品科学に関する専門知識と技術を修得させ、さらに卒業論文研究やゼミナール等を通して、バイオテクノロジーを駆使した生物機能の高度利用や安全な食料・食品の生産、供給に関する様々な問題を解決するための能力を育成する。

**【実践的英語能力の育成】**生命科学や食品分野で国際的に活躍できる思考力、語学能力を身に付けた農学系専門職業人を育成するために、その分野に関する実践的な英語教育を行う。

## 地域総合農学科カリキュラム・ポリシー

地域総合農学科では、上記の農学部カリキュラム・ポリシーに加えて、以下のカリキュラム・ポリシーを定める。

**【教育課程の編成】**農業生産に関する知識・技術から食料政策、農地や水の保全にわたる教育体系を整備するとともに、社会科学系科目を織り込んだ文理融合型の教育課程として農業科学コースと地域共生コースを編成する。農業科学コースでは農作物の生産と利用、品種改良及び病虫害防除等の植物防疫に関する専門的知識や技術の修得を目的とした教育を行う。また、地域共生コースでは農業や農村の持続的発展を実現するために、地域の農業生産力向上、新産業創出・地域づくりに必要な専門的知識や技術の修得を目的とした教育を行う。

**【課題解決能力の育成】**農産物の生産から加工・流通に至る1次産業から3次産業までの過程を総合的に理解させる分野横断型教育課程を編成する。この課程では農学の専門知識及び技術を総合的に活用し地域の課題を解決するとともに社会の創生・発展に繋げる思考力・行動力を養うための教育を推進する。

**【地域理解と国際理解を育成する教育の推進】**地域を題材にした課題解決型実習科目や海外のインターシップにより、地域の多様な課題を抽出し分析する能力を育成する。

# I 農学部<sup>の</sup>教育課程





## 1. 単 位

### (1) 学期と授業

茨城大学では、4月1日から9月20日までを前学期、9月21日から3月31日までを後学期としています。授業は学期(セメスター)を通して実施されるもの、各学期をさらに半分に分け、1年間を4つの期間に分けたクォーターで実施されるものがあります。その他に、学期の区分を超え、年度を通じて実施される通年授業(通年科目)、また学期中の平日、土・日曜日、祝日又は休業期間中に集中的に実施される集中授業(集中科目)があります。

### (2) 授業時間

授業時間は1講時当たり90分です。各講時の開始時刻及び終了時刻は次のとおりです。

講 時	1	2	3	4	5
授業時間	8:40～10:10	10:20～11:50	12:40～14:10	14:20～15:50	16:00～17:30

### (3) 単位と学修時間

各授業は、45時間の学修を必要とする内容(予習・復習など授業時間外学修を含む)をもって1単位と定められています。授業は講義・演習(1時間の授業につき、2時間の予習・復習を必要とするもの)と実験・実習・実技(2時間の授業につき、1時間の予習・復習を必要とするもの)によって構成されています。

講義・演習については、15回の授業をもって2単位とし、実験・実習・実技については、15回の授業をもって1単位とされます。なお、大学での授業で1回(1講時:90分)は2時間の学修として計算されます。

授業の種類	週1講時	時間数の内訳	
	(2時間×15週)	大学における授業時間	授業時間外学修(予習・復習)
講義・演習	2単位	30時間	60時間
実験・実習・実技	1単位	30時間	15時間

※受け身で学ぶ高校までの「学習」と異なり、大学での主体的な学びは「学修」と呼ばれる。学修時間には授業時間以外に、授業のための事前準備、事後の展開などに要する時間が含まれており、1単位当たりの学修時間は45時間となっている。

### (4) 単位の修得

授業を履修し、その試験等の成績が合格となった場合は、所定の単位が与えられます。ただし、単位を修得するためには、原則として授業の出席時数が、その授業科目の総授業時間数の3分の2に達する必要があります。この授業総時間数の3分の2の出席時数は、授業内容を理解するために必要と判断される最低限の時間数であるため、真にやむを得ない事情による欠席であっても出席扱いとはなりません(大学として公欠の制度はありません)。

授業における欠席について疑義がある場合は、授業担当教員へ直接問い合わせてください。

※真にやむを得ない事情とは、原則として疾病(法定伝染病、インフルエンザ等)、両親等の死亡、交通機関の運行停止(遅延)によるものとする。これ以外の事情がある場合は、担当教員の判断による。

※法定伝染病…麻しん(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん(三日はしか)、水痘(水ぼうそう)

## 2. 履修手続

### (1) 履修科目の登録

履修登録期間中に教務情報ポータルシステム「Dream Campus」において、履修登録をしてください。履修登録期間後には、「履修登録修正期間」が設けられています。この期間中は、Dream Campus で履修登録内容を修正することができます。登録内容に誤りがないか、必ず確認してください。

卒業論文など通年開講の授業科目については、前学期の履修登録期間に登録してください。後学期に再度登録する必要はありません。また、複数のクォーターにわたって開講される授業科目の履修登録に当たっては、授業が始まるクォーターの履修登録期間内に履修登録してください。

(例) 第2、第3クォーターにわたって開講される授業科目の履修登録

⇒ 第2クォーターの履修登録期間内に履修登録する

**【履修登録期間及び修正期間】**(集中科目については次の**【集中科目の履修登録について】**)に記載)

履修登録期間は前学期、後学期にそれぞれ約2週間設けられています。また、第2クォーター開講科目及び第4クォーター開講科目については開講前に別途履修登録期間が約1週間設けられています。詳細は、掲示などで確認してください。

教務情報ポータルシステム「Dream Campus」に履修登録されていない場合、成績は認められません。履修登録情報は、Dream Campus の「履修時間割」の表示画面で確認してください。

### **【集中科目の履修登録について】**

2年次以降に開講される専門科目の中には集中科目として開講される科目があります。集中科目については、科目によって履修登録期間が異なりますので、シラバスの履修上の注意やガイダンス、掲示板等で確認の上、指定された期間に必ず履修登録してください。

### (2) 他学部の専門科目の履修について

他学部の専門科目を履修する場合は、各学期の履修登録期間中に、「他学部専門科目の履修届」にて履修する授業科目とその理由を農学部学務グループまでお知らせください。もしお知らせがなかった場合には、履修登録は認められません。

### (3) 履修登録の追加登録及び削除について

Dream Campus での履修登録期間及び修正期間終了後、追加で履修したい科目又は履修を取り消したい科目がある場合は、「追加(削除)履修登録申請書」に必要事項を記入し、指定の期限までに学務グループまで申請手続を行ってください(詳細は別途掲示等によりお知らせします)。期限を過ぎた場合の申請については、原則、認められませんので、注意してください。なお、集中講義の申請期限については、原則として講義最終日となりますが、講義最終日が土曜日、日曜日及び祝日の場合は、その直前の平日が申請期限となります。ただし、実験系の科目等一部の科目については、原則に依らず別途履修取消期日が設定される場合があります。シラバスの履修上の注意やガイダンス、掲示板等で事前に確認してください。また、基盤教育科目及び他学部専門科目では異なることがあるので、注意してください。

履修登録を取り消す場合、履修取消手続を行わない科目は成績評価の対象となります。履修取消期限経過後にやむを得ない事情(病気、事故等)により履修の登録を取り消したい場合は、学務グループに申し出てください。

### (4) 履修上限単位(CAP制)

1単位当たりに必要な学修時間(45時間)を確保し、各年次にわたって適切に履修することで学修の質を向上させることを目的とし、履修上限単位(CAP制)を設けています。1年間で履修登録できる上限単位数は46単位です。これには、単位互換協定を結ぶ他大学等における履修も履修上限単位数に含まれます。

ただし、卒業要件外科目・集中授業についてはこの限りではありません。

### 3. 履修上の注意

#### (1) 掲示

大学から学生への通知・連絡事項は、所定の掲示板上に掲示されます。掲示を見なかったため必要な手続きを怠り、不利益を被ることのないよう、大学に来た際は毎回必ず掲示を見るようにしてください(主な掲示内容: 休講、補講、集中授業、呼び出し、その他)。

なお、休講情報や大学からの連絡事項の一部は、**Dream Campus** からも確認できます。

#### (2) メール

大学から学生一人ひとりに割り当てられたメールアドレスは、授業の連絡で使用される以外に、大学から履修や学生生活に関する通知・連絡事項がある際に随時使用されます。情報を見落とすことがないよう、普段からメールを確認する習慣をつけておいてください。

#### (3) シラバス

シラバスには授業科目名、担当教員、各回の授業内容、履修上の注意、成績の評価方法などが記されています。履修科目の選択に当たって、適宜、**Dream Campus** 上にあるシラバスを参照してください。

#### (4) 休講

大学行事又は授業担当教員のやむを得ない事由によって授業が行えない場合には、休講とします。また、台風等の自然災害に対して、事故の発生を未然に防止するために、大学が休講措置を講ずることがあります。休講措置に関する情報は、大学ホームページ、**Dream Campus** 及び掲示にてお知らせします。

#### (5) 補講

授業が休講となった場合は、別に日時を定めて補講を行います。日時、教室などは掲示等で連絡します。

#### (6) 集中科目

集中授業は、授業の種類(講義、演習、実験、実習、実技)によらず、随時、集中的に実施されます。必修の実験科目などが集中授業として開講されることもありますので、授業日程には注意してください。なお、集中授業の授業日程等は、その都度掲示でお知らせします。集中授業と通常授業の授業日程が重複する場合がありますが、この場合でも、通常授業の欠席について特段の配慮(通常授業を出席扱いとするなど)がなされるわけではありませので、授業日程に十分留意した上で履修してください。

#### (7) 呼び出し

担当する教職員より、メールや電話による連絡以外に、呼び出しの掲示がされることがあります。呼び出しがあった際は、速やかにその指示に従ってください。

#### (8) 遅刻と早退の取り扱い

各授業は全て出席することが前提で、既述のとおりいかなる事由による欠席も出席扱いとはなりません。併せて、途中入室(遅刻)及び途中退室(早退)をすると、欠席時数に含まれます。原則として、30分以上の遅刻及び早退はその時間帯は「欠席」に、30分未満の遅刻及び早退は計3回ごとに1回分の欠席となりますので、注意してください。

#### 4. 試験およびレポート提出における注意

##### (1) 期末試験

期末試験は、原則として授業の最終回に行います。期末試験を受験するためには、履修科目の授業総時間数の3分の2以上の出席時数が必要です。なお、期末試験の時間割は1週間前までに掲示されます。

出席時数に関する取り扱いについては各授業担当者に確認してください。

##### (2) 追試験

期末試験を疾病、両親等の死亡、交通機関の運行停止、その他やむを得ない事情により欠席した者は、診断書その他事由を証明するものを添え、期末試験終了後1週間以内に学部長に願い出て追試験を受けることができます。追試験を希望する場合は、農学部学務グループに問い合わせてください。

##### (3) 試験等受験者心得

試験等の受験に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。
- ② 試験開始後30分までは退室を認めない。
- ③ 受験に当たっては学生証を机の右上に置くこと。学生証を所持しない学生は、受験を認めない。
- ④ 机の上に置けるものは、学生証の他、筆記具(筆箱は含まない)、消しゴム、時計(時計機能のみ)とし、その他は、試験監督者の指示に従いかばん等に見えないように収納すること。ただし、試験監督者が認めたものは置いてよい。
- ⑤ ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する学生は、試験監督者に申し出て許可を受けてから使用すること。
- ⑥ 試験室内では、携帯電話等の電子機器類の電源は切り、かばん等に見えないように収納すること。
- ⑦ 以下は不正行為に該当するので、疑わしい行為はしないこと。
  - ア. 身代わり受験をさせること。
  - イ. カンニングペーパーを使用すること又は試験監督者から指示のない書籍、機器等による情報等を参照し解答すること。
  - ウ. 他者の答案を見ること又は解答を尋ねること。
  - エ. 試験監督者の注意又は指示に従わないこと。
  - オ. 前アからエに掲げる行為を幫助すること。
  - カ. その他公正な試験を妨げると認められる行為。
- ⑧ 授業中における小テスト等についても、試験監督者からの指示以外は上記を準用する。
- ⑨ 上記によりがたい場合は、試験監督者の指示を仰ぐこと。

##### (4) レポート等の作成における留意事項

成績評価の対象となるレポート等の作成において、以下の行為を行った場合は不正行為に該当するので留意すること。

- ア. 作成において、捏造(存在しないデータを使って、調査・研究結果等を作成すること)、改ざん(データ、調査・研究によって得られた結果等を事実でないものに変更すること)、盗用(インターネット上に掲載されている情報のコピー&ペーストなど、他人のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文、著書等の内容を流用し、適切な表示をしないこと)を行うこと。
- イ. 他者のレポートを自分のものとして提出すること。
- ウ. 前ア及びイに掲げる行為を幫助すること。
- エ. その他公正な成績評価を妨げると認められる行為。

##### (5) 不正行為による処罰

試験等において不正行為をした学生及びこれを幫助した学生は、学則に基づき懲戒処分となり、当該学期に履修するすべての授業科目の単位(他の大学又は大学以外の教育施設等による学修を含む)が認定されません。また、認定されなかった授業科目のGPは「0」として学期GPA及び通算GPAに算入されます。併せて、「停学」等の懲戒が課され、修業年限内で卒業することが難しくなります。

## 5. 成績

### (1) 成績の評価

- ① 成績の評価は原則として、A+、A、B、C、Dの5段階です。A+からCを合格とし、所定の単位が与えられます。Dは不合格とし、単位が与えられません。また、成績の評価方法は授業科目ごとに異なるので、シラバスで確認してください。

区分	評点基準	評価の内容
A+	90 ~ 100	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80 ~ 89	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70 ~ 79	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60 ~ 69	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

※単位認定による評価の場合、上記以外にNの評価がある。点数に基づかない合格を表す評価となる。

- ② 成績には、A+、A、B、C、Dの評価の他、「欠試」があります。欠試の成績評価は、総授業時間数の3分の2以上の出席時数を満たしながら、試験を受験しなかった又はレポートを提出しなかった場合に記録されます。欠試及びD評価の科目は「成績通知表」には掲載されますが、「成績証明書」には単位を修得した授業科目名、単位数及びA+、A、B、Cの評価のみが掲載されます。
- ③ 「D」又は「欠試」となった授業科目は、次年度以降に再び履修することができます。
- ④ 専門科目では同じ授業科目を2回以上履修しても、すでに単位を修得している場合は、新しい単位として認められません。ただし、単位の累加が認められているものは、この限りではありません。単位の累加が認められる授業科目については、各カリキュラムの課程表を参照してください。
- ⑤ 一つの授業科目について、所定の単位数の一部のみを与えることはできません。
- ⑥ 一度修得した単位及び評価は取り消すことができません。

### (2) 成績報告期限および成績確認可能日

農学部の専任教員が担当する授業科目については、原則として次のとおり取り扱います。正式な期限は、必ず当該年度の授業カレンダー及び掲示にて確認してください。また、成績は教務情報ポータルシステム「Dream Campus」で確認可能です。

#### 【授業担当教員の成績報告期限】

[前学期]9月卒業予定者受講の授業科目：8月の第3又は第4週のいずれかの日

上記以外の授業科目：8月末日

[後学期]最上位学年：2月第3又は第4週のいずれかの日

最上位以外の学年：2月末日

※当該日が土日祝日の場合は、翌日に繰り越します。

#### 【成績確認可能日】

掲示等によりお知らせします。

### (3) GPA 制度

GPA(Grade Point Average)とは、個々の学生の学修時間当たりの学習到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目の GP(Grade Point)に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値(Average)をいいます。

当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としての「学期 GPA」と在学中の全期間における指標としての「通算 GPA」の二つがあります。不合格科目を再履修して合格となった場合、「通算 GPA」は再履修した科目の成績に置き換えて再計算されます。

#### 【本学における GPA の算出方法】

$GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) / 10$  ただし、 $GP = 0.5$  未満は 0.0 とする。

※授業科目の得点が 90 点のとき、当該科目の GP は「3.5」になります。

※授業科目の得点が 59 点のとき、当該科目の GP は「0.0」になります。

$GPA = (\text{履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修科目の総単位数}$   
(GPA は小数点第 3 位を四捨五入し、第 2 位までを表示)

※卒業要件外(教職科目含む)の科目は GPA に算入されません。

※履修取消期日までに履修登録を取り消した科目は GPA に算入されません。

#### 【GPA の通知及び記載】

学期 GPA 及び通算 GPA は、教務情報ポータルシステム「Dream Campus」の画面及び成績表に記載されます。また、成績証明書には、通算 GPA のみが記載されます。

### (4) 成績証明書の発行

前学期の成績は9月中旬、後学期の成績は3月中旬に成績証明書に反映される予定です。成績証明書を発行する場合には、証明書自動発行機を利用してください。証明書自動発行機の稼働時間は、平日の午前8時30分から午後6時です。メンテナンス等により、証明書が発行できない場合がありますので、必要な場合は早めに発行するように心掛けてください。成績証明書は、授業料免除申請や各種奨学金の出願時、また就職活動において企業等から提出書類として求められる場合があります。

### (5) 成績評価に関する異議申立制度

#### 1) 成績評価に関する問合せ

成績評価について疑義のある場合は、学務グループを通じて授業担当教員に問い合わせることとなります。学生からの問合せに対して、授業担当教員は原則として 10 日以内(土日、祝日を除く。)に説明することとしています。

上記の問合せの期限は、当該授業科目が開講された学期の次の学期開始後 20 日以内(土日、祝日を除く。)です。休学又は留学のため問合せを行うことができない場合は、復学又は帰国後 20 日以内(土日、祝日を除く。)が問合せの期限となります。

ただし、最終年次の問合せ期限については、成績確認可能日から 3 日以内です。当該授業が開講された学期中に成績報告がされていない授業の問合せ期限等については、別途掲示等でお知らせします。

## 2) 成績評価に対する異議申立て

上記1)の成績評価に関する問合せをした学生は、次の①～③のいずれかに該当する場合に限り、成績評価に対する異議を申し立てることができます。

- ①授業担当教員の成績評価の誤記入等が疑われる場合
- ②シラバスに記載された到達目標、成績評価基準及び成績の評価方法に照らし、評価に疑義がある場合
- ③授業担当教員の不誠実対応等により上記1)の期限までに回答がない場合

成績評価に対する異議申立てをする学生は、学務グループに申し出てください。

成績評価に対する異議申立ての期限は、上記1)の問合せに対する授業担当教員からの説明又は回答を受けた日から10日以内(土日、祝日を除く。)です。ただし、③の場合には、上記1)の問合せをしてから15日以内(土日、祝日を除く。)が申立ての期限となります。

成績評価に対する異議申立てがなされた場合、農学部教務委員会において学生及び授業担当教員の双方から事情及び意見等を聴取するとともに、根拠資料の提出を求めます。その上で、どちらの主張に妥当性があるかを判断します。

## 6. 在学年限・修業年限

### (1) 在学年限

学生の在学年限は、8年です。この期間を超えて在学することはできません。停学期間は在学年限に算入されますが、休学期間は在学年限に算入されません。なお、編入学者の在学年限は、4年となります。

### (2) 修業年限

学生の修業年限は、早期卒業を除き、通常4年です。休学期間は修業年限に算入されません。なお、編入学者の修業年限は、2年です。

### (3) 9月卒業

早期卒業の要件を満たした場合、又は修業年限内に単位未修得のため卒業できなかった者が、次年度の前学期に卒業要件を満たした場合は9月卒業者となります。卒業要件を満たした場合は、卒業者として扱われるので注意してください。

## 7. 学籍の異動

### (1) 休学

疾病その他の理由により、2か月以上修学することができない場合は、学長の許可を得て休学することができます(休学が認められる期間は2か月以上1年以内の期間で学期単位)。

なお、特別な理由により、1年を限度として休学期間を延長することができます。通算して4年を超えることはできません。休学期間は、修業年限及び在学年数に算入されません。このことは、例えば半年間休学をした場合には、その分、卒業時期が延びることを意味するので十分注意してください。

#### 【休学手続】

学務グループで休学理由等を申し出た上で「休学願」を受け取り、保証人及び学生担任との相談を経て、書類を作成し、学務グループへ提出してください(病気の場合は医師の診断書が必要)。

「休学願」の提出期限等は次のとおりです。

(例) (休学する期間)	(提出期限)	(授業料の取扱い)
4月1日～翌年3月31日	原則として2月末日	前・後学期分免除
9月21日～翌年3月31日	原則として8月末日	後学期分免除

#### 【休学の延長】

特別な理由により、引き続き休学を希望する場合は、改めて休学の手続きを行うことになります。

### (2) 復学

休学期間の満了に伴い復学する時は、休学期間の満了前に「復学届」を提出して復学することができます。休学期間中に休学事由が解消したことで復学する時は、「復学願」を提出して学長の許可を得て復学することができます。

#### 【復学手続】

学務グループで「復学届(願)」を受け取り、学生担任等との相談を経て学務グループへ提出してください(病気回復による復学の場合は医師の診断書が必要)。「復学届(願)」の提出期限は、原則として復学する1か月前までとしますので、注意してください。また、復学後は、所定の期日までに所定の授業料を納入してください。

### (3) 退学

疾病その他やむを得ない事情により退学しようとする場合は、学長の許可を得て退学することができます。

#### 【退学手続】

学務グループで退学理由等を申し出た上で「退学願」を受け取り、保証人及び学生担任との相談を経て、書類を作成し、学務グループへ提出してください。

### (4) 除籍

次の事項に該当する学生は、学長が除籍します。

所定の在学期間を超えた者

疾病その他の理由により成業の見込みがないと認められた者

授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

学則第16条第4項に規定する入学料を納入しない者

死亡又は行方不明の者



## 8. 早期卒業制度

早期卒業制度は、一定の条件を満たす学生が3年半で卒業できる制度です。早期に大学を卒業して大学院に進学し資質を向上させること、海外の大学院に留学し高い専門教育を受けるとともに国際感覚を養うことなどを目的としています。

### 【対象者】

在学中の者で学業成績が特に優秀な者とする（「地域総合農学科農業科学コース」を除く）。

### 【申請手続】

早期卒業を希望する場合は、2年次の後学期末に「早期卒業登録申請書」を学務グループに提出すること

### 【申請要件】

早期卒業の対象となる者は、以下の要件を満たさなければなりません。

#### 〔2年次後学期終了時〕

- ① 卒業に必要な修得単位数の合計が90単位以上であること。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。
- ③ 履修した必修科目の成績評価が「C」以上であること。

#### 〔3年次後学期終了時〕

- ① 卒業に必要な単位をすべて修得していること（「卒業論文」、「ゼミナール」を除く）。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。

### 【卒業認定】

早期卒業の認定を受けるためには、以下の要件をすべて満たさなければなりません。

- ① 学科の卒業要件を満たしていること。
- ② 通算のGPAが3.50以上であること。
- ③ 卒業論文の成績評価が「A+」であること。

## 9. 農学部カリキュラム

### (1) カリキュラムの概要

農学部学生は、入学後1年間は水戸キャンパスで基盤教育科目を主として履修し、2年次から阿見キャンパスで専門科目を主に履修することになります。各学科には、それぞれコース・系といったカリキュラム（教育課程）が用意されています。

### (2) コース・系の所属

各学科のコース・系の所属方法は、次のとおりです。

#### 【食生命科学科】

コースの所属は2年次前学期からとなります。国際食産業科学コースの所属は1学年30名を上限とし、希望者が多い場合は1年次の12月に実施するTOEIC(IP)テストの成績により選抜を行います。なお、バイオサイエンスコースの所属に定員の上限はありません。

コース所属後にコース変更する場合は、特別な理由がある場合にのみ認められ、1回に限り可能です。また、バイオサイエンスコースから国際食産業科学コースへ変更する場合は、上記のコース上限人数に達していない場合のみ可能です。コース変更を希望する場合は、各年度1月中旬までに食生命科学科の教務委員に問い合わせてください。

#### 【地域総合農学科】

コースの所属は1年次前学期から、地域共生コースの系の所属は2年次後学期からとなります。なお、コース所属後のコース変更は、11月に実施される転コース試験を受験し、合格した場合のみ認められます。また、地域共生コースの系変更は、地域共生コースのコース会議が承認した場合に認められます。コース・系の変更を希望する場合は、地域総合農学科の教務委員に問い合わせてください。

### (3) 転学科

所属学科から別学科へ転学科を希望する場合は、2年次10月の定められた期間において、学務グループに申請をしてください。11月に希望学科で選考を行い、12月に希望学科での受け入れの可否について結果を通知します。なお、転学科の出願資格や出願手続等の詳細については、掲示または教務委員に問い合わせ確認するようにしてください。

### (4) 卒業要件

農学部の卒業資格を得るためには、次の表にかかげる単位数を修得しなければなりません。これらの単位を修得し、卒業要件を満たした者には学士（農学）の学位が授与されます。

卒業に必要な最低修得単位数

学科	コース	系	基盤教育 科目	農学部 専門科目				自由履修 科目	最低修得 単位数	
				必修	選択必修	選択	小計			
食生命科学科	国際食産業科学コース	-	26	51	24	0	86	0	124	
	バイオサイエンスコース	-		38	37	0				
地域総合農学科	地域共生コース	農業科学コース		-	56	18	0			86
		環境保全学系		41	32	0				
		工学系		65	18	0				
		社会科学系		53	18	0				

※ 基盤教育科目の最低修得単位数と各コース・系の専門科目小計(最低修得単位数)を合計しても、卒業要件の124単位には満たない。その差分は基盤教育科目、農学部専門科目、自由履修科目の単位を修得する。

①基盤教育科目

基盤教育科目の履修の詳細は、大学共通教育科目履修案内を参照してください。基盤教育科目と専門科目では、履修方法や科目構成で異なる点もあります。なお、基盤教育科目の農学部の履修モデルについては、表2を参考にしてください。

②農学部専門科目

各学科・コース・系には、必修科目、選択必修科目、選択科目が指定されており、各々の卒業要件に定められた単位数を修得することが必要です。所属する学科やコースによって、必要単位数が異なりますので、所属するカリキュラムの課程表で必ず確認してください。

③自由履修科目

所属するカリキュラムの課程表に記載されていない農学部専門科目や他学部の専門科目、基盤教育科目、全学共通科目で必要単位数を超えて修得した単位は、「自由履修科目」として認定されます。また、所属するカリキュラムにおいて必要単位数を超えて修得した単位も「自由履修科目」として同様に認定されます。

ただし、教育職員免許状取得に必要な科目の一部（教職概論A、中等理科教育法Iなど）及び一部の専門科目は、卒業要件外科目となり、自由履修科目にはなりません。

表1 卒業要件として算入される科目の種類（単位区分）

必修科目	卒業要件として必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された科目の中から選択して履修し、必要単位数を修得しなければならない科目
選択科目	所定の科目の中から選択して履修する科目

※ 学科・コース・系により、科目の単位区分は異なる。単位区分は所属するカリキュラムの課程表を参照。

表2 基盤教育科目の標準履修モデル

区分		卒業必要単位数	1年次		2年次		3年次		備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入門科目	大学入門ゼミ	2	2						
	茨城学	2	2						
共通基礎科目	プラクティカル・インクワリッシュ	6	2	1	1	1	1		・心と体の健康(実技)は、前期または後期に履修する。
	情報テラシー	2	2						
	心と体の健康	1	1						
	科学の基礎	1			1				
多文化理解	異文化コミュニケーション	3		3~4	食生命 3~4	地域総合 2~3			リベラルアーツ科目で合計12単位履修する。
	ヒューマンティーズ*								
	パフォーマンス&アート								
自然と社会の広がり	自然・環境と人間	食生命 4		食生命 4					
	グローバル化と人間社会	地域総合 6		地域総合 5					
キャリアを考える	ライフデザイン	1					1		
計		26	食生命:17~18 地域総合:18~19		食生命:6~7 地域総合:5~6		2		・卒業必要単位数を超えて修得した基盤教育科目の単位は、自由履修科目として卒業単位数に算入される。

※多文化理解、自然と社会の広がり、キャリアを考えるの3区分をまとめて、「リベラルアーツ科目」と呼ぶ。

## 10. 入学前の既修得単位認定について

本学入学前に他の大学・短期大学等において修得した単位がある場合は、本学における基盤教育科目又は専門科目の単位の認定を受けることができます。[詳細は大学共通教育科目履修案内を参照してください](#)。なお、教育職員免許状など諸資格に関する科目の認定については、本学入学前に在学した大学・短期大学等の状況により判断するので、必ず事前に学務グループに相談してください。

## 11. 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について

次の表に該当する場合、単位認定の申請をすることができます。審査の結果、その単位等の修得に際しての学修が、茨城大学で開講する授業で単位を修得するための学修と同等の内容と認められれば、茨城大学の授業を受講したものとして単位が認められ、60 単位を上限として卒業に必要な単位に算入することができます。

単位互換協定を結ぶ他大学等における修得単位・学修※	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 放送大学（基盤教育科目のみ）</li> <li>② 福島大学・宇都宮大学（1年次生の前学期は履修不可）</li> <li>③ 茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校</li> <li>④ 茨城県立医療大学</li> <li>⑤ 茨城キリスト教大学</li> <li>⑥ 常磐大学・常磐短期大学</li> <li>⑦ 海外の大学における学修</li> <li>⑧ その他</li> </ul>
大学以外の教育施設等における学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 実用英語技能検定試験</li> <li>⑩ ケンブリッジ大学英語検定試験</li> <li>⑪ TOEFL</li> <li>⑫ TOEIC</li> <li>⑬ ドイツ語技能検定試験</li> <li>⑭ 実用フランス語技能検定試験</li> <li>⑮ 中国語検定試験</li> <li>⑯ スペイン語技能検定試験</li> </ul>
入学前に修得した他大学等の単位	単位を修得した大学等の成績証明書・履修案内・シラバス等を参照し、審査する。詳細は大学共通教育科目履修案内を参照。

※休学期間中に他大学で修得した単位についても、本学における授業科目の履修とみなして単位を与えられる場合があります。事前に認定可否の確認を行いますので、他大学での単位修得を検討している場合には、[休学期間開始の2カ月前までに学務グループまで問い合わせ](#)てください。

### ①～⑥ 単位互換協定を結ぶ他大学における修得単位・学修

①放送大学（授業料は徴収しますが、入学料は徴収しません）、②福島大学・宇都宮大学、③茨城工業高等専門学校及び福島工業高等専門学校、④茨城県立医療大学、⑤茨城キリスト教大学、⑥常磐大学・常磐短期大学との単位互換協定に基づき、各大学の科目（ただし、聴講可能な科目は限られます）を特別聴講学生として受講し、単位を修得した者は、本学の単位として認定を受けることができます。

申請時期・聴講可能科目・対象年次等は、各大学によって異なります。詳細は、学務グループにお問い合わせください。

### ⑦ 海外の大学における学修

本学は海外の大学と学術・学生交流協定を締結しています。その協定によって、1年以内の期間でそれらの大学へ留学すること（「派遣留学」と言います）が可能です。協定校への留学に際しては、「派遣先大学の授業料等が免除される」、「修得した単位を本学の単位として認定を受ける」こともできます（一部の大学・授業科目を除きます）。ただし、渡航費や滞在費などは自己負担となります。

また、独立行政法人日本学生支援機構「留学交流支援制度（短期派遣）」により、毎年若干名が奨学金を受給して留学することも可能です。

派遣留学及び「留学交流支援制度（短期派遣）」奨学生については、例年、派遣開始の前年度11月頃に募集を行います。詳細は、グローバル教育センター又は農学部学務グループに問い合わせてください。学術・学生交流協定を締結している海外の大学については、茨城大学ホームページをご覧ください。

海外の大学へ留学した者で、単位の認定を希望する者は、帰国後、留学先の大学が発行した成績証明書及び大学のカリキュラム・授業内容が分かる資料（履修案内やシラバスなど）を添えて、農学部学務グループに申し出てください。

## ⑧ その他

①～⑦に該当しない国内他大学等の科目を履修希望の場合は、事前に学務グループに申し出てください。

## ⑨～⑯ 大学以外の教育施設等における学修

本学における基盤教育科目の外国語科目の単位として認定を受けることができます。詳細は大学共通教育科目履修案内を参照してください。

## 12. 農学部において取得できる資格等

学 科	取得できる資格等
食生命科学科	<p><b>食品衛生管理者及び食品衛生監視員</b>            所定の科目を修得して卒業した者に与えられる<b>任用資格</b>です。ただし、編入学生については食品衛生管理者・食品衛生監視員登録養成施設として認められている大学等から編入学した学生に限られます。</p> <p>※ 任用資格とは、特定の職業ないし職位に任用されるための資格のことです。該当任用資格を取得後、当該職務に任用・任命されて初めて効力を発揮します。</p> <p>※ 取得希望者は、P.56を参照すること。</p> <p><b>日本食品保蔵学会 HACCP 管理者資格申請のための受験資格</b>            所定の科目を修得した者が HACCP 管理者資格申請のために得られる受験資格です。なお、HACCP 管理者資格を取得する場合には、日本食品保蔵学会主催のワークショップを受講することや日本食品保蔵学会に入会することが必要です。</p>
地域総合農学科	<p><b>測量士補</b>            地域共生コース（工学系）を修めて卒業した者。卒業後実務経験1年以上で測量士の資格を取得できます。</p>
全学科	<p><b>高等学校教諭一種免許状（理科・農業）</b>            所定の科目（教育実習を含む）を修得して卒業した者が取得できます。</p> <p><b>大型特殊自動車免許（農耕用に限りです）</b>            国際フィールド農学センターで開講する実習の一環として行われる実地検定に合格した者が取得できます。</p> <p><b>日本農業技術検定2級（技能試験）</b>            日本農業技術検定は、（一社）全国農業会議所が実施している、農業についての知識・技術の取得を評価する試験です。国際フィールド農学センターでは、2級の団体受験を実施しています。また、「農学実習」の履修によって、2級の技能試験が免除されます。申し込みは10月末までとし、12月上旬に団体受験を行います。</p>



## II 專門科目課程表





## 1. 水戸キャンパス開講の農学部専門科目

水戸キャンパスで開講される農学部専門科目は次のとおりです。

シラバスコード	授業科目	担当教員	単位	対象年次	開講時期	曜日 講時	教室	備考
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	1	前S	金3	遠隔	一部対面で実施予定
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	1	1Q	火2金2	遠隔	
AN1203	経済学	内田晋	2	1	前S	金1	共通30	
AN1209	微積分学入門	西脇淳子	1	1	1Q	月5	遠隔	
AN1210	線形代数学入門	西脇淳子	1	1	2Q	月5	遠隔	
AN1112	化学Ⅰ	西原宏史、他	2	1	1Q	火1金5	遠隔	
AN1113	生物学Ⅰ	安江健、他	2	1	1Q	火4金4	遠隔	
AN1114	生物学Ⅱ	佐藤達雄、他	2	1	2Q	火4金4	遠隔	
AN1104	化学Ⅱ	白岩雅和、上妻由章	2	1	2Q	火2金2	遠隔	
AN1108	経営学概論	未定	2	1	後S	火1	遠隔	食生命科学科 国際食産業科学コース 志望者優先
AN1206	社会学	福与徳文	2	1	後S	木2	講堂	
AN1207	農業経済学一般	伊丹一浩、他	2	1	後S	水2	遠隔	
AN1109	一般化学Ⅰ	鈴木義人	2	1	後S	月2	遠隔	
AN1110	基礎生化学	小島俊雄	2	1	後S	火2	遠隔	
AN1111	食生命科学入門	上妻、他	2	1	後S	集中	遠隔	一部対面で実施予定
AN1211	栽培学	浅木直美	2	1	後S	水5	共通10	
AN1208	地域総合農学入門	牧山正男、他	2	1	後S	水4	共通10	
AN1213	力学入門	中石克也	2	1	後S	木4	人文13	

(注) シラバスコードは変更になる場合があるので、当該年度の時間割等で確認してください。

(略語と記号) ●人文社会科学部教員 ★非常勤講師 S:セメスター Q:クォーター 共通:共通教育棟

## 2. 阿見キャンパス開講の基盤教育科目

阿見キャンパスで開講予定の基盤教育科目は次のとおりです。実際の開講科目は異なる可能性がありますので、詳細は当該年度の時間割等を参照してください。授業科目によっては、専門科目と時間割が重複している場合があります。

区分	授業科目	単位	対象年次	開講時期	曜日 講時	備考
プラクティカル・イングリッシュ	Advanced English I A	1	2	前S	月1	
	Advanced English I B	1	2	後S	月1	
	Advanced English II A	1	2	前S	月1	
	Advanced English II A	1	3	前S	月2	
	Advanced English II B	1	2	後S	月1	
	Advanced English III A	1	2	前S	月1	
	Advanced English III A	1	3	前S	月2	
	Advanced English III B	1	2	後S	月1	
	Advanced English III C	1	2	前S	月1	
	Advanced English III C	1	3	前S	月2	
	Advanced English I A	1	2	前S	集中	夏季集中
	Advanced English I B	1	2	後S	集中	春期集中
	Advanced English II A	1	2	前S	集中	夏季集中
	Advanced English II B	1	2	後S	集中	春期集中
Advanced English III A	1	2	前S	集中	夏季集中	
Advanced English III B	1	2	後S	集中	春期集中	
Advanced English III C	1	2	前S	集中	夏季集中	
GEP	Studies in Particular Fields	1	2	3Q	月1	2～4年次にかけて少なくとも1回は開講
	Reading and Discussion	1	2	4Q	月1	
	TOEIC & TOEFL	1	3	1Q	月2	
	Presentations in English	1	3	1Q	木3	
	Academic Speaking	1	3	2Q	月2	
	English for Socializing	1	3	2Q	木3	
	Academic Writing	1	3	4Q	月2	
科学の基礎	科学と倫理A	1	2	1Q	水3	
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	1	2	2Q	木2	
	人間とコミュニケーション	1	2	4Q	木2	
パフォーマンス&アート	音楽文化	1	2	3Q	木2	
ヒューマニティーズ	思想・文学	1	2	1Q	木2	
	思想・文学	1	2	1Q	木2	
	歴史・考古学	1	2	1Q	木2	
自然・環境と人間	物質と生命	1	2	1Q	木1	
	経済・経営	1	2	1Q	木3	
グローバル化と人間社会	公共社会	1	2	2Q	木3	
	経済・経営	1	2	3Q	木3	
	グローバルスタディーズ	1	2	4Q	木3	
ライフデザイン	ライフデザイン	1	3	前S	木2	
心と体の健康	身体活動	1	2	前S	木4	未修得者・教職課程履修者優先
入門科目	茨城学(再履修)	2	2	2～3Q	水3	遠隔授業

### 3. 食生命科学科 国際食産業科学コース

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。  
 また、食生命科学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。  
 ・3年次終了時における総修得単位数が100単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。

#### 必修科目(51単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員(予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2								講義		
AN1108	経営学概論	未定	2	2								講義		
AN1109	一般化学Ⅰ	鈴木義人	2	2								講義	理科	
AN1110	基礎生化学	小島俊雄	2	2								講義	理科	
AN1111	食生命科学入門	関係教員	2	2								講義		
AN2106	基礎微生物学	西澤智康	2		2							講義	農業	
-	化学実験	西原宏史、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	生物学実験	浅木直美、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1							実習		指定クラス
AN2155	食品化学	長南茂	2		2							講義	農業	
AN2107	基礎有機化学	戸嶋浩明	2		2							講義	理科	
AN2173	ビジネス英語Ⅰ	★須田佳成	2		2							講義		英語開講
AN2172	英語コミュニケーションⅠ	未定	2		2							講義		英語開講
AN2154	食品安全分析学	鎗田孝	2		2							講義		英語開講
AN2169	食品加工実習	宮口右二、他	1		1							実習	農業	
AN2179	糖質・脂質実験	白岩雅和、長南茂、上妻由章	1		1							実験	農業	
AN2174	食品衛生学	鈴木穂高	2		2							講義		
AN3105	食品製造学	中村彰宏	2			2						講義		英語開講
AN3106	食品保蔵学	中村彰宏	2			2						講義		英語開講
AN3102	栄養化学	白岩雅和	2		2							講義	農業	
AN3128	ビジネス英語Ⅱ	★須田佳成	2		2							講義		英語開講
AN3127	英語コミュニケーションⅡ	未定	2		2							講義		英語開講
AN3172	タンパク質・酵素実験	白岩雅和、長南茂、上妻由章	1		1							実験	農業	
AN3122	食品安全科学実験	鎗田孝、鈴木穂高	1		1							実験		
AN3130	マーケティング論	●今村一真	1		1							講義		
AN4001	ゼミナール	関係教員	1						1			演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

#### 選択必修科目①(8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員(予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1102	生物学Ⅰ	安江健、他	2	2								講義	理科	
AN1112	化学Ⅰ	西原宏史、他	2	2								講義	理科	
AN1209	微積分学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1210	線形代数学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1105	生物学Ⅱ	佐藤達雄、他	2	2								講義	理科	
AN1104	化学Ⅱ	白岩雅和、上妻由章	2	2								講義	理科	
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義		
AN2117	物理学入門	中石克也	2		2							講義	理科	
AN2112	統計学入門	★三中信宏	2		2							講義		

#### 選択必修科目②(8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員(予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2102	一般化学Ⅱ	長谷川守文	2			2						講義	理科	
AN2158	畜産物科学	宮口右二	2			2						講義	農業	
AN2157	代謝生化学	白岩雅和	2			2						講義	農業	
AN2152	酵素化学	上妻由章	2			2						講義	理科	
AN3117	食品機能学	上妻由章	2				2					講義	農業	
AN3103	機能性食品評価学	鎗田孝	2				2					講義		
AN3168	毒性学	鈴木穂高	2				2					講義		英語開講
AN3118	食品微生物学	長南茂、西原宏史	2				2					講義		
AN3119	HACCP概論	鎗田孝、他	1				1					講義		
AN3161	食生命科学演習	関係教員	1						1			演習		

選択必修科目③ (2単位以上)

10単位を超えて修得した科目の単位数は自由履修科目として認定する(専門科目86単位には含まない)。

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN3155	国際食産業科学海外講義Ⅰ	学科長	2					2				講義		交流協定校
AN3156	国際食産業科学海外講義Ⅱ	学科長	2					2				講義		交流協定校
AN3157	国際食産業科学海外講義Ⅲ	学科長	2					2				講義		交流協定校
AN3158	国際食産業科学海外講義Ⅳ	学科長	2					2				講義		交流協定校
AN3159	国際食産業科学海外講義Ⅴ	学科長	2					2				講義		交流協定校
AN3162	国際食産業科学海外講義Ⅵ	学科長	3					3				講義		交流協定校
AN3163	国際食産業科学海外講義Ⅶ	学科長	3					3				講義		交流協定校
AN3164	国際食産業科学海外講義Ⅷ	学科長	3					3				講義		交流協定校
AN3165	国際食産業科学海外講義Ⅸ	学科長	3					3				講義		交流協定校
AN3166	国際食産業科学海外講義Ⅹ	学科長	1					1				講義		交流協定校
AN3167	国際食産業科学海外講義Ⅺ	学科長	1					1				講義		交流協定校

選択必修科目④ (6単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2104	基礎生態学	成澤才彦	2			2						講義		
AN2108	動物科学総論	安江健、他	2			2						講義	農業	
AN2109	動物形態学	上塚浩司	2			2						講義	理科	
AN2105	基礎土壌学	西澤智康	2			2						講義		
AN2156	植物生理学Ⅰ	中平洋一	2			2						講義	理科	
AN2153	細胞生物学	豊田淳	2			2						講義	理科	
AN2159	天然物有機化学	戸嶋浩明	2			2						講義	理科	
AN2166	分子生物学	朝山宗彦	2			2						講義		
AN2165	微生物生態学	成澤才彦	2			2						講義	理科	
AN2160	動物行動学	安江健	2			2						講義	農業	
AN2161	動物栄養学	須藤まどか	2			2						講義		
AN2162	動物生殖学	大久保武	2			2						講義	農業	
AN2175	植物生理学Ⅱ	小島俊雄、中平洋一	2			2						講義		
AN2163	動物生理学	吉田悠太	2			2						講義	理科	
AN2176	生物有機化学	鈴木義人	2			2						講義	理科	
AN3108	地圏生態学	西澤智康	2					2				講義	理科	
AN3101	遺伝子制御学	朝山宗彦	2					2				講義	農業	
AN3116	植物分子遺伝学	中平洋一	2					2				講義		
AN3111	動物管理学	小針大助	2					2				講義	農業	
AN3114	植物環境応答学	小島俊雄	2					2				講義	理科	
AN3110	動物育種学	大久保武	2					2				講義	農業	
AN3112	動物細胞工学	金澤卓弥	2					2				講義	農業	
AN3107	実験動物学	上塚浩司、小川恭喜、大久保武、鈴木穂高	2					2				講義		
AN3113	動物飼料学	豊田淳、宮口右二	2					2				講義		
AN3131	天然物化学	長谷川守文	2					2				講義		
AN3151	応用微生物学	西原宏史	2							2		講義	農業	
AN3154	動物保健衛生学	上塚浩司	2							2		講義	農業	

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2171	微生物学実験Ⅰ	西澤智康、成澤才彦	1			1						実験	理科	
AN2178	植物生理学実験	中平洋一、他	1			1						実験	理科	
AN2177	動物解剖学・生化学実験	豊田淳、吉田悠太	1			1						実験	農業	
AN3125	微生物学実験Ⅱ	朝山宗彦、西原宏史	1					1				実験	理科	
AN3171	植物遺伝子工学実験	小島俊雄、他	1					1				実験	農業	
AN3169	動物細胞学実験	金澤卓弥、大久保武	1					1				実験	農業	
AN3126	牧場実習	小針大助、安江健	1					1				実習	農業	
AN3170	動物衛生・管理学実験	安江健、上塚浩司	1							1		実験	農業	
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1							1		実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2							2		実習		
AN3120	機器分析実験	長谷川守文、鈴木義人	1					1				実験	理科	
AN3129	キャリア開発論	★榎本和生	2							2		講義	農業	

#### 4. 食生命科学科 バイオサイエンスコース

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、食生命科学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

・3年次終了時における総修得単位数が100単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。

##### 必修科目 (38単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2								講義		
AN1109	一般化学 I	鈴木義人	2	2								講義	理科	
AN1110	基礎生化学	小島俊雄	2	2								講義	理科	
AN1111	食生命科学入門	関係教員	2	2								講義		
AN2106	基礎微生物学	西澤智康	2		2							講義	農業	
AN2105	基礎土壌学	西澤智康	2		2							講義		
AN2104	基礎生態学	成澤才彦	2		2							講義		
AN2108	動物科学総論	安江健、他	2		2							講義	農業	
-	化学実験	西原宏史、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	生物学実験	浅木直美、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1							実習		指定クラス
AN2156	植物生理学 I	中平洋一	2		2							講義	理科	
AN2107	基礎有機化学	戸嶋浩明	2		2							講義	理科	
AN2163	動物生理学	吉田悠太	2			2						講義	理科	
AN2153	細胞生物学	豊田淳	2			2						講義	理科	
AN2166	分子生物学	朝山宗彦	2			2						講義		
AN4001	ゼミナール	関係教員	1							1		演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

##### 選択必修科目① (8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1113	生物学 I	安江健、他	2	2								講義	理科	
AN1112	化学 I	西原宏史、他	2	2								講義	理科	
AN1209	微積分学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1210	線形代数学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1114	生物学 II	佐藤達雄、他	2	2								講義	理科	
AN1104	化学 II	白岩雅和、上妻由章	2	2								講義	理科	
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義		
AN2117	物理学入門	中石克也	2		2							講義	理科	
AN2112	統計学入門	★三中信宏	2		2							講義		

##### 選択必修科目② (20単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2109	動物形態学	上塚浩司	2		2							講義	理科	
AN2102	一般化学 II	長谷川守文	2		2							講義	理科	
AN2159	天然物有機化学	戸嶋浩明	2			2						講義	理科	
AN2165	微生物生態学	成澤才彦	2		2							講義	理科	
AN2160	動物行動学	安江健	2		2							講義	農業	
AN2161	動物栄養学	須藤まどか	2		2							講義		
AN2162	動物生殖学	大久保武	2		2							講義	農業	
AN2175	植物生理学 II	小島俊雄、中平洋一	2		2							講義		
AN2176	生物有機化学	鈴木義人	2		2							講義	理科	
AN3108	地圏生態化学	西澤智康	2			2						講義	理科	
AN3101	遺伝子制御学	朝山宗彦	2			2						講義	農業	
AN3116	植物分子遺伝学	中平洋一	2			2						講義		
AN3111	動物管理学	小針大助	2			2						講義	農業	
AN3114	植物環境応答学	小島俊雄	2			2						講義	理科	
AN3110	動物育種学	大久保武	2			2						講義	農業	
AN3112	動物細胞工学	金澤卓弥	2			2						講義	農業	
AN3107	実験動物学	上塚浩司、小川恭喜、大久保武、鈴木穂高	2			2						講義		
AN3131	天然物化学	長谷川守文	2			2						講義		
AN3113	動物飼料学	豊田淳、宮口右二	2			2						講義		
AN3126	牧場実習	小針大助、安江健	1			1						実習	農業	
AN3151	応用微生物学	西原宏史	2				2					講義	農業	
AN3154	動物保健衛生学	上塚浩司	2				2					講義	農業	
AN3161	食生命科学演習	関係教員	1					1				演習		

選択必修科目③（3単位以上） 微生物、植物、動物の科目区分それぞれから1科目以上履修すること。

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2171	微生物	微生物学実験Ⅰ	西澤智康、成澤才彦	1			1						実験	理科	
AN3125		微生物学実験Ⅱ	朝山宗彦、西原宏史	1					1					実験	理科
AN2178	植物	植物生理学実験	中平洋一、他	1			1						実験	理科	
AN3171		植物遺伝子工学実験	小島俊雄、他	1					1					実験	農業
AN2177	動物	動物解剖学・生化学実験	豊田淳、吉田悠太	1			1						実験	農業	
AN3169		動物細胞学実験	金澤卓弥、大久保武	1					1				実験	農業	
AN3170		動物衛生・管理学実験	安江健、上塚浩司	1						1			実験	農業	

選択必修科目④（6単位以上）

シラバスコード	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2155	食品化学	長南茂	2			2						講義	農業	
AN2154	食品安全分析学	鎗田孝	2			2						講義		英語開講
AN2174	食品衛生学	鈴木穂高	2			2						講義		
AN2158	畜産物科学	宮口右二	2			2						講義	農業	
AN2157	代謝生化学	白岩雅和	2			2						講義	農業	
AN2152	酵素化学	上妻由章	2			2						講義	理科	
AN3168	毒性学	鈴木穂高	2					2				講義		英語開講
AN3105	食品製造学	中村彰宏	2					2				講義		英語開講
AN3106	食品保蔵学	中村彰宏	2					2				講義		英語開講
AN3118	食品微生物学	長南茂、西原宏史	2					2				講義		
AN3102	栄養化学	白岩雅和	2					2				講義	農業	
AN3117	食品機能学	上妻由章	2					2				講義	農業	
AN3119	HACCP概論	鎗田孝、他	1					1				講義		

選択科目

シラバスコード	授業科目	担当教員（予定）	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1108	経営学概論	未定	2	2								講義		
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2173	ビジネス英語Ⅰ	★須田佳成	2			2						講義		英語開講
AN2172	英語コミュニケーションⅠ	未定	2			2						講義		英語開講
AN2169	食品加工実習	宮口右二、他	1			1						実習	農業	
AN2179	糖質・脂質実験	白岩雅和、長南茂、上妻由章	1			1						実験	農業	
AN3129	キャリア開発論	★榎本和生	2					2				講義	農業	
AN3128	ビジネス英語Ⅱ	★須田佳成	2					2				講義		英語開講
AN3127	英語コミュニケーションⅡ	未定	2					2				講義		英語開講
AN3103	機能性食品評価学	鎗田孝	2					2				講義		
AN3130	マーケティング論	●今村一真	1					1				講義		
AN3120	機器分析実験	長谷川守文、鈴木義人	1					1				実験	理科	
AN3172	タンパク質・酵素実験	白岩雅和、長南茂、上妻由章	1					1				実験	農業	
AN3122	食品安全科学実験	鎗田孝、鈴木穂高	1					1				実験		
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1						1			実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2						2			実習		

5. 地域総合農学科 農業科学コース

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。  
 また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。  
 ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。  
 ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。  
 なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

必修科目 (56単位)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2								講義		
AN1208	地域総合農学入門	牧山正男、他	2		2							講義	農業	
AN1207	農業経済学一般	伊丹一浩、他	2	2								講義	農業	
AN1211	栽培学	浅木直美、他	2	2								講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、黒田久雄、前田滋哉、西脇淳子	2		2							講義	農業	
AN2205	統計学	未定	2		2							講義		
AN2201	遺伝学 I	久保山勉	2		2							講義	理科	
AN2206	土壌肥料学	七夕小百合	2		2							講義	農業	
AN2209	微生物学	中島雅己	2		2							講義	理科	
-	生物学実験	浅木直美、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	化学実験	西原宏史、他	1		1							実験	理科	指定クラス
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1							実習		指定クラス
AN2255	作物学	未定	2		2							講義	農業	
AN2251	園芸学 I	井上栄一	2		2							講義	農業	
AN2258	植物病理学	中島雅己	2		2							講義	農業	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2		2							講義	理科	
AN2257	植物生理学	未定	2		2							講義	理科	
AN2275	植物育種学実験	久保山勉	1		1							実験		
AN3206	生態学	北嶋康樹	2		2							講義	理科	
AN3203	植物育種学	久保山勉	2		2							講義	農業	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2		2							講義	農業	
AN3218	農薬学	菊田真吾	2		2							講義		
AN3205	青果物利用学	望月佑哉	2		2							講義		
AN3229	作物学実験	浅木直美	1		1							実験	農業	
AN3227	園芸学実験	井上栄一、望月佑哉	1		1							実験	農業	
AN3231	植物病理学実験	中島雅己、古谷綾子	1		1							実験	農業	
AN3228	応用動物昆虫学実験	北嶋康樹、菊田真吾	1		1							実験	理科	
AN3235	農場実習	七夕小百合、佐藤達雄	1		1							実習	農業	
AN4001	ゼミナール	関係教員	1							1		演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

選択必修科目① (8単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1113	生物学 I	安江健、他	2	2								講義	理科	
AN1112	化学 I	西原宏史、他	2	2								講義	理科	
AN1209	微積分学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1210	線形代数学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1203	経済学	内田晋	2	2								講義		
AN1114	生物学 II	佐藤達雄、他	2	2								講義	理科	
AN1104	化学 II	白岩雅和、上妻由章	2	2								講義	理科	
AN1212	地学入門	★中里裕臣	2	2								講義	理科	
AN1206	社会学	福与徳文	2	2								講義		
AN1213	力学入門	中石克也	2	2								講義	理科	
AN2117	物理学入門	中石克也	2		2							講義		
AN2112	統計学入門	★三中信宏	2		2							講義		

選択必修科目② (4単位以上)

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2		2							講義	農業	
AN2276	AI・数理・データサイエンス演習	岡山毅、木下嗣基、小松崎将一、長澤淳	1		1							演習		
AN2202	国際農業論	西川邦夫	2		2							講義		
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2							講義	農業	
AN2263	地域計画学	福与徳文	2		2							講義		
AN2267	プログラミング基礎	岡山毅	2		2							講義		
AN2270	農業気象学	未定	1		1							講義	農業	

選択必修科目③ (6単位以上)

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2254	ゲノム科学	未定	2			2						講義		
AN3252	園芸学Ⅱ	井上栄一	2					2				講義	農業	
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2					2				講義		
AN3254	工芸・飼料作物学	浅木直美	2						2			講義	農業	
AN3257	青果物生産学	望月佑哉	2						2			講義		
AN3251	遺伝学Ⅱ	久保山勉	2						2			講義	理科	
AN3207	総合防除論	菊田真吾	2						2			講義		

選択科目

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1108	経営学概論	未定	2	2								講義		
AN2204	線形代数	木下嗣基	2			2						講義		
AN2210	微積分学	前田滋哉	2			2						講義		
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2259	水文学	黒田久雄	2			2						講義	農業	
AN2268	力学	木下嗣基	2			2						講義	理科	
AN2253	応用力学	木下嗣基	2			2						講義		
AN2266	フードシステム学	池田真也	2			2						講義	農業	
AN2265	農産物流通論	池田真也	2			2						講義		
AN2272	流体力学	前田滋哉	1			1						講義	理科	
AN2271	水理学	前田滋哉	1			1						講義	農業	
AN2269	気象学	未定	1			1						講義	理科	
AN2273	生物生産機械学実験	岡山毅	1			1						実験	農業	
AN3223	土壌物理学	牧山正男	1					1				講義	農業	
AN2278	農作業学	小松崎将一	2			2						講義	農業	
AN3224	応用力学演習	向後雄二	2					2				演習		
AN3214	農業水理学	黒田久雄	2					2				講義	農業	
AN3212	農業経済学	内田晋	2					2				講義	農業	
AN3267	土地利用制度論	福与徳文	2					2				講義		
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2					2				講義		
AN3217	農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2					2				講義		
AN3201	環境経済学	内田晋	2					2				講義		
AN3202	計量経済学	長澤淳	2					2				講義		
AN3213	農業食料社会学	福与徳文	2					2				講義	農業	
AN3210	地理情報学	木下嗣基	2					2				講義	農業	
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一、小針大助	2					2				実習		
AN3222	多孔体物性学	西脇淳子	1					1				講義	理科	
AN3226	流体力学演習	黒田久雄	1					1				演習	理科	
AN3225	水理学演習	黒田久雄	1					1				演習	農業	
AN3221	粒状体力学	毛利栄征	1					1				講義	理科	
AN3220	土質工学	毛利栄征	1					1				講義	農業	
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2					2				実習		
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN3259	農地環境工学	牧山正男	2						2			講義	農業	
AN3261	農業土木施設学	毛利栄征	2						2			講義	農業	
AN3260	農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	
AN3262	プログラミング演習	長澤淳	1						1			演習		

## 6. 地域総合農学科 地域共生コース（環境保全学系）

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
  - ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
- なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

### 必修科目（41単位）

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2								講義		
AN1208	地域総合農学入門	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
AN1207	農業経済学一般	伊丹一浩、他	2	2								講義	農業	
AN1211	栽培学	浅木直美、他	2	2								講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、黒田久雄、前田滋哉、西脇淳子	2		2							講義	農業	
AN2205	統計学	未定	2		2							講義		
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2		2							講義	農業	
AN2202	国際農業論	西川邦夫	2		2							講義	農業	
AN2276	AI・数理・データサイエンス演習	岡山毅、木下嗣基、小松崎将一、長澤淳	1		1							演習		
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1							実習		指定クラス
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2							講義	農業	
AN2263	地域計画学	福与徳文	2		2							講義		
AN2259	水文学	黒田久雄	2		2							講義	農業	
AN2266	フードシステム学	池田真也	2		2							講義	農業	
AN2269	気象学	未定	1		1							講義	理科	
AN2270	農業気象学	未定	1		1							講義	農業	
AN2278	農作業学	小松崎将一	2		2							講義	農業	
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2			2						講義		
AN4001	ゼミナール	関係教員	1						1			演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8						8			実験		

### 選択必修科目①（8単位以上、ただし①-1・①-2・①-3のうち2つ以上は4単位すべてを履修すること）

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1209	①-1	微積分学入門	西脇淳子	1	1							講義			
AN1210		線形代数学入門	西脇淳子	1	1							講義			
AN1213		力学入門	中石克也	2		2						講義	理科		
AN1203	①-2	経済学	内田晋	2	2							講義			
AN1206		社会学	福与徳文	2	2							講義			
AN1113	①-3	生物学Ⅰ	久保山勉、他	2	2							講義	理科		
AN1114		生物学Ⅱ	佐藤達雄、他	2	2							講義	理科		
AN1112	①-4	化学Ⅰ	長南茂、他	2	2							講義	理科		
AN1104		化学Ⅱ	白岩雅和、上妻由章	2	2							講義	理科		
AN1212		地学入門	★中里裕臣	2	2							講義	理科		
AN2117		物理学入門	中石克也	2		2						講義			
AN2112		統計学入門	★三中信宏	2		2						講義			

### 選択必修科目②（8単位以上）

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2206	土壌肥料学	七夕小百合	2		2							講義	農業	
AN2210	微積分学	前田滋哉	2		2							講義		
AN2255	作物学	未定	2		2							講義	農業	
AN2251	園芸学Ⅰ	井上栄一	2		2							講義	農業	
AN2267	プログラミング基礎	岡山毅	2		2							講義		
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2					2				実習		



選択必修科目③ (③または④いずれかから16単位以上。③を選択した場合は③-1の6単位すべてと、③-2から10単位以上を履修すること) \* 1

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
AN3201	③-1	環境経済学	内田晋	2					2				講義		
AN3208		地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2					2				講義		
AN3260		農業史・環境史	伊丹一浩	2						2			講義	農業	
AN2265	③-2	農産物流通論	池田真也	2			2						講義		
AN3217		農政学	西川邦夫	2				2					講義	農業	
AN3267		土地利用制度論	福与徳文	2					2				講義		
AN3212		農業経済学	内田晋	2					2				講義	農業	
AN3202		計量経済学	長澤淳	2					2				講義		
AN3213		農業食料社会学	福与徳文	2					2				講義	農業	

選択必修科目④ (③または④いずれかから16単位以上。④を選択した場合は④-1の10単位すべてと、④-2から6単位以上を履修すること) \* 1

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2204	④-1	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
AN2268		力学	木下嗣基	2			2						講義	理科	
AN2253		応用力学	木下嗣基	2			2						講義		
AN2272		流体力学	前田滋哉	1			1						講義	理科	
AN2273		生物生産機械学実験	岡山毅	1			1						実験	農業	
AN3223		土壌物理学	牧山正男	1				1					講義	農業	
AN3221	④-2	粒状体力学	毛利栄征	1				1					講義	理科	
AN2271		水理学	前田滋哉	1			1						講義	農業	
AN3210		地理情報学	木下嗣基	2				2					講義	農業	
AN3214		農業水利学	黒田久雄	2				2					講義	農業	
AN3220		土質工学	毛利栄征	1				1					講義	農業	
AN3259		農地環境工学	牧山正男	2					2				講義	農業	
AN3261		農業土木施設学	毛利栄征	2					2				講義	農業	
AN3262		プログラミング演習	長澤淳	1						1			演習		
AN3268		自然環境と災害I	黒田久雄、毛利栄征	1						1			講義	理科	隔年開講
AN3269		自然環境と災害II	黒田久雄、毛利栄征	1						1			講義	理科	隔年開講

選択科目

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1108	経営学概論	未定	2	2								講義		
AN2209	微生物学	中島雅己	2			2						講義	理科	
AN2201	遺伝学I	久保山勉	2			2						講義	理科	
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2262	測量学	牧山正男	2			2						講義	農業	
AN2274	測量実習	高瀬唯、牧山正男	2			2						実習		
AN2279	設計製図	高瀬唯	1			1						講義		
AN2254	ゲノム科学	未定	2			2						講義		
AN2258	植物病理学	中島雅己	2			2						講義	農業	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2			2						講義	理科	
AN2257	植物生理学	未定	2			2						講義	理科	
AN3224	応用力学演習	向後雄二	2					2				演習		
AN3222	多孔体物性学	西脇淳子	1					1				講義	理科	
AN3232	水理実験	前田滋也	1					1				実験		
AN3226	流体力学演習	黒田久雄	1					1				演習	理科	
AN3225	水理学演習	黒田久雄	1					1				演習	農業	
AN3234	土壌物理実験	西脇淳子	1					1				実験		
AN3203	植物育種学	久保山勉	2					2				講義	農業	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2					2				講義	農業	
AN3218	農業学	菊田真吾	2					2				講義		
AN3206	生態学	北嶋康樹	2					2				講義	理科	
AN3270	地球環境学I	木下嗣基	1					1				講義	理科	隔年開講
AN3271	地球環境学II	木下嗣基	1					1				講義	理科	隔年開講
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一、小針大助	2					2				実習		
AN3235	農場実習	七夕小百合、佐藤達雄	1					1				実習	農業	
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2					2				講義		
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN3263	土質工学実験	毛利栄征	1						1			実験		
AN2291	地域共生特別講義		1			1		1		1		講義		累加可
AN2292	地域共生特別演習		1			1		1		1		演習		

\* 1 選択必修科目③及び④について、選択しなかった科目群は「選択科目」として扱う

## 7. 地域総合農学科 地域共生コース（工学系）

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
  - ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
- なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

### 必修科目（65単位）

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2								講義		
AN1208	地域総合農学入門	牧山正男、他	2	2								講義	農業	
AN1207	農業経済学一般	伊丹一浩、他	2	2								講義	農業	
AN1211	栽培学	浅木直美、他	2	2								講義	農業	
AN2210	微積分学	前田滋哉	2		2							講義		
AN2208	農業と水と土	牧山正男、黒田久雄、前田滋哉、西脇淳子	2		2							講義	農業	
AN2205	統計学	未定	2		2							講義		
AN2204	線形代数学	木下嗣基	2		2							講義		
AN2276	AI・数理・データサイエンス演習	岡山毅、木下嗣基、小松崎将一、長澤淳	1		1							演習		
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1							実習		指定クラス
AN2267	プログラミング基礎	岡山毅	2		2							講義		
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2							講義	農業	
AN2259	水文学	黒田久雄	2		2							講義	農業	
AN2268	力学	木下嗣基	2		2							講義	理科	
AN2253	応用力学	木下嗣基	2		2							講義		
AN2262	測量学	牧山正男	2		2							講義	農業	
AN2274	測量実習	高瀬唯、牧山正男	2		2							実習		
AN2279	設計製図	高瀬唯	1		1							講義		
AN2272	流体力学	前田滋哉	1		1							講義	理科	
AN2271	水理学	前田滋哉	1		1							講義	農業	
AN2273	生物生産機械学実験	岡山毅	1		1							実験	農業	
AN3223	土壌物理学	牧山正男	1			1						講義	農業	
AN3210	地理情報学	木下嗣基	2			2						講義	農業	
AN3224	応用力学演習	向後雄二	2			2						演習		
AN3214	農業水文学	黒田久雄	2			2						講義	農業	
AN3222	多孔体物性学	西脇淳子	1			1						講義	理科	
AN3232	水理実験	前田滋也	1			1						実験		
AN3226	流体力学演習	黒田久雄	1			1						演習	理科	
AN3225	水理学演習	黒田久雄	1			1						演習	農業	
AN3221	粒状体力学	毛利栄征	1			1						講義	理科	
AN3234	土壌物理実験	西脇淳子	1			1						実験		
AN3220	土質工学	毛利栄征	1			1						講義	農業	
AN3259	農地環境工学	牧山正男	2			2						講義	農業	
AN3261	農業土木施設学	毛利栄征	2			2						講義	農業	
AN3263	土質工学実験	毛利栄征	1			1						実験		
AN3262	プログラミング演習	長澤淳	1			1						演習		
AN4001	ゼミナール	関係教員	1						1			演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8							8		実験		

### 選択必修科目①（8単位以上、ただし①-1・①-2・①-3のうち2つ以上は4単位すべてを履修すること）

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1209	①-1	微積分学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1210		線形代数学入門	西脇淳子	1	1								講義		
AN1213		力学入門	中石克也	2	2								講義	理科	
AN1203	①-2	経済学	内田晋	2	2								講義		
AN1206		社会学	福与徳文	2	2								講義		
AN1113	①-3	生物学Ⅰ	久保山勉、他	2	2								講義	理科	
AN1114		生物学Ⅱ	佐藤達雄、他	2	2								講義	理科	
AN1112	①-4	化学Ⅰ	長南茂、他	2	2								講義	理科	
AN1104		化学Ⅱ	白岩雅和、上妻由章	2	2								講義	理科	
AN1212		地学入門	★中里裕臣	2	2								講義	理科	
AN2117		物理学入門	中石克也	2		2							講義		
AN2112		統計学入門	★三中信宏	2		2							講義		

選択必修科目② (10単位以上)

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN2206	土壌肥料学	七夕小百合	2			2						講義	農業	
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2			2						講義	農業	
AN2202	国際農業論	西川邦夫	2			2						講義	農業	
AN2255	作物学	未定	2			2						講義	農業	
AN2251	園芸学 I	井上栄一	2			2						講義	農業	
AN2263	地域計画学	福与徳文	2			2						講義		
AN2269	気象学	未定	1			1						講義	理科	
AN2270	農業気象学	未定	1			1						講義	農業	
AN3267	土地利用制度論	福与徳文	2					2				講義		
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2					2				講義		
AN3268	自然環境と災害 I	黒田久雄、毛利栄征	1						1			講義	理科	隔年開講
AN3269	自然環境と災害 II	黒田久雄、毛利栄征	1						1			講義	理科	隔年開講
AN3001	インターンシップ I	関係教員	1					1				実習		
AN3003	インターンシップ II	関係教員	2					2				実習		

選択科目

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業形態	教職対応	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1108	経営学概論	未定	2		2							講義		
AN2209	微生物学	中島雅己	2			2						講義	理科	
AN2201	遺伝学 I	久保山勉	2			2						講義	理科	
-	生物学実験	浅木直美、他	1			1						実験	理科	指定クラス
-	化学実験	西原宏史、他	1			1						実験	理科	指定クラス
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2266	フードシステム学	池田真也	2			2						講義	農業	
AN2265	農産物流通論	池田真也	2			2						講義		
AN2258	植物病理学	中島雅己	2			2						講義	農業	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2			2						講義	理科	
AN2257	植物生理学	未定	2			2						講義	理科	
AN2254	ゲノム科学	未定	2			2						講義		
AN2278	農作業学	小松崎将一	2			2						講義	農業	
AN3203	植物育種学	久保山勉	2					2				講義	農業	
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2					2				講義	農業	
AN3218	農薬学	菊田真吾	2					2				講義		
AN3206	生態学	北嶋康樹	2					2				講義	理科	
AN3212	農業経済学	内田晋	2					2				講義	農業	
AN3217	農政学	西川邦夫	2					2				講義	農業	
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2					2				講義		
AN3270	地球環境学 I	木下嗣基	1					1				講義	理科	隔年開講
AN3271	地球環境学 II	木下嗣基	1					1				講義	理科	隔年開講
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一、小針大助	2					2				実習		
AN3235	農場実習	七夕小百合、佐藤達雄	1					1				実習	農業	
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2					2				講義		
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1						1			演習		
AN2291	地域共生特別講義		1			1		1		1		講義		累加可
AN2292	地域共生特別演習		1			1		1		1		演習		

## 8. 地域総合農学科 地域共生コース（社会科学系）

以下の専門科目から86単位以上を修得することが卒業の条件です。

また、地域総合農学科では4年次で卒業論文(8単位)、ゼミナール(1単位)を履修するための条件が、次のとおり設けられています。

- ・3年次終了時における総修得単位数が96単位以上(卒業要件外科目を除く)であること。
- ・原則として、必修科目(卒業論文及びゼミナールの計9単位を除く)の未修得単位数が10単位未満であること。
- なお、条件ではありませんが、基盤教育科目は3年次終了時に卒業に必要な単位数を修得していることが望まれます。

### 必修科目（53単位）

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単 位	1年次 前 後	2年次 前 後	3年次 前 後	4年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN1003	農学入門	伊丹一浩、他	2	2				講義		
AN1208	地域総合農学入門	牧山正男、他	2	2				講義	農業	
AN1207	農業経済学一般	伊丹一浩、他	2	2				講義	農業	
AN1211	栽培学	浅木直美、他	2	2				講義	農業	
AN2208	農業と水と土	牧山正男、黒田久雄、前田滋哉、西脇淳子	2		2			講義	農業	
AN2205	統計学	未定	2		2			講義		
AN2207	農業経営学	西川邦夫	2		2			講義	農業	
AN2202	国際農業論	西川邦夫	2		2			講義	農業	
AN2276	AI・数理・データサイエンス演習	岡山毅、木下嗣基、小松崎将一、長澤淳	1		1			演習		
-	農学実習	七夕小百合、他	1		1			実習		指定クラス
AN2263	地域計画学	福与徳文	2		2			講義		
AN2266	フードシステム学	池田真也	2		2			講義	農業	
AN2265	農産物流通論	池田真也	2		2			講義		
AN2260	生物生産機械学	岡山毅	2		2			講義	農業	
AN2278	農作業学	小松崎将一	2		2			講義	農業	
AN3212	農業経済学	内田晋	2			2		講義	農業	
AN3267	土地利用制度論	福与徳文	2			2		講義		
AN3217	農政学	西川邦夫	2			2		講義	農業	
AN3208	地域環境ガバナンス論	伊丹一浩	2			2		講義		
AN3201	環境経済学	内田晋	2			2		講義		
AN3202	計量経済学	長澤淳	2			2		講義		
AN3213	農業食料社会学	福与徳文	2			2		講義	農業	
AN3260	農業史・環境史	伊丹一浩	2			2		講義	農業	
AN4001	ゼミナール	関係教員	1				1	演習		
AN4002	卒業論文	関係教員	8				8	実験		

### 選択必修科目①（8単位以上、ただし①-1・①-2・①-3のうち2つ以上は4単位すべてを履修すること）

シラバスコード	科目区分	授業科目	担当教員(予定)	単 位	1年次 前 後	2年次 前 後	3年次 前 後	4年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN1209	①-1	微積分学入門	西脇淳子	1	1				講義		
AN1210		線形代数学入門	西脇淳子	1	1				講義		
AN1213		力学入門	中石克也	2	2				講義	理科	
AN1203	①-2	経済学	内田晋	2	2				講義		
AN1206		社会学	福与徳文	2	2				講義		
AN1113	①-3	生物学Ⅰ	久保山勉、他	2	2				講義	理科	
AN1114		生物学Ⅱ	佐藤達雄、他	2	2				講義	理科	
AN1112	①-4	化学Ⅰ	長南茂、他	2	2				講義	理科	
AN1104		化学Ⅱ	白岩雅和、上妻由章	2	2				講義	理科	
AN1212		地学入門	★中里裕臣	2	2				講義	理科	
AN2117		物理学入門	中石克也	2		2			講義		
AN2112		統計学入門	★三中信宏	2		2			講義		

### 選択必修科目②（10単位以上）

シラバスコード	授業科目	担当教員(予定)	単 位	1年次 前 後	2年次 前 後	3年次 前 後	4年次 前 後	授業 形態	教職 対応	備 考
AN2206	土壌肥料学	七夕小百合	2		2			講義	農業	
AN2210	微積分学	前田滋哉	2		2			講義		
AN2255	作物学	未定	2		2			講義	農業	
AN2251	園芸学Ⅰ	井上栄一	2		2			講義	農業	
AN2259	水文学	黒田久雄	2		2			講義	農業	
AN2269	気象学	未定	1		1			講義	理科	
AN2270	農業気象学	未定	1		1			講義	農業	
AN2267	プログラミング基礎	岡山毅	2		2			講義		
AN3219	ランドスケープ整備論	高瀬唯	2			2		講義		
AN3233	地域社会調査実習	福与徳文、西川邦夫	1			1		実習		
AN3001	インターンシップⅠ	関係教員	1			1		実習		
AN3003	インターンシップⅡ	関係教員	2			2		実習		
AN3262	プログラミング演習	長澤淳	1			1		演習		

選択科目

シラバス コード	授 業 科 目	担当教員 (予定)	単 位	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		授業 形態	教職 対応	備 考
				前	後	前	後	前	後	前	後			
AN1108	経営学概論	未定	2		2							講義		
AN2204	線形代数学	木下嗣基	2			2						講義		
AN2209	微生物学	中島雅己	2			2						講義	理科	
AN2201	遺伝学 I	久保山勉	2			2						講義	理科	
AN2001	国際インターンシップ	佐藤達雄、他	1			1						実習		
AN2268	力学	木下嗣基	2			2						講義	理科	
AN2253	応用力学	木下嗣基	2			2						講義		
AN2254	ゲノム科学	未定	2			2						講義		
AN2272	流体力学	前田滋哉	1			1						講義	理科	
AN2271	水理学	前田滋哉	1			1						講義	農業	
AN3223	土壌物理学	牧山正男	1				1					講義	農業	
AN2258	植物病理学	中島雅己	2			2						講義	農業	
AN2252	応用昆虫学	北嶋康樹	2			2						講義	理科	
AN2257	植物生理学	未定	2			2						講義	理科	
AN3224	応用力学演習	向後雄二	2				2					演習		
AN3214	農業水利学	黒田久雄	2				2					講義	農業	
AN3210	地理情報学	木下嗣基	2				2					講義	農業	
AN3270	地球環境学 I	木下嗣基	1				1					講義	理科	隔年開講
AN3271	地球環境学 II	木下嗣基	1				1					講義	理科	隔年開講
AN3215	農業生産技術学	佐藤達雄	2				2					講義	農業	
AN3203	植物育種学	久保山勉	2				2					講義	農業	
AN3218	農薬学	菊田真吾	2				2					講義		
AN3206	生態学	北嶋康樹	2				2					講義	理科	
AN3236	農業安全管理実習	小松崎将一、小針大助	2				2					実習		
AN3222	多孔体物性学	西脇淳子	1				1					講義	理科	
AN3226	流体力学演習	黒田久雄	1				1					演習	理科	
AN3225	水理学演習	黒田久雄	1				1					演習	農業	
AN3221	粒状体力学	毛利栄征	1				1					講義	理科	
AN3220	土質工学	毛利栄征	1				1					講義	農業	
AN3235	農場実習	七夕小百合、佐藤達雄	1				1					実習	農業	
AN3256	植物感染機構学	古谷綾子	2				2					講義		
AN3266	地域総合農学演習	学科長	1					1				演習		
AN3259	農地環境工学	牧山正男	2					2				講義	農業	
AN3261	農業土木施設学	毛利栄征	2					2				講義	農業	
AN3268	自然環境と災害 I	黒田久雄、毛利栄征	1					1				講義	理科	隔年開講
AN3269	自然環境と災害 II	黒田久雄、毛利栄征	1					1				講義	理科	隔年開講
AN2291	地域共生特別講義		1			1		1		1		講義		累加可
AN2292	地域共生特別演習		1			1		1		1		演習		

9. AIMS関係科目

★非常勤講師

授 業 科 目	担当教員	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	備 考
			前	後	前	後	前	後	前	後		
地域サステナビリティ学概論	未定	1			1						講義	英語開講
環境共生論	成澤、黒田、坂上、森	2			2						講義	英語開講
環境保全型農業論	小松崎、佐藤、須藤、松浦	2			2						講義	英語開講
環境変動適応・防災論	田村、石川、他	2			2						講義	英語開講
地域環境管理論	未定	2			2						講義	英語開講
フィールド実践演習	坂上伸生	1			1						演習	英語開講
異文化交流	坂上伸生	1			2						講義	英語開講
地域サステナビリティ学特別講義Ⅰ	鎗田孝、他	1			1						講義	英語開講
地域サステナビリティ学特別講義Ⅱ	豊田淳、他	1			1						講義	英語開講
地域サステナビリティ学ゼミナール	坂上伸生	1			1						演習	英語開講
地域サステナビリティ学ラボワーク	坂上伸生	2			2						実習	英語開講

10. 地域志向教育プログラムにおける5学部混合地域PBL科目

授 業 科 目	担当教員（予定）	単 位	1年次		2年次		3年次		4年次		授業 形態	備 考
			前	後	前	後	前	後	前	後		
5学部混合地域PBLⅠ	●清水恵美子	2	2		2		2				講義	
5学部混合地域PBLⅡ	●清水恵美子	2			2		2				講義	
5学部混合地域PBLⅢ	●西野由希子、井上拓也	2	2		2		2				講義	
5学部混合地域PBLⅣ	●青木、瀬尾、塚田、八若	2	2		2		2				講義	
地域協創PBL	●桐原武文	2			2		2				講義	

## 11. 教育職員免許状取得のための履修案内

令和4年度入学生（22A）





# 教育職員免許状取得のための履修案内

(令和4年度入学者用)

## I. 茨城大学農学部で取得可能な免許状の種類

本学部では、申請のうえ必要単位数を修得して卒業すると高等学校教諭一種免許状(理科)及び(農業)を取得できます。

また、学部卒業時に高等学校教諭一種免許状(農業)を取得して本学大学院農学研究科に進学した者は、必要単位数を修得することにより、大学院修了時に高等学校教諭専修免許状(農業)を取得できます。

### 課程の名称、免許状の種類

	課程の名称	免許状の種類	免許教科
農 学 部	食生命科学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業
	地域総合農学科	高等学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	農 業

## II. 卒業後の免許状取得について

卒業時に免許状取得を希望しなかった者、又は単位不足で取得できなかった者が、卒業後に免許状の取得を希望する場合は、当該科目の課程認定を受けている大学の科目等履修生などで不足する単位を修得し、都道府県の教育委員会に個人申請を行うことで免許状を取得することができます(本学にも科目等履修生の制度はあります)。その場合は、科目等履修生として履修する前年度の11月末までに必ず学務グループへ連絡してください。

ただし、本学入学後に免許法が改正されている場合は、新法の適用になるため、履修内容に注意が必要です。

## III. 免許状取得に必要な単位数

### 1. 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(本学基盤教育科目)\*1

教職免許上の科目区分名	必要単位数	本学の授業科目名	単位数	
日本国憲法	2	日本国憲法(憲法と統治機構)*2	1	} 合わせて修得すること
		日本国憲法(憲法と人権保障)*2	1	
体育	2	身体活動(コンディショニング)	1	} 3科目のうち、2単位修得すること
		身体活動(個人スポーツ)	1	
		身体活動(チームスポーツ)	1	
外国語 コミュニケーション	2	Integrated English I A	2	} 1科目選択
		Integrated English II A	2	
		Integrated English III A	2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー	2	

\*1 阿見で開講されない科目もありますので、可能な限り1年次に修得してください。

\*2 令和4年度における農学部1年次生向けの指定科目(開講年度によって変更の可能性があります)

## 2. 教育の基礎的理解に関する科目

教育の基礎的理解に関する科目のほとんどは、夏季休業期間に毎年開講されます（阿見地区での開講科目は隔年開講）。これらの科目は卒業単位に含めることができません。（教育実習参加の必要条件になっている科目もありますので注意してください）。

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
教職概論 A	2	1	水戸 前学期木 3	必要
教育原理 A	2	1	水戸 前学期月 4	必要
教育心理学 A	2	1	水戸 前学期集中	必要
特別な支援を必要とする子どもの理解と支援 A	1	1	水戸 後学期集中	必要
教育の制度と経営 A	2	3	阿見（未定）毎年開講	必要
教育課程論 A	2	※	阿見（未定）隔年開講	必要

（注）履修年次が1となっている科目は、可能な限り1年次に修得してください。

（注）※は、2年次以降に開講予定です。詳細な履修年次や開講時期等は、掲示にて周知しますので、当該年度の掲示を必ず見るよう留意してください。

## 3. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目に関する科目のほとんどは、夏季休業期間に毎年開講されます（阿見地区での開講科目は隔年開講）。これらの科目は卒業単位に含めることができません。（教育実習参加の必要条件になっている科目もありますので注意してください）。

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
総合的な学習の時間の指導法	1	※	阿見（未定）	必要
特別活動論	1	※	阿見（未定）	必要
教育の方法と技術 A	2	2	阿見（未定）	必要
生徒指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2	※	阿見（未定）	必要
教育相談 A	2	※	阿見（未定）	必要
ICTを活用した教育の理論及び方法	1	3	阿見（未定）	必要

（注）※は、2年次以降に開講予定です。詳細な履修年次や開講時期等は、掲示にて周知しますので、当該年度の掲示を必ず見るよう留意してください。

## 4. 教育実践に関する科目

教育実践に関する科目は卒業単位に含めることができません。

科目名	単位	履修年次	開講場所・開講時期等	教育実習要件科目
教育実習	3	4	帰省実習（5月～10月）	
教職実践演習（中・高）	2	4	阿見（未定）	

## 5. 教科及び教科の指導法に関する科目

それぞれの免許教科については、以下の履修基準で定められた単位数（36 単位）を満たすように修得する必要があります。

高等学校教諭一種免許状（履修基準）

免許教科	教科及び教科の指導法に関する科目	最低修得単位
理 科	物理学	1 以上
	化学	1 以上
	生物学	1 以上
	地学	1 以上
	物理学実験 （コンピュータ活用を含む。） 化学実験 （コンピュータ活用を含む。） 生物学実験 （コンピュータ活用を含む。） 地学実験 （コンピュータ活用を含む。）	1 以上
	教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	4 以上
	合計修得単位数	36※
農 業	農業に関する科目	1 以上
	職業指導	1 以上
	教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	4 以上
	合計修得単位数	36※

（注）当学部では「大学が独自に設定する科目」がありませんので、すべて「教科及び教科の指導法に関する科目」で修得することになります。

### 「教科及び教科の指導法に関する科目」における必修科目について

次ページ以降に示す科目のうち、必修科目については、卒業要件上は選択科目となっていたとしても、免許状を取得するうえで必修科目となっているものがありますのでご注意ください。

「教科及び教科の指導法に関する科目」における必修科目

免許 教科	教科及び教科の指導法に関する科目	対象となる必修科目
理 科	物理学	「物理学入門」
	化学	「化学Ⅰ」
	生物学	「生物学Ⅰ」及び「生物学Ⅱ」
	地学	「地学入門」
	物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 化学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)、 地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	「生物学実験」
	教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	「中等理科教育法Ⅰ」及び「中等理科教育法Ⅴ」
農 業	農業に関する科目	「地域総合農学入門」 「農業と水と土」 「栽培学」 「農業経済学一般」
	職業指導	「キャリア開発論」
	教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	「農業科教育法Ⅰ」及び「農業科教育法Ⅱ」

※ 農学部で開講されている上記科目が対象。

# 高一理科

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
物理学	物理学入門	2
	力学入門	2
	力学	2
	流体力学	1
	流体力学演習	1
	多孔体物性学	1
	粒状体力学	1
化学	化学Ⅰ	2
	化学Ⅱ	2
	一般化学Ⅰ	2
	基礎生化学	2
	一般化学Ⅱ	2
	基礎有機化学	2
	天然物有機化学	2
	酵素化学	2
	生物有機化学	2
	地圏生態化学	2
生物学	生物学Ⅰ	2
	生物学Ⅱ	2
	動物生理学	2
	植物生理学Ⅰ	2
	微生物生態学	2
	植物環境応答学	2
	動物形態学	2
	細胞生物学	2
	植物生理学	2
	遺伝学Ⅰ	2
	応用昆虫学	2
	微生物学	2
	生態学	2
	遺伝学Ⅱ	2
細胞生物学	2	
地学	地学入門	2
	気象学	1
	地球環境学Ⅰ	1
	地球環境学Ⅱ	1
	自然環境と災害Ⅰ	1
	自然環境と災害Ⅱ	1
物理学実験（コンピュータ活用を含む）、 化学実験（コンピュータ活用を含む）、 生物学実験（コンピュータ活用を含む）、 地学実験（コンピュータ活用を含む）	化学実験	1
	機器分析実験	1
	生物学実験	1
	微生物学実験Ⅰ	1
	微生物学実験Ⅱ	1
	植物生理学実験	1
	応用動物昆虫学実験	1
	教科の指導法 （情報機器及び教材の活用を含む。）	中等理科教育法Ⅰ※ 中等理科教育法Ⅴ※

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

# 高一農業

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数
農業の関係科目	地域総合農学入門	2
	農業と水と土	2
	栽培学	2
	農業経済学一般	2
	動物科学総論	2
	基礎微生物学	2
	食品化学	2
	代謝生化学	2
	タンパク質・酵素実験	1
	糖質・脂質実験	1
	動物行動学	2
	栄養化学	2
	畜産物安全学	2
	遺伝子制御学	2
	動物管理学	2
	動物解剖学・生化学実験	1
	食品機能学	2
	畜産物科学	2
	食品加工実習	1
	動物育種学	2
	牧場実習	1
	動物生殖学	2
	応用微生物学	2
	動物細胞工学	2
	動物保健衛生学	2
	植物遺伝子工学実験	1
	動物細胞学実験	1
	動物衛生・管理学実験	1
	土壌肥料学	2
	作物学	2
	園芸学Ⅰ	2
	植物病理学	2
	生物生産機械学	2
	農業経営学	2
	農業気象学	1
	農業生産技術学	2
	作物学実験	1
	園芸学実験	1
	植物病理学実験	1
	農場実習	1
	工芸・飼料作物学	2
	園芸学Ⅱ	2
	生物生産機械学実験	1
	農業水利学	2
	農作業学	2
	農地環境工学	2
	農業土木施設学	2
	国際農業論	2
	フードシステム学	2
	農業経済学	2
	農業食料社会学	2
農政学	2	
農業史・環境史	2	
水理学	1	
水理学演習	1	
土質工学	1	
植物育種学	2	
水文学	2	
地理情報学	2	
土壌物理学	1	
測量学	2	
職業指導	キャリア開発論	2
教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	農業科教育法Ⅰ※ 農業科教育法Ⅱ※	2 2

※これらの科目は卒業要件外科目のため、卒業単位に含めることができません。

## IV. 教育実習について

### 1. 教育実習に係る日程概略

教育実習を希望する学生は2年次の1～2月頃のガイダンスに必ず出席してください。それ以降の申し込みは受け付けません。下表のオリエンテーション等の詳細な日程や場所、注意事項等は、その都度掲示で周知しますので掲示に注意してください。

2年次	1～2月	ガイダンス	(阿見キャンパス)
3年次	4月	事前指導Ⅰ	(阿見キャンパス)
	12月	事前指導Ⅱ	(阿見キャンパス)
	1月	事前指導Ⅲ	(阿見キャンパス)
	2月	事前指導Ⅳ	(阿見キャンパス)
4年次	4月	事前指導Ⅴ	(阿見キャンパス)
	5月～10月	教育実習(2週間以上)	(出身校等)
	12月	事後指導	(阿見キャンパス)

### 2. 教育実習に関する注意事項等

#### (1) 教育実習の実習校

原則として教育実習希望者が自分で出身中学校又は高等学校に依頼します(原則帰省実習)。

具体的な手続き等は3年次4月の事前指導Ⅰで説明します。なお、大学は実習校の斡旋等を基本的に行いません。

#### (2) 教育実習時に必要な条件

①次の単位を4年次4月までに修得していることが条件です。

3年次4月時点の要件	4年次4月時点の要件
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の基礎的理解に関する科目」の内、「教職概論A」「教育原理A」「教育心理学A」を修得済であること。</li> <li>・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち、「教育の方法と技術A」を修得済みであること。</li> <li>・「教育課程論A」又は「生活指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法」のいずれか一方を修得済であること。</li> <li>・(理科)「中等理科教育法Ⅰ」を修得済であること。</li> <li>・(農業)「農業科教育法Ⅰ」又は「農業科教育法Ⅱ」のいずれか一方を修得済であること。</li> <li>・「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」の3年次開講科目について履修中・履修予定であること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の基礎的理解に関する科目」を全て修得済であること</li> <li>・「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を全て修得済であること</li> <li>・(理科)「中等理科教育法Ⅰ・Ⅴ」を修得済であること。</li> <li>・(農業)「農業科教育法Ⅰ・Ⅱ」を修得済であること。</li> <li>・上記の教科教育法の科目を含めて、「教科及び教科の指導法に関する科目」を32単位以上修得済であること。</li> <li>・免許取得に必要な残りの科目について、履修中・履修予定であること。</li> </ul>

②教育実習希望者は、必ず事前事後指導として本ページ1記載のオリエンテーション等(1単位分)に全て出席しなければなりません。なお、このオリエンテーション等にやむを得ない理由以外で欠席又は遅刻した者は、教育実習に参加できなくなります。

#### [オリエンテーションの主な内容]

教育実習の心得、教育実習の目標・内容・観察、漢字かな遣いの指導、教育実習の特色と教科指導法、教育実習に際しての健康管理、その他。

#### [教育実習体験報告会の内容]

教育実習終了者(4年生)が教育実習の成果等について発表する(事後指導)。教育実習予定者(3年生)は発表を聴講して積極的に質問をするとともに、発表会終了後のグループ懇談会に必ず参加し、教育実習について理解を深める(事前指導Ⅱ)。

(3) 教育実習の期間及び単位数

- ①教育実習期間：4年次の5月から10月までの期間中の2週間（2単位分）です。
- ②単位数：実習を良好な成績で終了し、成績評価が合格の者には、3単位（事前事後指導1単位・実習2単位）が与えられます。ただし、卒業単位には含まれません。

(4) 実習校への謝金

実習校には謝金を支払います（実習校によるが2週間・2単位で10,000円程度）。学生個人での負担となります。ただし、実習校側で謝金の収受を辞退される場合もあります。

なお、「教育実習履修簿」「評価表」「出勤簿」等については、学生が本学所定のものを持参します（4年次生の教育実習ガイダンス（事前指導V）にて配付予定）。

## **V. 免許状の授与申請について**

卒業時に免許状の授与を希望する者は、一括申請の手続きを行わなければなりません。一括申請手続きとは、大学が学生個人に代わって申請書を取りまとめ、茨城県教育委員会に一括して申請手続きを行うもので、卒業時に免許状を取得する唯一の方法です（一括申請手続きの時期及び方法は、例年11月頃掲示にて周知します。）。

一括申請手続きを行わない者は、卒業後に、個人で住所地（帰省先）の都道府県教育委員会に申請することになります。個人申請の手続きでは、卒業した年の5月以降にならないと受け付けてくれない場合が多いようです（詳細は各都道府県教育委員会の指示を受けてください。）。

※編入学生の場合は、一度学務グループの窓口までお問い合わせください。



### Ⅲ 教育プログラム



## アントレプレナーシップ教育プログラム

### 1. アントレプレナーシップ教育プログラムについて

「アントレプレナーシップ」とは「起業家精神」と訳されます。新たな価値を創造しようとチャレンジするマインドや、そのための知識技能は、企業経営者としてだけでなく、あらゆる職業で求められる資質・能力と言えます。

茨城大学では、令和3年度から、茨城県との連携により「アントレプレナーシップ」「イントレプレナーシップ（社内起業家精神）」を有する人財※を育成する体系的なプログラムを実施しています。

※アントレプレナーシップ教育プログラムでは、茨城県の表記に合わせ、企業や社会の「宝」を養成することを目的に、「人材」ではなく「人財」と表現しています。

### 2. プログラムで育成する人財

アントレプレナーシップ教育プログラムでは、「いばらきに豊かさを生み出す起業家・社内起業家精神の育成」をテーマとし、これらを達成するために以下の能力を身に付けた人財を養成します。

- ① 新たな価値を事業化するための基礎的知識・技能を持った人財
- ② 地域や企業内から新たな価値を見出し、ビジネスによりその価値を高めようとするマインドを持った人財
- ③ 失敗を恐れずに新たな価値の創出に挑戦する行動力及び分析力を持った人財

テーマは「いばらき～」となっており、プログラムで実施される正課外活動の主なフィールドは茨城県ですが、1. で述べたとおり、アントレプレナーシップはあらゆる職業で求められるものですので、出身や卒業後の進路希望地域にかかわらず活用できる能力、必要とされる人財を育成します。

### 3. 履修資格

すべての学部学生が対象です。

### 4. プログラムの構成及び修了要件

プログラムは正課（授業）と正課外の活動で構成されます。正課は7単位修得する必要がありますが、その多くは基盤教育科目など、卒業要件を満たす科目に含まれますので、プログラムのためにすべての単位を卒業要件外で修得する必要はありません。ただし、このプログラムは、単に修了要件を満たすだけでなく、アントレプレナーシップを身に付けるために、自らが身に付けるべき知識や技能を認識して主体的に行動を起こし、学び続けることをねらいとしていますので、プログラム修了要件に関わらず、興味関心のある授業を積極的に履

修し、正課外活動にも意欲的に取り組んでください。

### (1) 修了要件

プログラムの修了は、以下のとおり、指定する単位を7単位修得し、かつ指定する正課外活動に参加することが要件です。

プログラム	単位	対象年次
入門プログラム	3単位	1年次
基礎プログラム（授業）	2単位以上	1年次
基礎プログラム（正課外活動）	—	2年次～
実践プログラム（授業）	2単位以上	3年次～
実践プログラム（正課外活動）	—	3年次～

### (2) 各プログラムの内容

#### ①入門プログラム

履修科目：基盤教育科目＞グローバル化と人間社会＞公共社会＞「アントレプレナーシップ入門Ⅰ～Ⅲ（各1単位）」を履修

ねらい：アントレプレナーシップの基礎的マインドの醸成

起業家・社内起業家として必要な資質・知識・技能の理解

#### ②基礎プログラム

履修科目：基盤教育科目又は専門科目で指定する科目を2単位以上履修

具体的な授業科目は年度によって変更されることもあるため、毎年提示する

ねらい：起業家・社内起業家として必要な知識・技能の修得

正課外活動：指定する学内外の活動への参加（大学が認めるビジネスプランコンテストへの参加など）

ねらい：企画力の育成、課題発見・解決能力の育成

#### ③実践プログラム

履修科目：指定する「インターンシップ」を2単位以上履修

ねらい：知識の統合・活用。アントレプレナー、イントレプレナーマインドの深化

正課外活動：起業体験

ねらい：チャレンジ精神の育成、振り返りや分析能力の育成

## 5. プログラムの修了

上記の修了要件を充足した場合は、プログラムの修了証を交付します。

## 地域志向教育プログラム履修要項

### 1. 「地域志向教育プログラム」について

茨城大学では、地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合い、学部1年次から大学院まで一貫して取り組める、学部横断型のアクティブ・ラーニングである「地域志向教育」を行います。

地域志向教育プログラムでは、地域志向科目や地域 PBL への取り組みから、地域に頼られ地域を先導できる学生を育成し、さらには地域の課題解決と活性化を行うことを目的としています。育成する具体的な人材像は、「地域志向で協創力ある学生」、「現場志向で課題解決力ある学生」、「未来志向でリーダー力ある学生」です。

### 2. 「地域志向教育プログラム」修了証の要件

プログラムでは修了証を発行します。この修了証は、それを持った学生が地域に役立つ人材であることを、茨城大学が認定するものです。そのため、1)要件の8単位以上の修得に加え、2)地域 PBL 科目における報告書や、3)プログラム対象科目以外も含めた卒業年次前期(夏季集中講義を含む)までの成績(\*)も勘案して発行します。卒業年次の後学期になりましたら、全学教育機構で、審査のうえ卒業時に発行します。

- \* ①プログラム対象科目以外も含めたすべての科目について、通算 GPA を用いた学部ごとの上位 75%以上が要件です。かつ②履修したすべてのプログラム対象科目について、通算 GPA を用いた学部ごとの上位 50%以上に該当する場合は、「優秀」を記載した修了証を出します。

なお、3年次前学期(同上)までに修了要件の8単位以上を修得している3年次生には、「修了見込証明書」を発行することができます。これにより、当該教育プログラムを履修していることを就職活動等においてアピールすることができます。3年次後学期になりましたら、全学教育機構から手順などを連絡します。

### 3. 「地域志向教育プログラム」履修科目について

#### (a) 基盤教育科目

1年次に必修科目の「茨城学」2単位を履修します。また、1年次以降、「茨城学」以外の「地域志向科目」から2単位以上を履修できます。ただし、後者については、修了証の要件に算入できるのは4単位までです。

なお、「茨城学」は本プログラム参加の有無にかかわらず、単位修得が必要な必修科目です。

(b) 全学共通科目・専門科目

1年次～4年次に科目が配置されています。

全学共通科目である「5学部混合地域 PBL 科目」及び「地域協創 PBL」あるいは学部の専門科目である「地域 PBL 科目」から2単位以上(2単位選択必修)を履修します。PBL には、問題解決を主目的として、学生の皆さんが主体となり実践するグループ学習(Problem-Based Learning)と、各チームが具体的な学修課題をたてて、プロジェクトを遂行しながら行う学習(Project-Based Learning)があり、本プログラムではいずれも地域課題等をテーマに行います。そして、これらに学部横断で取り組むのが「5学部混合地域 PBL 科目」で、さらに地域協創人材教育プログラム参加校(p.47)も加えて取り組むのが「地域協創 PBL」です。また、学部の専門性をより用いて取り組むのが学部の「地域 PBL 科目」です。シラバスをよく読んで履修してください。

また、農学部専門科目の「地域志向科目」から2単位以上を履修できます。

表1 地域志向教育プログラムの科目区分

科目の区分		科目名・授業題目名	必修・選択必修・選択	履修年次 * *	備考
全学教育 機 構	基盤教育科目	「茨城学」*	2単位必修	1年次	
		地域志向科目	選択	1～4年次	修了要件に算入できるのは4単位まで
	全学共通科目	5学部混合地域 PBL 科目 「地域協創 PBL」	2単位選択必修	1～4年次	「自由履修」の科目
学 部	専門科目	地域 PBL 科目 ・地域計画学		2～4年次	
		地域志向科目 ・農学入門 ・土地利用制度論 ・ランドスケープ整備論 ・地域環境ガバナンス論 ・農業水利学 ・農地環境工学	選択	1～4年次	
修了要件単位数			合計8単位以上		

\* 「茨城学」はプログラム参加の有無にかかわらず、すべての学部学生が卒業に単位修得が必要な必修科目です。

\*\* 修了証の履修要件に算入できるのは4年次の前学期(夏季集中講義を含む)までです。

表2 地域志向教育プログラムのカリキュラムマップ

(Q:クォーター)

1年次	前学期	1Q 2Q 3Q	茨城学		5学部混合地域 PBL	
	後学期	4Q				
2年次	前学期	1Q 2Q 3Q	「茨城学」以外の 基盤教育科目の地 域志向科目	学部の地域志向科目	地域協創 PBL	学部の地域 PBL
	後学期	4Q				
3年次	前学期	1Q 2Q 3Q				
	後学期	4Q				
4年次	前学期	1Q 2Q 3Q				
	後学期	4Q				

\* 3年次前学期(夏季集中講義を含む)までに修了要件の8単位以上を修得している3年次生には、「修了見込証明書」を発行することができます。

\*\* 「修了証」の履修要件に算入できるのは4年次の前学期(同上)までの成績です。

## 地域協創人材教育プログラム

### 1. 地域協創人材教育プログラムについて

地域協創人材教育プログラムとは、茨城大学をはじめとして、茨城キリスト教大学、茨城県立医療大学、茨城工業高等専門学校、常磐大学が協働して行う人材教育プログラムです。

茨城大学では、地域協創人材教育プログラムの中で、地域志向教育プログラムの修了に加えて、「就業支援科目」並びに「インターンシップ科目」を修得し、「地域理解力」、「地域の課題発見・解決能力」及び「実践に即したプロジェクト企画能力」を有する学生を育成します。

これらの能力を有する学生を、茨城県という地域を理解し、そこでの課題を発見し、解決するための方法を企画することのできる人材とみなし、「地域協創人材」として認定します。

### 2. 「地域協創人材」認定の要件

認定は、地域志向教育プログラムを修了していること、及び下記の「地域協創人材認定のための対象科目（2単位以上）」を修得していることが要件となります。この要件を満たした者を「地域協創人材」として認定し、卒業時に認定証を交付します。

なお、3年次後学期までに認定要件の10単位以上を修得している4年次生は、「プログラム修了見込証明書」を発行することができます。これにより地域協創人材に認定見込みであることを就職活動等においてアピールすることができます。3年次後学期になりましたら、手順などを連絡します。

「地域協創人材」認定のための対象科目

科目の区分	科目	必修・選択必修	履修年次（Q:クォーター）**	備考
基盤教育科目	ライフデザイン*	1単位必修	3年次 1Q 又は 2Q	
	公共社会 (インターンシップ実習Ⅰ・Ⅱ)	1単位選択必修	1年次全学部	
専門科目	インターンシップ科目		学部が定める履修年次による	

認定要件：地域志向教育プログラム 8 単位に上記 2 単位を加えた 10 単位以上

\*「ライフデザイン」はプログラム参加の有無にかかわらず、すべての学部学生が卒業に単位修得が必要な必修科目です。

\*\*認定証の履修要件に算入できるのは4年次の前学期(夏季集中講義を含む)までです。

### 3. 「地域協創人材」認定のための履修科目について

(a) 地域志向教育プログラムの対象科目(8単位以上)

「地域協創人材」認定のためには、「地域志向教育プログラム」(p.47-48)の対象である基盤教育科目(修了要件に算入できるのは4単位まで ※)と専門科目から合計8単位以上履修します。

※ 基盤教育科目からは、「茨城学」及びリベラルアーツ科目のうち全学教育機構が「地域志向科目」として位置づける授業(年度によって変わります)を履修。

(b) 就業支援科目(1単位必修)

「就業支援科目」として「ライフデザイン」(1単位必修)を3年次の第1クォーターまたは第2クォーターに指定のクラスで履修します。また、リベラルアーツ科目のグローバル化と人間社会(公共社会)から、インターンシップや就職に当たり、働くことの意味や実態に関してあらかじめ知ること役立つ科目として「仕事を考える」を推奨しますので、できる限り履修するようにしてください(認定要件には加わりません)。

(c) インターンシップ科目(1単位必修)

農学部専門科目である「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」、あるいは基盤教育科目のリベラルアーツ科目である「公共社会(インターンシップ実習Ⅰ)」、「公共社会(インターンシップ実習Ⅱ)」の中からいずれかを必修として履修します。

地域協創人材教育プログラムのカリキュラムマップ

1年次	1Q,2Q	地域志向教育 プログラムの 対象科目 (1~4年次)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">                     (就業支援科目)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">                     推奨科目「仕事を考える」(1年TA)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">                     推奨科目「仕事を考える」(2年LPS)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">                     ライフデザイン                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px;">                     インターンシップ科目(学部が定める履修年次)                 </div>	公共社会 「インターン シップ実習」 (1年次~)
	3Q,4Q			
2年次	1Q,2Q			
	3Q,4Q			
3年次	1Q,2Q			
	3Q,4Q			
4年次	1Q,2Q			
	3Q,4Q			



# グローバル英語プログラム履修要項

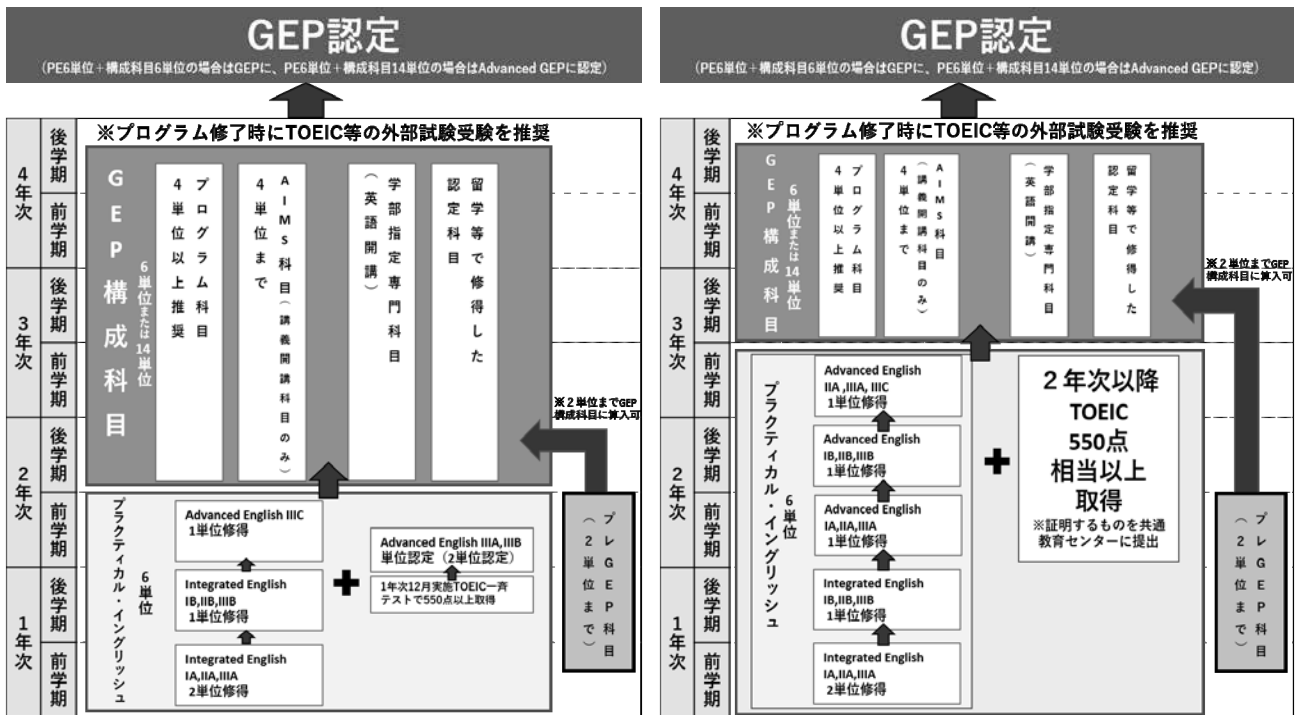
## 1. グローバル英語プログラムについて

グローバル英語プログラム (GEP : Global English Program) とは、プラクティカル・イングリッシュ (PE) に加えて、本プログラムを構成する全学共通科目及び専門科目を発展的かつ系統的に履修し、学生が主体的に英語で学修を行うことを促進するプログラムです。学生のニーズに合わせて、4技能の向上、専門分野における英語力の向上、留学への動機づけと準備、グローバル社会に対応するキャリア形成の意識向上を目指すプログラム科目を提供します。学生として、社会人として、研究者として国内外において実践的英語力を活かしてグローバルな視点を持って活躍できる能力を養成することを目的としています。なお、本プログラムの授業は、原則として英語で行われます。

## ○グローバル英語プログラム (GEP) カリキュラムマップ

モデル1: 1年次の一斉テスト以降 (12月) ~3月に TOEIC550点相当以上を取得し、1年次の3月末までに単位認定申請した学生

モデル2: 1年次の12~3月に TOEIC550点相当以上を取得しなかった学生



## 2. グローバル英語プログラムで育成する英語力

グローバル英語プログラム (GEP) では、ディプロマ・ポリシーのうち、特に DP① (世界の俯瞰的理解)、DP② (専門分野の学力)、DP③ (課題解決能力・コミュニケーション力)、DP④ (社会人としての姿勢) の4つを踏まえて教育を行い、以下の英語力を育成することを目指します。

- ・ 基盤教育科目で学んだ時事問題や自国の文化等について見解を述べることのできる英語力
- ・ 学部の専門教育で学んだ知識を前提として、専門分野の論文を理解することのできる英語力、さらに、専門分野の研究発表 (口頭発表、論文発表) をすることのできる英語力
- ・ 英語圏の大学で専門分野を学ぶことのできる英語力
- ・ 企業で必要とされる英語力

### 3. 履修資格およびプログラム修了要件

#### (1) 履修資格

「プラクティカル・イングリッシュ」6単位修得かつ TOEIC 550 点相当以上を履修要件とします。

#### (2) 履修手続

GEP の履修に当たっては、上記履修資格を満たした上で、2年次後学期から4年次12月までに「茨城大学グローバル英語プログラム履修届」（以下、履修届）に必要書類を添えて、農学部学務グループに提出してください。必要書類は、履修届配付時に案内します。履修届の用紙は、農学部学務グループで配付します。履修届を提出した学生は、表1のプログラム科目を履修することができます。令和2年度の開講科目については、別冊の「令和2年度大学共通教育開講授業科目一覧」で確認してください。

プログラム科目については、上記の英語力育成の観点から、4科目以上履修することを推奨しています。プログラム科目は、2年次後学期から開講されます。**履修資格を満たした学生以外は履修できない科目です。**

#### (3) プログラム修了要件

必修の基盤教育科目「プラクティカル・イングリッシュ (PE)」を基礎に、表1の全学共通科目及び指定する農学部専門科目（留学などによる単位取得に係る認定単位を含む。）を履修し、下表の単位を修得した者を修了認定し、修了証を発行します。修了証は、上記履修届を提出した者が修了要件を満たした場合、その翌学期に発行します。GEP を修了した学生が、修了証発行後に Advanced GEP の修了要件を満たした場合は、GEP の修了証に追加して、Advanced GEP の修了証を発行します。Advanced GEP は、下記のとおり GEP よりも修得すべき単位数が多い、より発展的なプログラムとなっています。

また、修了要件ではありませんが、本プログラム修了時に英語力の向上度を測定する指標として、外部検定試験「TOEIC」の受験を推奨します。

プログラム名	プラクティカル・イングリッシュ (1年次前学期～3年次前学期)	全学共通科目及び専門科目 (2年次後学期～)	合計
GEP	6単位 (必修)	6単位 (選択)	12単位
Advanced GEP *	6単位 (必修)	14単位 (選択)	20単位

\*GEP 修了要件よりも全学共通科目又は専門科目から8単位多く修得した学生に修了認定します。

表1 GEP構成科目

区分	授業科目	単位数	必修/選択
G E P 構 成 科 目	基盤教育科目 プラクティカル・イングリッシュ Integrated English IA、IIA、IIIA	2	必修 (2 単位)
	プラクティカル・イングリッシュ Integrated English IB、IIB、IIIB	1	必修 (1 単位)
	プラクティカル・イングリッシュ Advanced English IA、IB、IIA、IIB、IIIA、IIIB、IIIC	1	必修 (3 単位)
	English for Socializing	1	選択
	Reading & Discussion	1	選択
	Presentations in English	1	選択
	TOEIC & TOEFL	1	選択
	Academic Speaking	1	選択
	Academic Writing	1	選択
	Studies in Particular Fields	1	選択
	Studying Abroad	1	選択
	Bilingualism	1	選択
	Studies in Contemporary Japan	1	選択
A I M S 科 目	AIMSプログラム科目のうち、講義科目として開講されているもの	1~2	選択 4 単位までとする
専 門 科 目 ※	各学部開講の英語による専門科目 (所属学部以外も含む)	1~3	選択
	留学などの単位修得により専門科目として認定された科目	所属学部における 認定単位数	

4 単位以上推奨

・1 年次後学期から 2 年次前学期に英語で開講されている基盤教育科目の一部を「プレ GEP 科目」として指定します。GEP の履修要件を満たし、GEP プログラム修了認定を受ける場合は、2 単位までを GEP 構成科目として認定します。指定科目は表 3 のとおりです。

- ・留学などの単位修得には、単位互換で修得した科目も含まれます。
- ・各学部開講の専門科目における GEP 構成科目は、表 4 のとおりです。

**表2 全学共通科目の授業概要**

授業科目	概要 (予定)	使用言語
English for Socializing	スピーキング力だけでなく、様々な国の人たちと英語で意思疎通を図り、人間関係を構築する際に求められるコミュニケーション力ならびにソーシャル・スキルなどを養成する。	英語主
Reading & Discussion	時事問題やアカデミックなトピックについての記事や論文などの内容を理解し要約できるリーディング力、それを基に論理的に自分の主張を組み立て主張できるディスカッション力を養成する。	日英併用
Presentations in English	主張を論理的に組み立て、かつ先行研究のデータを入れるなど客観性を持たせた内容に基づいて、聴衆にとって聞きやすく説得力のあるプレゼンテーションを行うのに必要な能力を養う。	日英併用
TOEIC & TOEFL	TOEIC で800点以上を目指すためのトレーニングを行う。また、(交換)留学を視野にいれ、TOEFL (ITP)で550点以上を目指すためのトレーニングを行う。	日英併用
Academic Speaking	伝えるべき内容を論理的に組み立てる能力、プレゼンテーションやディスカッションなどで必要とされるアイコンタクトやジェスチャーなどを取り入れた相手に伝わるスピーキング力を養成する。	英語主
Academic Writing	英語でレポート、エッセイ、論文を書く際に必要とされるライティング力を養成する。事例を教材として効果的な構成方法や表現方法を学ぶ。	日英併用
Studies in Particular Fields	専門分野に関わる書物や論文を理解できる語彙力(特に専門用語)や読解力などの養成を通じて、特定の専門分野について英語で学べるようになることを目標とする。	英語主
Studying Abroad	留学する際に必要とされる様々な国における常識の違いや価値観の相違などを理解する力を養成する。	英語のみ
Bilingualism	グローバル社会におけるバイリンガリズム(2言語併用)の概念や考え方を言語学、心理言語学、第二言語習得理論など様々な観点からの見解を学ぶ。	英語のみ
Studies in Contemporary Japan	現在の日本について担当者の専門分野のトピックを中心に学ぶ。	英語のみ

表3 令和4年度「プレGEP科目」開講予定一覧

科目区分	授業科目区分	授業題目	単位数	対象年次
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Cross-cultural Understanding: Japan and America	1	1
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	International Exchange	1	1
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Japanese Pop Culture A	1	2
異文化コミュニケーション	人間とコミュニケーション	Japanese Pop Culture B	1	2
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修I(ブルネイ)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修II(ブルネイ)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修I(マレーシア)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修II(マレーシア)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修I(オーストラリア)	1	1
異文化コミュニケーション	多文化共生	短期海外研修II(オーストラリア)	1	1
ヒューマニティーズ	メディア文化	主権者としてのメディア学A (Media and Democratic Citizenship A)	1	1
ヒューマニティーズ	メディア文化	主権者としてのメディア学B (Media and Democratic Citizenship B)	1	1
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Diversity and Social Issues in Japan A	1	1
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Diversity and Social Issues in Japan B	1	1
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Media and Politics in Japan A	1	1
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Media and Politics in Japan B	1	1
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Analyzing Social Issues A	1	2
グローバル化と人間社会	グローバルスタディーズ	Analyzing Social Issues B	1	2

表4 GEP構成科目(専門科目)一覧

開講学部	授業科目	単位数	対象年次
人文社会科学部	Advanced Reading	2	2
人文社会科学部	Advanced Writing	2	2
人文社会科学部	Advanced Speaking	2	2
人文社会科学部	英語圏の文化と社会I	2	2
人文社会科学部	英語圏の文化と社会II	2	2
人文社会科学部	English Seminar for Intercultural Communication I	2	3
人文社会科学部	English Seminar for Intercultural Communication II	2	3
人文社会科学部	English Seminar for Intercultural Communication III	2	3
人文社会科学部	English Seminar for Intercultural Communication IV	2	3
教育学部	異文化理解概論	2	2
理学部	Environmental Chemistry	1	2
工学部	工学実用英語	1	3
農学部	ビジネス英語I	2	2
農学部	ビジネス英語II	2	3
農学部	英語コミュニケーションI	2	2
農学部	英語コミュニケーションII	2	3
農学部	食品安全分析学	2	2
農学部	食品製造学	2	3
農学部	食品保蔵学	2	3
農学部	毒性学	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義I	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義II	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義III	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義IV	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義V	2	3
農学部	国際食産業科学海外講義VI	3	3
農学部	国際食産業科学海外講義VII	3	3
農学部	国際食産業科学海外講義VIII	3	3
農学部	国際食産業科学海外講義IX	3	3
農学部	国際食産業科学海外講義X	1	3
農学部	国際食産業科学海外講義XI	1	3

## AIMS プログラム履修要項

### 1. 目的

AIMS (Asian International Mobility for Students) プログラムとは、SEAMEO RIHED (東南アジア教育大臣機構・高等教育開発センター) が主導する国際共同教育推進プログラムであり、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、ブルネイ・ダルサラーム、シンガポール、韓国および日本の9か国(2019年現在)が加盟しています。その目的は、政府奨学金の支給により、「ASEAN 共同体」の持続的発展に資する10分野(農学、工学、食糧科学技術、経済学、国際ビジネス、言語・文化、観光科学、環境管理科学、生物多様性、海洋学)の学生交流を促進し、国際的な視野をもった人材を育成することです。

アジアが「環境と調和した多文化共生社会の持続的発展」の道をたどるのかどうかは、世界の未来を左右する影響があり、その実現に貢献することは、私たちにとって重要な課題です。本プログラムでは、「ASEAN 発、環境に配慮した食料供給・技術革新・地域づくりを担う次世代人材養成」を目標として、ASEAN 地域の協定校に1学期留学します。さまざまな産業を取り巻く環境と地域社会の抱える問題に直接触れることで、持続可能な社会を実現するための自立的な問題解決能力を有するグローバル人材へと成長していくことを目指します。

### 2. 派遣プログラムの内容

#### (1) 留学先

留学が可能な提携校は、以下の大学です。茨城大学が新規に協定を締結するなどして、留学可能な大学が増える場合があります。なお、食生命科学科国際食産業科学コースの学生でAIMS加盟大学に留学する場合は、本プログラムへの応募も必要となります。

##### ○インドネシア共和国

ボゴール農科大学農学部／農業工学部食料科学技術学科 (農学・食品科学系)

ガジャ・マダ大学農学部 (農学系)

スリウィジャヤ大学農学部 (農学系)

##### ○マレーシア

マレーシア科学大学産業科学部 (食品科学系)

##### ○タイ王国

カセサート大学農学部熱帯農学国際プログラム等 (農学系)

チェンマイ大学国際カレッジ (環境科学・人文社会科学系)

メーファールアン大学農産学部 (食品科学・バイオサイエンス系)

##### ○ブルネイ・ダルサラーム国

ブルネイ・ダルサラーム大学理学部等 (理工学・人文社会科学系)

#### (2) 開講科目

各大学で開講される科目については、派遣前年度の後学期に通知されるAIMSプログラム派遣学生募集要項を参照してください。

### (3) 募集人数・応募資格

履修を希望する年度の AIMS プログラム派遣学生募集要項を参照してください。

### (4) 修了要件・単位認定

派遣先大学へは1学期間（3年次の8月から翌年1月頃まで）留学し、およそ9～15単位分の科目を履修します。所定の要件を満たした学生には、SEAMEO-RIHED で定めた「AIMS プログラム修了証」が各大学から与えられます。また、留学先で修得した単位は、申請により審議を経た上、茨城大学における修得単位として認められます。ただし、認定された科目の成績は GPA には算入されません。

## 3. 履修上の注意事項

- (1) 派遣先大学で履修する講義は、すべて英語で行われます。
- (2) 派遣先大学の事情により、予定通り授業が開講されない場合があります。
- (3) 留学期間中は、休学とはなりません。
- (4) 参加希望者は、同プログラムで海外大学から受け入れる留学生向けに開講している「AIMS プログラム科目」を履修することを推奨します。
- (5) 留学に係る費用などプログラムの詳細については、AIMS プログラム派遣学生募集要項を参照してください。
- (6) 参加希望者が多数の場合は、茨城大学 AIMS 運営委員会による選考の上、海外連携大学への派遣学生が決定されます。なお、選考では、志望理由、TOEIC 等による英語力、成績 (GPA) を考慮します。
- (7) 本プログラムの履修を希望する者は、AIMS プログラム派遣学生募集要項に従って、期日（2年次後学期を予定）までに応募書類を提出してください。

## 4. プログラムに関する相談窓口

- (1) プログラムホームページ  
<http://ddp.agr.ibaraki.ac.jp/japan/aims/aims.html>
- (2) プログラム内容及び授業科目内容について  
国際交流課  
E-mail : IU-AIMS@ml.ibaraki.ac.jp
- (3) 履修申込について  
農学部学務グループ  
電話 : 029-888-8522  
E-mail : Fp-OIA@ml.ibaraki.ac.jp

## 食品衛生管理者等任用資格プログラム履修要項

### 1. 食品衛生管理者等任用資格プログラムについて

食生命科学科の所属学生は、所定の科目を修得して卒業することで、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得することができます(本プログラムは、地域総合農学科の学生は適用外となります)。

任用資格の取得希望者は、卒業予定年度の5月末日までに「食品衛生管理者等任用資格プログラム申請書」に必要事項を記入の上、学務グループまで申請書を提出してください。申請し、要件を満たした者は、学位記とともにプログラム修了証が与えられます。

### 2. 食品衛生管理者等任用資格の要件について

本プログラムの修了要件は、下表のとおりです。

区 分	科目名	プログラム科目区分		単位数
		必修	選択	
A 群 化学関係	一般化学 II	2		
	機器分析実験	1		
	基礎有機化学	2		
	一般化学 I	2		
	小計	4 科目		7
B 群 生物化学関係	基礎生化学	2		
	代謝生化学	2		
	食品化学	2		
	タンパク質・酵素実験	1		
	食品安全分析学	2		
	食品安全科学実験	1		
	毒性学	2		
	小計	7 科目		12
C 群 微生物学関係	基礎微生物学	2		
	微生物学実験 I	1		
	食品微生物学	2		
	食品保蔵学	2		
	食品製造学	2		
		小計	5 科目	
D 群 公衆衛生学関係	食品衛生学	2		
		小計	1 科目	
A～D 群のプログラム必修科目を修得していること				
E 群 その他関連科目	畜産物科学	2		
	栄養化学		2	
	食品機能学		2	
	基礎土壌学	2		
	天然物有機化学	2		
	酵素化学	2		
	応用微生物学		2	
	生物有機化学		2	
	動物保健衛生学		2	
	動物衛生・管理学実験		1	
	小計	10 科目		19
	小計 (E)	8	11	19
E 群のプログラム必修科目を修得し、かつ A 群～E 群の単位数の合計が 40 単位以上であること。	A 群～E 群の <b>単位数</b> 合計	38	13	<b>51</b>

(注) 本プログラム必修科目の履修に当たっては、4 年次での履修が必要になる場合があります。



年 月 日

### 食品衛生管理者等任用資格プログラム申請書

食品衛生管理者等任用資格プログラムについて、下記のとおり申し込みます。

学生番号			学生氏名		
前年度までの 修得単位数	A群	単位	D群	必修： 選択：	単位 単位
	B群	単位	E群	必修： 選択：	単位 単位
	C群	単位	合計		単位

- ・ 申請書の提出期限は卒業予定年度の5月末日（末日が休日の場合は直前の平日）までです。
- ・ 申請内容に変更等が生じた場合は、農学部学務グループへ早急に連絡してください。

## 農学分野データサイエンス教育プログラム

### 1. 「農学分野データサイエンス教育プログラム」について

昨今のデジタル社会において「データサイエンス」は、社会で活躍するにあたって身につけるべき基礎的な教養と捉えられつつあります。農学分野においても例外ではなく、気象データ、生育データなど様々なデータを大量に扱う必要があり、データサイエンス教育の必要性が高まっています。またAIと呼ばれる機械学習等を用いた農学分野の課題に対する取組みも、すでに数多く社会実装されており、それらを活用できる農学分野の専門知識を持ったデータサイエンティストの需要も年々高まっています。

### 2. プログラムで育成する人材

そのような社会的背景を受け、農学分野データサイエンス教育プログラムでは、農学分野の専門知識を有し、かつ以下の能力を持つデータサイエンティストの養成を目的とします。

- ・データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力
- ・データサイエンスを活用し課題解決につなげる基礎能力
- ・農学分野の実課題にデータサイエンスを応用するための大局的な視点から俯瞰する能力

### 3. 履修資格

地域総合農学科の学生に限ります。

修正は申請時に間に合いませんでしたが、この文言を削除し、農学部学生すべてがプログラムを履修できるようになることが学部として決定しております。

### 4. プログラムの構成

表1に本プログラムの科目区分を、表2にカリキュラムマップを示します。データサイエンティストとしての素養を身につけるためには、数学的基礎をはじめとする、データサイエンスに関わる幅広い素養が求められます。また、データサイエンスを活用して農学分野の実課題を解決するためには、当然のことながら、農学分野の専門的知識も身につける必要があります。そのための科目を必修としてあります。

データサイエンスを実際に専門科目の中で、どのように活用されるのかを理解するために、プログラム対象となる専門科目群から、4単位以上を取得してください。各科目のデータサイエンス教育的要素はシラバスに記載されているので、それらも選択の参考にしてください。

このプログラムは、農学分野におけるデータサイエンティストとしての素養を身につけることを狙いとしていますので、単に修了要件を満たすだけでなく、データサイエンスに関わる正課外活動にも意欲的に取り組んでください。

表1 農学分野データサイエンス教育プログラムの科目区分

科目の区分	科目	必修・選択必修	履修年次
基盤教育科目	情報リテラシー*	2単位必修	1年次
	AI・データサイエンス入門*	1単位必修	1年次
専門科目	微積分学入門	1単位必修	1年次
	線形代数学入門	1単位必修	1年次
	統計学*	2単位必修	2年次
	AI・数理・データサイエンス演習*	1単位必修	2年次
	プログラミング基礎	2単位必修	2年次
	プログラミング演習	1単位必修	3年次
	農学実習*	1単位必修	2年次
	プログラム対象となる専門科目群（農作業学、生物生産機械学、地理情報学、農業気象学、計量経済学、ゲノム科学）	4単位以上選択	2、3年次
		16単位以上	

\*プログラム参加の有無にかかわらず必修科目

表2 農学分野データサイエンス教育プログラムのカリキュラムマップ

1年次	前学期	1Q	情報リテラシー	微積分学入門	プログラム対象の専門科目群	
		2Q		線形代数学入門		
	後学期	3Q	AI・データサイエンス入門	プログラム対象の専門科目群		
		4Q				
2年次	前学期	1Q	AI・数理・データサイエンス演習		統計学	プログラム対象の専門科目群
		2Q			農学実習	
	後学期	3Q	プログラミング基礎	プログラム対象の専門科目群		
		4Q				
3年次	前学期	1Q	プログラム対象の専門科目群			
		2Q				
	後学期	3Q		プログラム対象の専門科目群		
		4Q			プログラミング演習	
4年次	前学期	1Q	プログラム対象の専門科目群			
		2Q				
	後学期	3Q		プログラム対象の専門科目群		
		4Q				

## 5. プログラムの修了

上記の修了要件を充足した場合は、プログラムの修了証を交付します。

プログラミング演習は担当教員の退職に伴い令和5年度の履修案内から削除しております。今回の申請に際し、プログラミング演習はプログラムの構成科目として記述しておりません。



## IV 学生生活



## 1. 保健室

農学部では、健康で快適に学生生活が送れるように、健康相談や健康指導等を農学部管理棟1階の保健室で常勤の看護師が対応しています。

[看護師常駐時間]

月～金 8:30～17:15 (昼休み 12:00～13:00)  
※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇(年末年始)を除く

水戸キャンパスでは保健管理センターが利用できます。医師も常駐しています。

### ● 健康診断

健康診断には、定期健康診断、特殊健康診断があります。

[定期健康診断]

毎年1回、実施しますので必ず全員受診してください。都合で受診できない場合は事前に保健室の係にご相談ください。

受診日は1年次は保健管理センター、2年次以降は保健室からの掲示などにて確認してください。

未受診の場合には、奨学金、実習、就職及びその他の事情で健康診断証明書が必要になった場合でも発行されません。各自の負担により医療機関を受診し、健康診断証明書を発行してもらうことになります。

[特殊健康診断]

毎年1回、11月頃に実施します。該当学生は事前に特殊健康診断申込書で申し込みの上、受診してください。学部4年次以上で有害化学物質(有機溶剤及び特定化学物質等)を扱う学生が対象です。

### ● 健康診断証明書

奨学金申請、就職試験、受験等により健康診断証明書が必要なときは、学生証(ICカード)を用いて、証明書自動発行機から受けとることができます。証明書自動発行機から発行できないときは、保健室の係にご相談ください。

[証明書自動発行機で発行する場合]

稼働時間: 8:30～18:00  
(時間外、土曜日、日曜日、休日、祝日は稼働しません。)  
※パスワードは、情報処理関連の授業で使用するものと同じです。

[保健室で証明書を発行する場合]

保健室で「証明書交付願」に必要な事項を記入、保健室の係に提出してください。

※ 代理人へのお渡しはできません。

### ● 就職に係る健康診断書

就職先から特に指定がないときには、証明書自動発行機から発行された健康診断書を提出できます。

次の場合、自費により医療機関で受診し健康診断書を発行してもらってください。その際は、保健室の係にご相談ください。

- ・就職先に提出する健康診断書の記載項目について、定期健康診断の受診項目で不足する場合
- ・就職先への提出期日が、定期健康診断実施日より前の場合

## ● 予防接種

教育実習やインターンシップ等に参加する学生に対して、麻疹（はしか）の抗体検査及び予防接種（対象は抗体陰性者）を受けるよう指導しています。

## ● 診察・検査・応急処置・健康相談・医療機関への紹介

保健室には応急薬品が常備されていますから、軽度の外傷・風邪の初期の場合など、気軽に利用してください。また、近隣の医療機関の案内や紹介も行っています。

学校医の診察が毎月1回ありますので、気になる症状についての診察や解説、日常生活上の注意など、何でもご相談ください。必要に応じて専門医を紹介します。なお、学校医の診察日は掲示、又は保健室で確認してください。

その他、必要な場合には、次のような検査ができます。

- 1) 常時行うことができるもの：身体測定・血圧測定・視力検査・体脂肪測定・握力測定
- 2) 医師の指示に基づき行う検査：尿検査・心電図検査

大学内での突然の体調不良やケガが発生した場合は、保健室（TEL：029-888-8529 又は 029-888-8522）に連絡してください。

## 2. 保険制度

学生が大学生活において、傷害を負った場合等に対処する保険として、「学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）及び「学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）があります。

怪我の状況により、保険金の請求ができますので、保健室の係にお問い合わせください。

### ● 学生教育研究災害傷害保険（略称「学研災」）

国内外において学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

### ● 学研災付帯賠償責任保険（略称「付帯賠償」）

国内外において学生が正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財産を損壊したりすることにより被る法律上の損害賠償責任に対処する保険です。

### ● 学研災付帯学生生活総合保険（略称「付帯学総」）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保障範囲を広げた保険です。

付帯学総の加入は学研災加入者に限られます。

## 3. 困りごとや悩みごとの相談

学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、いろいろな困りごとや悩みごとについて、学生相談を行っています。

どんなことでも構いません。問題を一人でため込まず気楽に相談してください。もちろん相談内容については、厳しく秘密が守られます。また、相談したことで不合理な取り扱いがされることは一切ありませんので、安心して相談してください。



## [ 茨大なんでも相談室 阿見分室 ]

なんでも相談室では、学生のあらゆる相談に応じます。

困っていること、悩んでいることがあれば、どんなことでも相談してください。

相談室で話されたこと、また、利用者のお名前は一切外部には漏れることはありません。

なんでも相談室では、インターカー（相談受付者）が相談内容に応じて、より適切な相談員を紹介いたします。

○相談は次のような方法でできます。

\*直接来談：農学部管理棟1階の保健室又は学生相談室（火・木・金曜日）にいらしてください。

開室時間 8:30～17:00 まで（昼休みは 12:00～13:00）

※土・日曜日、祝日、夏季休暇及び冬季休暇（年末年始）を除く

\*電話：029-888-8528

\*手紙：〒300-0393 稲敷郡阿見町中央 3-21-1

茨城大学農学部「茨大なんでも相談室」阿見分室あて

- 相談は、茨大なんでも相談室、同日立分室、同阿見分室、いずれの場所でも受け付けます。
- 開室時間は、時期により変更することがあります。

※茨大なんでも相談室の詳細については、「何か困っていること悩んでいることありませんか」のパンフレットをご覧ください。

## [ カウンセラーによるカウンセリング ]

学生時代は、活動範囲も広がり自分と向き合う機会が多くあります。友達や先輩、後輩との関係、勉強、恋愛、進路のことなど、色々と気になることが増える時期かも知れません。たとえば、「友人ができない」、「対人関係（異性関係）について悩んでいる」、「大学に行く気がしない」、「何もやる気がしない」、「性格のことで悩んでいる」、「将来や自分の生き方について不安を感じる」、「先輩や教員とトラブルがある」などの悩みや不安があるかも知れません。誰でも、自分が困難な状況の渦に巻き込まれてしまうと、冷静な判断がしづらくなり、どうしたらよいか分からなくなってしまいます。

カウンセリングとは、人に話を聞いてもらうことで自分の考えを整理したり、自分で自分の置かれている状況を客観的に理解したり、自分はどうしたらよいか、何ができるか、などを考えられるだけの心のゆとりを取り戻すことです。カウンセラーとして、精神科医と臨床心理士が週2回カウンセリングをしております。カウンセリングを希望する場合は、まず保健室で予約を取ってください。

精神衛生上及び  
健康上の問題全般

カウンセリング（精神科医）：朝田 武（日時は後日掲示でお知らせします）  
カウンセリング（臨床心理士）：叶 香代（毎週 月・水曜日 10:00～17:00）  
看護師（保健室常駐の係員）：深谷 美架  
※カウンセリングは、予約制です。

\*保健管理センターでもカウンセリングが受けられます。

保健管理センター利用案内 <http://www.health.ibaraki.ac.jp/html/mito.htm#top>

## 4. ハラスメントの相談

セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等の防止及びそれらハラスメントに起因する問題が生じた場合に対応するために「ハラスメントの防止等に関する規程」を制定し、学生等の教育研究環境の維持につとめています。

ハラスメントの被害にあった場合は、一人で悩んだりせず、友人など理解ある人や相談員に相談してください。相談員は、相談者のプライバシーを守り、相談内容については秘密を厳守します。相談することによって、不利益を被ることは一切ありませんので、安心して相談してください。

	食生命科学科	地域総合農学科
セクシュアル・ハラスメント アカデミック・ハラスメント	各学科の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。	
<p>[セクシャル・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職の斡旋や研究指導などを条件に、性的な関係を強要されること</li> </ul> <p>[アカデミック・ハラスメントの例]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究意欲をそがれること</li> <li>・研究成果やアイディアを流用・盗用されること</li> </ul> <p>大学ホームページ <a href="http://www.ibaraki.ac.jp/collegelife/consultation/harassment/">http://www.ibaraki.ac.jp/collegelife/consultation/harassment/</a> ハラスメント相談窓口 Tel 029-228-8016</p> <p>◇ 自分が所属する学科以外の相談員に相談してもかまいません。 ◇ 保健管理センターと保健室もハラスメントの相談窓口になっています。 ハラスメントやハラスメント相談の詳細については、大学ホームページをご覧ください。 →<a href="http://www.ibaraki.ac.jp/collegelife/consultation/harassment/">http://www.ibaraki.ac.jp/collegelife/consultation/harassment/</a></p>		

## 5. 修学及び学生生活上の相談

修学上の問題や学生生活上の相談などがあるときは、学生担任又は下記の委員に相談してください。

### [ 教務委員・学生委員 ]

相談内容	食生命科学科	地域総合農学科
修学上の問題全般 (教務委員)	各学科の相談員は4月以降に掲示にてお知らせします。	
学生生活全般 (学生委員)		
<p>【修学上の問題の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の履修方法(単位のとり方、時間割の組み方等)がわからない。 ○授業が理解できない、ついていけない。研究が進まない。 ○教員免許などの資格のとり方がわからない。 ○留学の仕方がわからない。</li> <li>○学部・学科が自分に合わないので、転学部、転学科したい。 ○他大学を受験したい。</li> </ul> <p>【学生生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大学に行きたくない。留年、休学したい。 ○交通事故にあった、交通事故を起こした。 ○就職活動で困っている。 ○入学料、授業料の免除、奨学金の受け方がわからない。 ○大学院に進むかどうか迷っている。</li> <li>○先輩や教員とトラブルがある。</li> </ul>		

### [ 修学支援 ]

学生生活を送る中で、人間関係・学修・修学・就職活動上の「問題」や「困難さ」に一緒に向き合って、サポートする修学支援員がいます。修学支援員は「問題」や「困難さ」を整理し、解決のための道筋や、実行に移すための方法を考え、その実行そのものをサポートします。

例えば、「自分の言いたいことを上手く伝えられない」「相手の言いたいことがよく分からない」などコミュニケーションで困っている、「集中力が続かず、課題がこなせない」「レポートの書き方がわからない」などの学修について問題があるときにも支援をしていきます。

また、本人からだけでなく、教職員や保護者、友人や知人からの要請も支援の出発点としていますので、周りに困っている方がいるときにも、修学支援員に相談してください。

修学支援	<p>相談時間：毎週 火・木・金曜日 10:00 ～ 16:00</p> <p>※修学支援相談員については、別途掲示等でお知らせします。</p> <p>場 所：学生相談室（保健室隣）</p> <p>相談方法：修学支援員在籍中の時間に学生相談室にいらしてください。 その他の時間や、相談中の場合は保健室で予約を取ってください。</p>
------	--

## 6. 農学部における学生支援

農学部では下記の学生支援制度を実施しています。

### [ 阿見オリエンテーション（対象：1年次生） ]

目的：農学部を知り、研究や勉学についての目標設定や意欲向上をはかることを目的としています。同級生や在校生、教職員とのつながりをつくるきっかけともなります。

内容：「大学入門ゼミ」（1年次生対象基盤教育科目）の一部として実施します。農学セミナー（大学院生による研究紹介）、施設・研究室見学などをおして、農学部の研究活動や学修の方法や方向性を知ります。オリエンテーションの成果は各自で整理して発表します。

### [ 1年次全員面談（対象：1年次生） ]

目的：学生担任が学生の個別面談を行い、勉学や生活について細かな指導をします。

内容：学生担任が1年次生全員を対象として個別面談を前後学期に各1回実施します。個々の学生にあった勉学・生活上の指導を行い、4年間をとおして学生を支援しています。

### [ クラス委員制度（対象：全学年） ]

目的：学生の主体的活動を強化するとともに、大学との連携を密接にする制度です。

内容：各学年・各学科から3名以上のクラス委員を選出し、コース・系の決定に際しては適宜増員する場合があります。クラス委員は大学側からの連絡を伝達するとともに、学生の要望を大学側に伝え、定期的に学部長等と懇談します。全学年のクラス委員が参加するクラス委員会を開催し、学年間の連携も密にします。

### [ 保証人への成績一括送付（対象：全学年） ]

目的：学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有し、学生の勉学意欲の向上をはかる制度です。

内容：各学期終了後に保証人に成績を送付します（4年次後学期は送付しない）。学生、保証人、教員が学生の成績情報を共有することにより、学生の学修への奨励や激励を行います。なお、保証人への成績送付の可否は、入学時に学生に確認して実施します。

### [ 学生担任制度（対象：全学年） ]

目的：農学部の教員から選出された学生担任が、学生の教務及び生活状況を把握し指導します。

内容：農学部では、「4年間同じ教員による学生担任制度」により学生を支援します。学生担任は、講義への出席状況及び単位取得状況などを把握し、適切な指導を行うとともに、学生からの相談に対応します。メール等も活用します。

## 2022年度農学部新入生学生担任表

学 科	正 担 任※1	副担任※2
食生命科学科	◎朝山宗彦、成澤才彦、金澤卓弥、 鈴木穂高、豊田 淳、鎗田 孝	(全学教育機構) 矢嶋 敬紘
地域総合農学科	◎井上栄一、古谷綾子、牧山正男、 前田滋哉、長澤 淳、高瀬 唯	

※1 正担任のうち、◎のある者を責任者とする

※2 副担任は、緊急時に対応するため水戸地区（全学教育機構）の教員が支援に当たります。

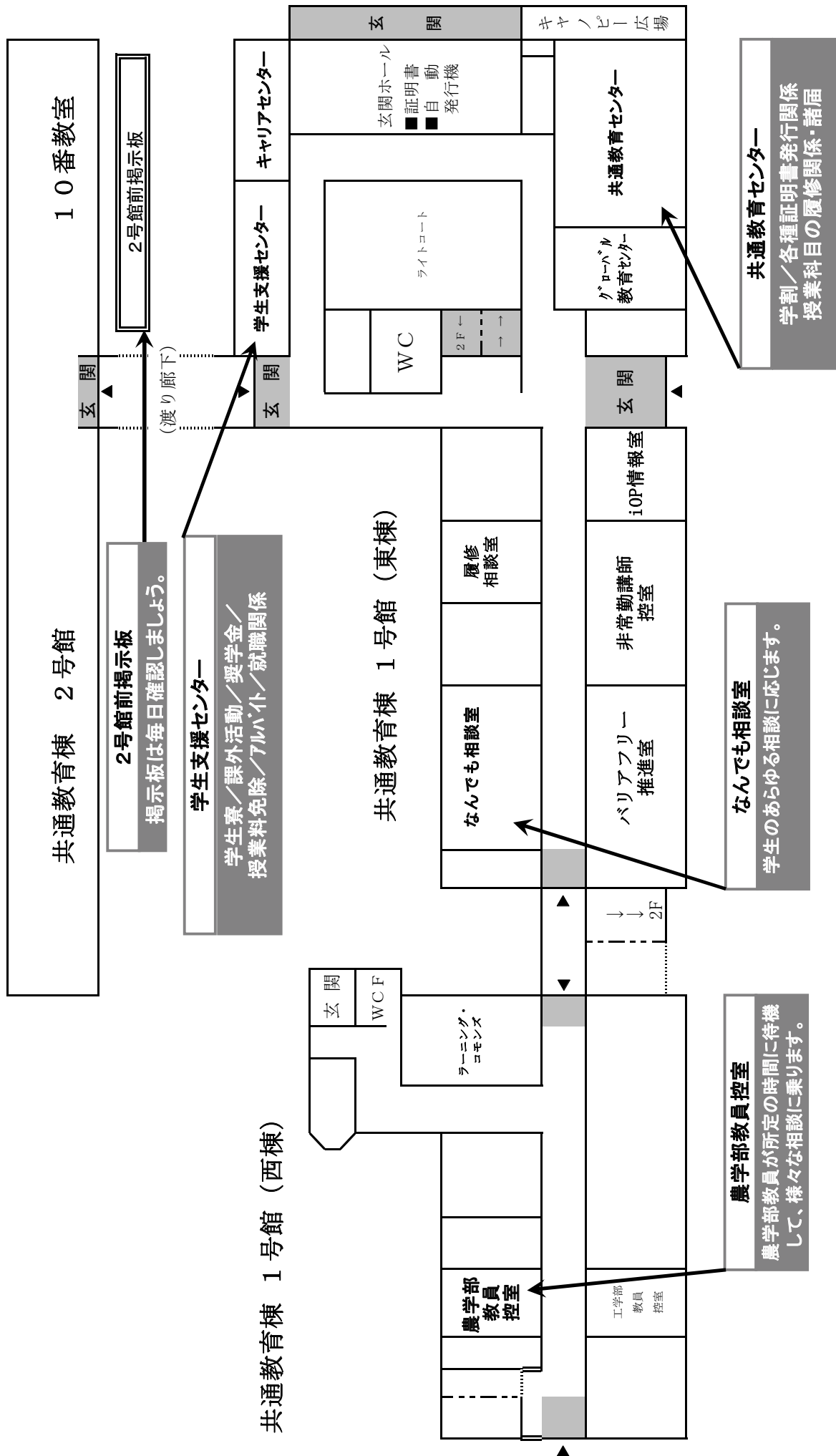
**【Memo】**

A large rectangular area with rounded corners, containing 25 horizontal lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page.

# 付 録

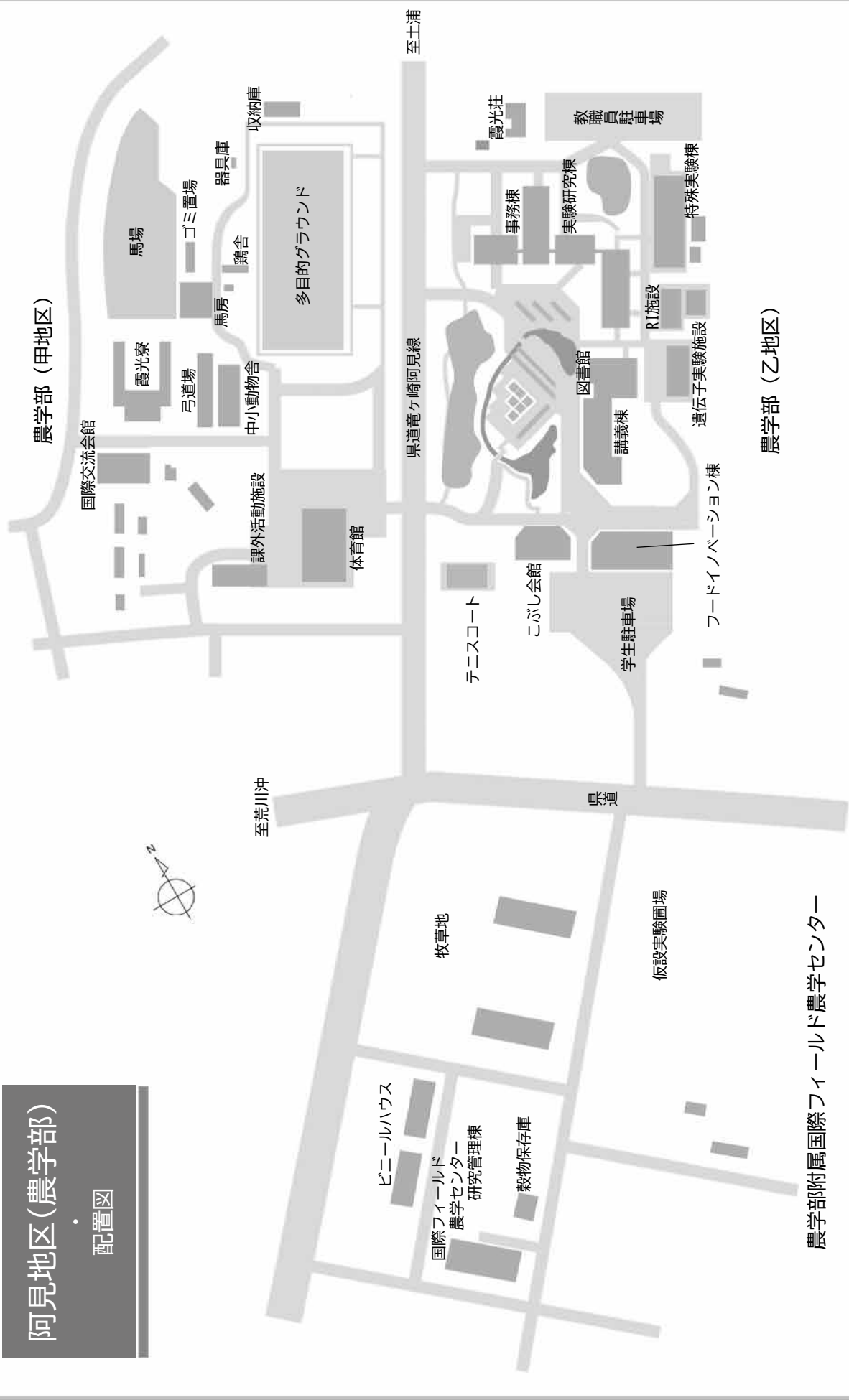


# 共通教育棟 1・2号館 (1階) 配置図



# 阿見地区(農学部)

## 配置図

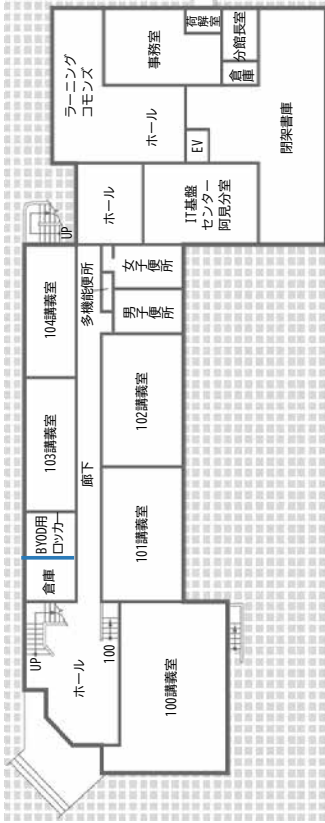


農学部附属国際フィールド農学センター



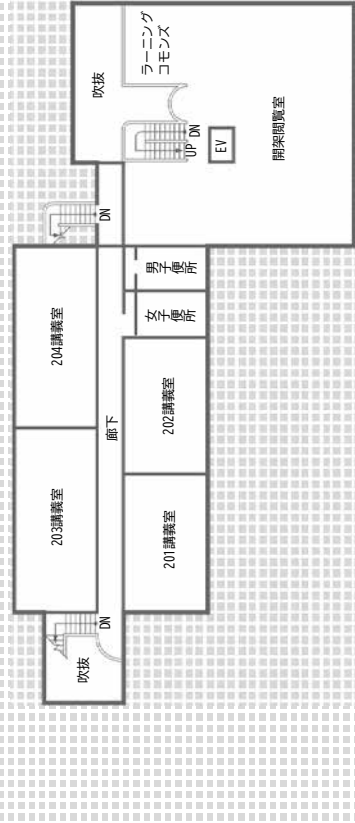
講義棟・図書館

1階案内図



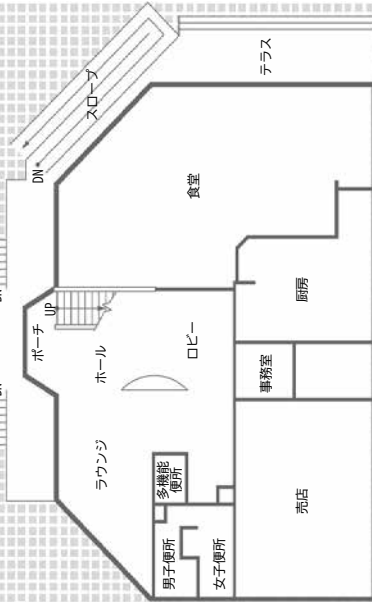
講義棟・図書館

2階案内図



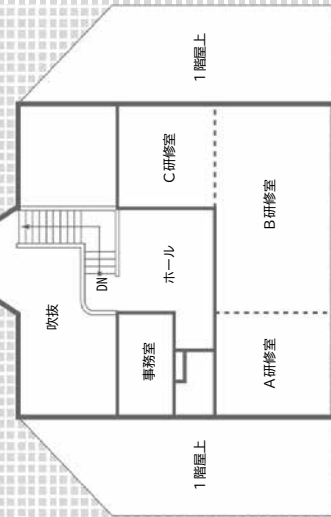
こがし会館

1階案内図



こがし会館

2階案内図



フードイノベーション棟  
1階案内図



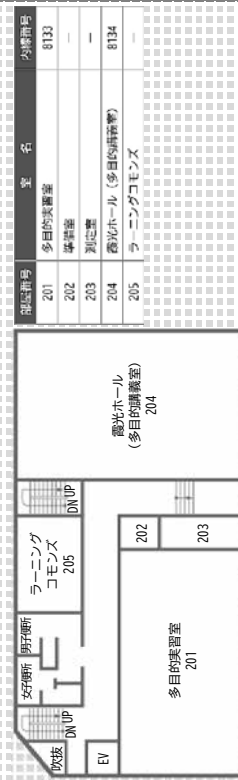
部屋番号	室名	外壁番号
101	地域連携推進室・会議室	8130
102	食品実験室	8139
103	食品実験補佐室	—
104	食品加工準備室	8132
105	食品加工室	—
106	女子更衣室	—
107	男子更衣室	—
108	前室	—
109	機室	—
110	包装室	—
111	出入係収容室	8131
112	原料投入れ準備室	—

フードイノベーション棟  
3階案内図



部屋番号	室名	外壁番号
301	共同研究イノベーション施設 I	—
302	共同研究イノベーション施設 II	—
303	食品実験室	8137
304	食品実験室	8138
305	食品実験室	8135
306	共同研究室	8683
307	共同研究室	8580
308	食品実験室	8136

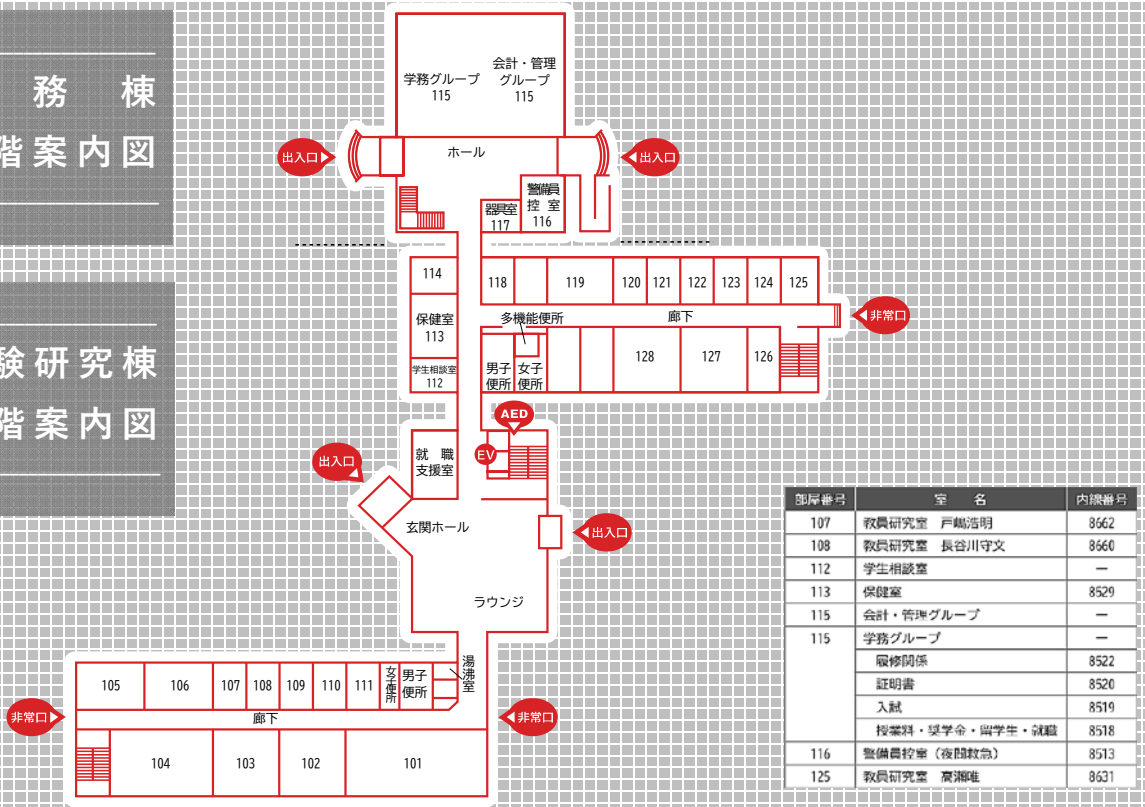
フードイノベーション棟  
2階案内図



部屋番号	室名	外壁番号
201	多目的実習室	8133
202	実習室	—
203	前室	—
204	観光ホール (多目的講義室)	8134
205	ランニングコモンズ	—

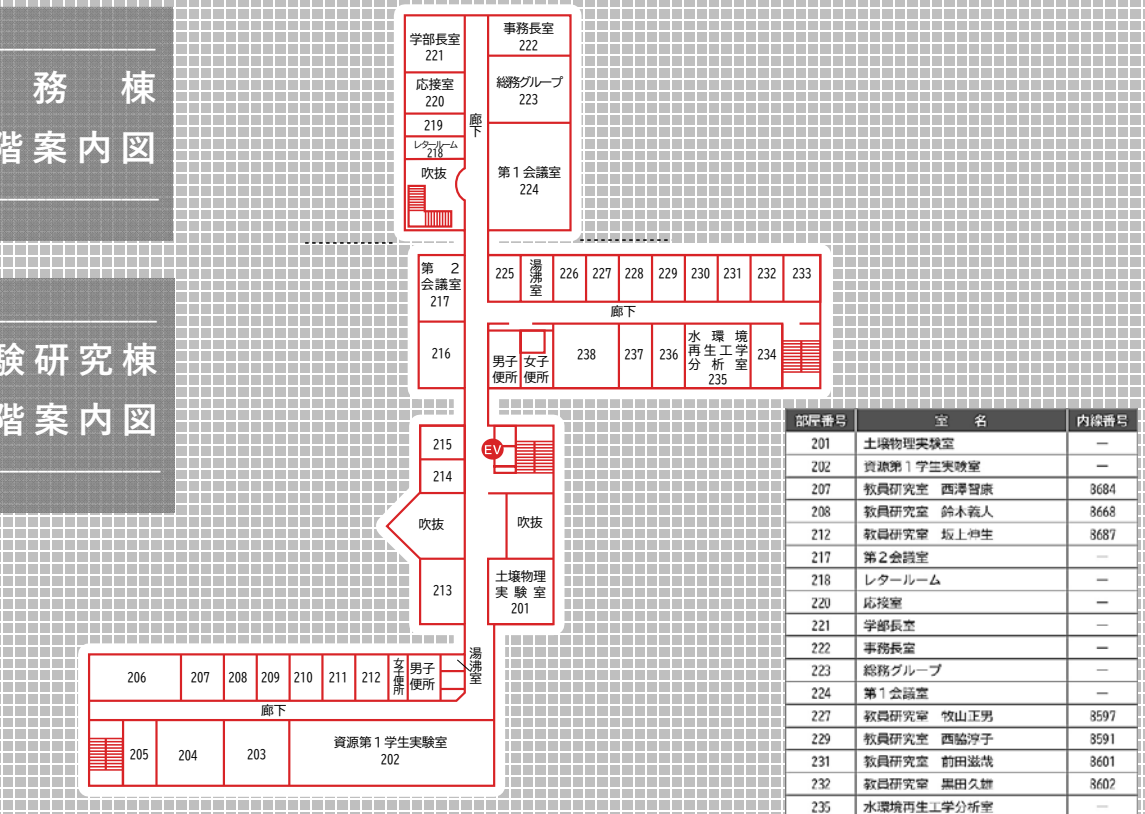
# 事務棟 1階案内図

# 実験研究棟 1階案内図

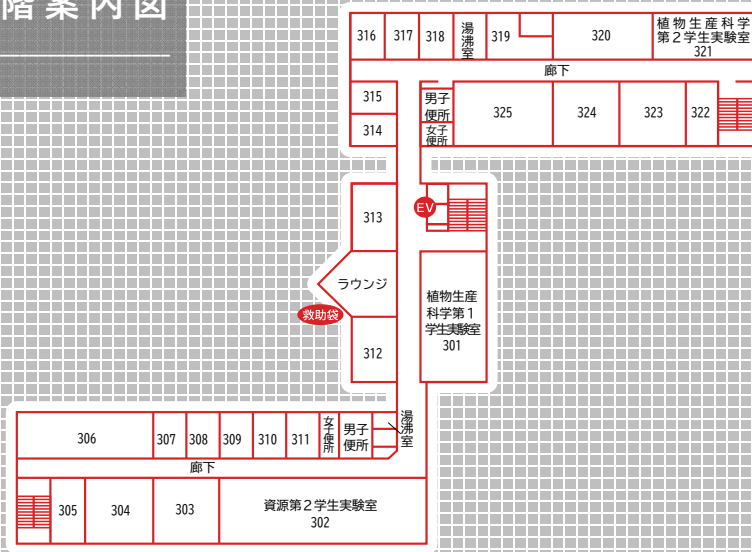


# 事務棟 2階案内図

# 実験研究棟 2階案内図

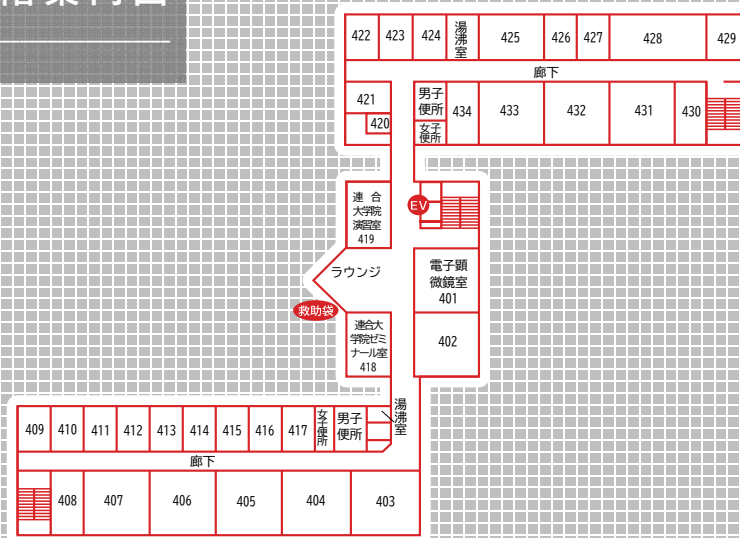


## 実験研究棟 3階案内図



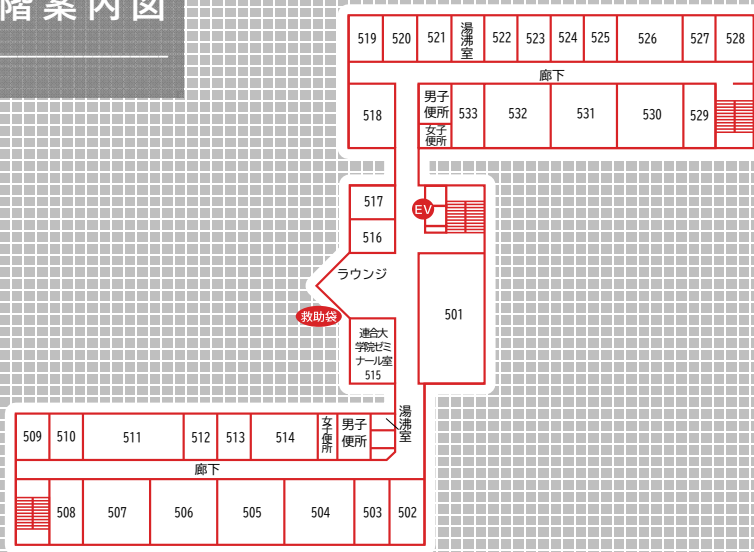
部屋番号	室名	内線番号
301	植物生産科学第1学生実験室	8550
302	資源第2学生実験室	8669
307	教員研究室 西原宏史	8685
309	教員研究室 長瀬茂	8672
315	教員研究室 浅木直美	8552
316	教員研究室 井上栄一	8553
317	教員研究室 望月佑哉	8554
321	植物生産科学第2学生実験室	—

## 実験研究棟 4階案内図



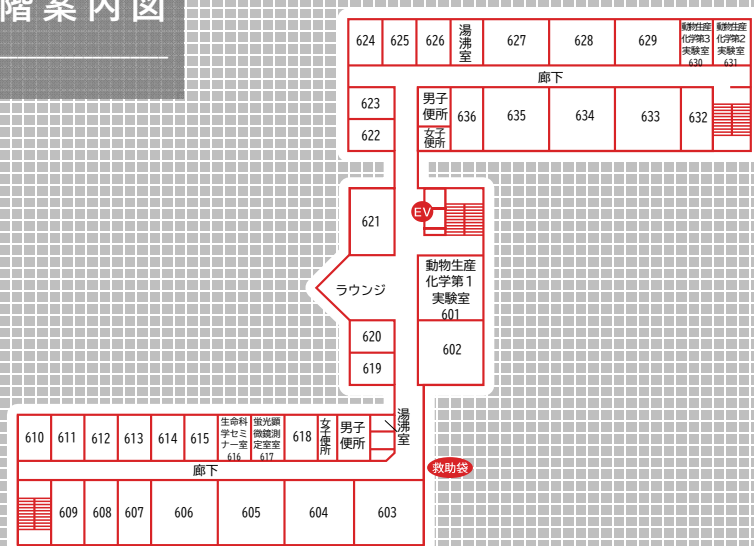
部屋番号	室名	内線番号
401	電子顕微鏡室	—
409	教員研究室 小島俊雄	8673
410	教員研究室 白岩雅和	8680
412	教員研究室 鎌田孝	8681
413	教員研究室 上妻由章	8682
417	教員研究室 成澤才彦	8667
418	連合大学院ゼミナール室	—
419	連合大学院演習室	—
421	教員研究室 菊田尚吾	8561
422	教員研究室 北嶋康樹	8559
427	教員研究室 中島雅己	8563

## 実験研究棟 5階案内図



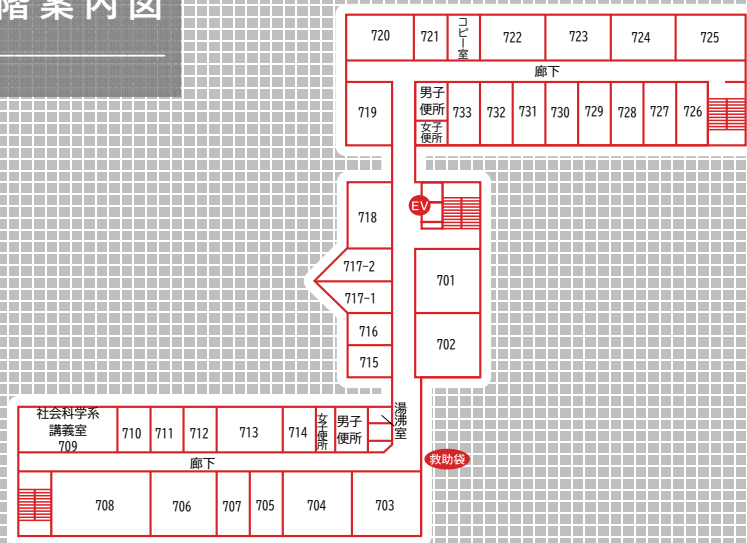
部屋番号	室名	内線番号
502	教員研究室 岡山毅	8592
509	教員研究室 久保山勉	8643
510	教員研究室 田附明夫	8644
515	連合大学院ゼミナール室	—
516	教員研究室 安江健	8576
520	教員研究室 上塚浩司	8539
522	教員研究室 鈴木徳高	8572
523	教員研究室 中島弘美	8573

## 実験研究棟 6階案内図



部屋番号	室名	内線番号
601	動物生産化学第1実験室	—
610	教員研究室 中平洋一	8652
611	教員研究室 朝山宗彦	8651
616	生命科学セミナー室	—
617	蛍光顕微鏡測定室	—
619	教員研究室 命澤卓弥	8655
620	教員研究室 大久保武	8656
622	教員研究室 須藤まどか	8570
624	教員研究室 島田淳	8584
625	教員研究室 小川恭喜	8571
631	動物生産化学第2実験室	—

# 実験研究棟 7階案内図



部屋番号	室名	内線番号
709	社会科学系講義室	—
717-1	非常勤講師等 控室	—
717-2	教員研究室 瀬尾匡雄	8588
719	教員研究室 毛利栄征	8634
722	教員研究室 内田晋	8632
723	教員研究室 伊丹一浩	8630
724	教員研究室 西川邦夫	8617
725	教員研究室 福与徳文	8616
728	教員研究室 長澤淳	8638
729	教員研究室 池田貞也	8617
730	教員研究室 木下嗣基	8635

## 茨城大学農学部 オフィスアワー(令和4年度)

学生からの質問・相談等に応じるため、教員はそれぞれの研究室で待機しています。  
この待機している時間を「オフィスアワー」と呼んでいます。  
これ以外の時間にも都合の許す範囲で対応します。また、メールでの質問・相談等はいつでも歓迎します。  
電話をする場合は、次のとおりダイヤルしてください。

**外線電話を利用する場合：029-888-(4桁の内線電話番号)**

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間			
					前学期		後学期	
食	朝山宗彦	611	munehiko.asayama.777@vc.ibaraki.ac.jp	8651	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
	上塚浩司	520	koji.uetsuka.k9@vc.ibaraki.ac.jp	8539	月	16:00 - 17:00	月	16:00 - 17:00
	大久保武	620	takeshi.ohkubo.0533@vc.ibaraki.ac.jp	8656	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
	小川恭喜	625	yasuki.ogawa.awagokyo@vc.ibaraki.ac.jp	8571	木	12:00 - 13:00	木	12:00 - 13:00
	金澤卓弥	619	takuya.kanazawa.omm@vc.ibaraki.ac.jp	8655	火	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
	上妻由章	413	yoshiaki.kouzuma.98@vc.ibaraki.ac.jp	8682	水	12:00 - 14:00	水	12:00 - 14:00
生	小島俊雄	409	toshio.kojima.1@vc.ibaraki.ac.jp	8673	火金	11:50 - 12:40	火金	11:50 - 12:40
	小針大助	iFC 205	daisuke.kohari.abw@vc.ibaraki.ac.jp	8705	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00
	坂上伸生	212	nobuo.sakagami.soil@vc.ibaraki.ac.jp	8687	金	15:00 - 17:00	金	15:00 - 17:00
命	白岩雅和	410	masakazu.shiraiwa.0701@vc.ibaraki.ac.jp	8680	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
	鈴木穂高	522	hodaka.suzuki.food@vc.ibaraki.ac.jp	8572	火	11:50 - 12:40	火	11:50 - 12:40
	鈴木義人	208	yoshihito.suzuki.chemeco@vc.ibaraki.ac.jp	8668	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00
	須藤まどか	622	madoka.sutoh.catgardian@vc.ibaraki.ac.jp	8579	金	11:00 - 12:00	金	11:00 - 12:00
	長南茂	309	shigeru.chohnan.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8672	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
	戸嶋浩明	107	hiroaki.toshima.spb540@vc.ibaraki.ac.jp	8662	月	11:50 - 12:40	月	11:50 - 12:40
科	豊田淳	624	atsushi.toyoda.0516@vc.ibaraki.ac.jp	8584	月	11:50 - 12:40	月	11:50 - 12:40
	中平洋一	610	yoichi.nakahira.41@vc.ibaraki.ac.jp	8652	火	11:50 - 12:40	火	11:50 - 12:40
	中村彰宏	FI 306	akihiro.nakamura.daru@vc.ibaraki.ac.jp	8683	金	11:50 - 12:30	金	11:50 - 12:30
	成澤才彦	417	kazuhiko.narisawa.kkm@vc.ibaraki.ac.jp	8667	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
	西澤智康	207	tomoyasu.nishizawa.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8684	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00
	西原宏史	307	hirofumi.nishihara.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8685	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
学	長谷川守文	108	morifumi.hasegawa.1@vc.ibaraki.ac.jp	8660	月~金	17:30 - 18:30	月~金	17:30 - 18:30
	宮口右二	FI 307	yuji.miyaguchi.meat@vc.ibaraki.ac.jp	8580	木	11:00 - 13:00	木	11:00 - 13:00
	安江健	516	takeshi.yasue.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8576	月	12:15 - 13:15	火	12:15 - 13:15
	鎗田孝	623	takashi.yarita.fsa@vc.ibaraki.ac.jp	8681	木	11:50 - 12:40	木	11:50 - 12:40
	吉田悠太	517	yuta.yoshida.animal@vc.ibaraki.ac.jp	8570	木	15:00 - 17:00	木	15:00 - 17:00

学科	担当教員	部屋	メールアドレス	内線	オフィスアワーの時間				
					前学期		後学期		
地 域 総 合 農 学 科	浅木直美	315	naomi.asagi.h@vc.ibaraki.ac.jp	8552	金	12:00 - 13:00	金	12:00 - 13:00	
	池田真也	729	shinya.ikeda.azabu@vc.ibaraki.ac.jp	8617	火	12:00 - 13:00	火	12:00 - 13:00	
	伊丹一浩	723	kazuhiro.itami.ano@vc.ibaraki.ac.jp	8630	木	11:50 - 12:40	木	11:50 - 12:40	
	井上栄一	316	eiichi.inoue.a@vc.ibaraki.ac.jp	8553	木	13:00 - 15:00	木	13:00 - 15:00	
	内田晋	722	susumu.uchida.envr@vc.ibaraki.ac.jp	8632	火	16:00 - 17:30	火	16:00 - 17:30	
	岡山毅	502	tsuyoshi.okayama.3@vc.ibaraki.ac.jp	8592	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40	
	菊田真吾	421	shingo.kikuta.pes@vc.ibaraki.ac.jp	8561	月	11:50 - 12:40	月	11:50 - 12:40	
	北嶋康樹	422	yasuki.kitashima.kanabun@vc.ibaraki.ac.jp	8559	木	11:50 - 12:40	木	11:50 - 12:40	
	木下嗣基	730	tsuguki.kinoshita.00@vc.ibaraki.ac.jp	8635	水	13:00 - 14:00	水	13:00 - 14:00	
	久保山勉	509	tsutomu.kuboyama.a@vc.ibaraki.ac.jp	8643	月	11:50 - 12:40	月	11:50 - 12:40	
	黒田久雄	232	hisao.kuroda.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8602	火木	16:00 - 17:00	月火木	16:00 - 17:00	
	小松崎将一	iFC 207	masakazu.komatsuzaki.fsc@vc.ibaraki.ac.jp	8707	月	13:00 - 14:00	月	13:00 - 14:00	
	佐藤達雄	iFC 204	tatsuo.sato.strawberry@vc.ibaraki.ac.jp	8704	月	10:20 - 11:20	月	10:20 - 11:20	
	高瀬唯	125	yui.takase.landscape@vc.ibaraki.ac.jp	8631	水	10:00 - 12:00	水	10:00 - 12:00	
	七夕小百合	iFC 206	sayuri.tanabata.i@vc.ibaraki.ac.jp	8706	月	12:00 - 13:00	月	12:00 - 13:00	
	中石克也	-	katsuya.nakaishi.kaolin@vc.ibaraki.ac.jp	-					
	中島雅己	427	masami.nakajima.pp@vc.ibaraki.ac.jp	8563	月	15:00 - 16:00	月	15:00 - 16:00	
	長澤淳	728	jun.nagasawa.wolf@vc.ibaraki.ac.jp	8638	月火水金	11:50 - 12:25	月~金	11:50 - 12:25	
	西川邦夫	724	kunio.nishikawa.agri@vc.ibaraki.ac.jp	8615	火	11:30 - 12:30	火	11:30 - 12:30	
	西脇淳子	229	junko.nishiwaki.office@vc.ibaraki.ac.jp	8591	水	12:00 - 13:00	水	12:00 - 13:00	
福与徳文	725	narufumi.fukuyo.agr@vc.ibaraki.ac.jp	8616	水	13:00 - 14:00	水	13:00 - 14:00		
前田滋哉	231	shigeya.maeda.15@vc.ibaraki.ac.jp	8601	金	16:20 - 17:30	金	16:20 - 17:30		
牧山正男	227	masao.makiyama.0530@vc.ibaraki.ac.jp	8597	水	12:10 - 13:10	水	12:10 - 13:10		
毛利栄征	719	yoshiyuki.mohri.office@vc.ibaraki.ac.jp	-						
望月佑哉	317	yuya.mochizuki.fuji@vc.ibaraki.ac.jp	8554	木	10:30 - 12:30	木	10:30 - 12:30		

(遺伝子実験施設(GRC))

古谷綾子	GRC 406	ayako.furutani.asano@vc.ibaraki.ac.jp	8756	水	11:50 - 12:40	水	11:50 - 12:40
------	---------	---------------------------------------	------	---	---------------	---	---------------

(農学部学務グループ)

029(888)8522・8519



## 各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先
紛失被害	学内で遺失物、所持品紛失、盗難等の被害にあった場合	学務グループ、図書館、生協事務室に届けられていることがありますので、ご相談ください。		
	学生証を紛失、破損した場合	学生証紛失届 学生証再交付願	速やかに	学務グループ
	証明書発行機、学内パソコンログインパスワードを忘れてしまった場合、変更したい場合	学務グループにご相談ください		
証明書	通学定期を購入するときに証明が必要な場合	通学証明書申請カード	受取希望日の3日前(休日除く)	学務グループ
	学割が必要な場合	証明書自動発行機で発行してください。 メンテナンス等の都合により、急に停止することがありますので、余裕をもって発行してください。 不明な点は学務グループにご相談ください。		
	在学証明書が必要な場合			
	成績証明書が必要な場合			
	健康診断証明書が必要な場合			
	入寮・在寮証明書が必要な場合	証明書交付願	受取希望日の3日前(休日除く)	学務グループ
卒業見込証明書が必要な場合	学部4年次生または修士2年次生が発行できます。 証明書自動発行機で発行してください。	学務グループ		
カリキュラム	履修に関すること	履修案内をよく読んでください。教務委員又は学務グループで相談に応じます。		
	期末試験に関すること	授業担当教員の指示に従ってください。期末試験時間割は掲示で確認してください。		
	成績に関すること	教務情報ポータルシステムで単位修得状況を閲覧できます。教務委員・学生担任(指導教員)で相談に応じます。		
身分異動	学生自身の住所・氏名・電話番号が変更になった場合	教務情報ポータルシステムで修正	速やかに	学務グループ
	保証人が変更、保証人住所が変更した場合	授業料納入保証書(変更届)・学籍簿	速やかに	
	休学する場合	休学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに(P.10)	
	休学期間を延長する場合	休学延長願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに(P.10)	
	復学する場合	復学届、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに(P.10)	
	退学する場合	退学願、理由書、学生担任等の記入した意見書	速やかに(P.10)	
課外活動	学生団体を設立したい場合	団体届出書、団体員名簿、会則、他	速やかに	学務グループ
	学生団体を4月以降も団体を継続する場合	団体届出書、団体員名簿、他	毎年5月末	
	文書・ポスターを掲示したい場合	掲示する文書・ポスター	速やかに	
	課外活動等で学内の施設を利用したい場合	教室使用願	速やかに	
	課外活動等で生協食堂を利用したい場合	生協に確認後、「こぶし会館使用申込書」	速やかに	
	課外活動等で用具を使用したい場合	学務グループに申し出てください。	数量が多い場合は要予約	
自家用車	自家用車で通学したい場合	自動車入構届出書、任意保険証書(写)、自動車検査証(写)、運転免許証(写)	速やかに	学務グループ
	車種・登録番号等を変更したい場合	自動車検査証(写)	速やかに	
	交通事故を起こした・遭った場合	学生事故等届、学生教育研究災害傷害保険用の事故報告届	速やかに	

## 各種事務手続窓口一覧（阿見地区版）

区分	項目	提出書類	提出の時期	提出先
経済生活	授業料の減免、分納、徴収猶予を希望する場合	学務グループに相談してください。	4月、10月頃 揭示します。	学務グループ
	奨学金・修学資金を希望する場合	各団体の所定様式	4月を中心に随時 揭示します。	
	アパートを探したい場合	学務グループで保管しているファイルで閲覧できます。		
	アルバイトを探したい場合			
就職活動等	就職活動の相談をしたい場合	学務グループで受け付けています。毎週月・水・金曜日は就職指導講師、毎週火・木曜日は就職相談専門員が相談に応じます。		学務グループ
	インターンシップについて相談したい場合			
学生寮	入寮を希望する場合	入寮願、家庭状況調書、他	申請時	学務グループ
	寮費の支払い方法を変更したい場合	寄宿料納入願変更届	変更を希望する30 日前までに	
	光熱水料を支払う場合	寮の会計長にご相談ください。		
	退寮を希望する場合	退寮願	退寮決定後速やかに	
健康管理	具合が悪くなった場合	直接保健室又は学務グループに申し出てください		
	カウンセラー・看護師に相談したい場合			
	健康に関することを相談したい場合			
	保健室の救急薬品を使用したい場合			
	正課、課外活動中、通学途中にケガをして通院入院した場合	窓口に申し出てください。	速やかに	保健室 又は学務グループ
図書館	図書館に関すること	直接図書館サービスグループに申し出てください。		



## 茨城大学 農学部

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1

TEL : 029-888-8519/8522

FAX : 029-888-8545

HP : <http://www.agr.ibaraki.ac.jp/>

## ○茨城大学農学部総合戦略・IR委員会内規

(平成29年5月17日内規第37号)

改正 平成30年3月20日内規第1号 令和4年3月28日規則第7号

(趣旨)

第1条 この内規は、茨城大学農学部総合教授会細則(平成27年細則第52号)第7条第2項の規定に基づき、茨城大学農学部総合戦略・IR委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

[茨城大学農学部教授会細則(平成27年細則第52号)第7条第2項]

(任務)

第2条 委員会は、学部長からの諮問に応じ、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 農学部の将来構想に関する事項
- (2) 農学部の教育研究に係る国際交流事業の推進に関する事項
- (3) 客観的なデータに基づく、農学部及び農学研究科の教育研究活動等についての点検・評価に関する事項
- (4) 中期目標・中期計画に関する事項
- (5) 認証評価に関する事項
- (6) その他学部長から諮問された事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 評議員
- (3) 附属国際フィールド農学センター長
- (4) 学部長補佐
- (5) 各領域から選出された教員 各2人
- (6) 各学科会議から選出された教員 各2人
- (7) 東京農工大学連合農学研究科代議委員会委員として選出された教員 1人
- (8) 事務長
- (9) 学部長が必要と認めた教員 若干人

2 前項第5号、第6号、第7号及び第9号に掲げる委員は、学部長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第5号、第6号、第7号及び第9号に掲げる委員の任期は、1年以内とし、再任を妨げない。

2 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、第3条第1項第2号の委員のうちから学部長が指名する。

[第3条第1項第2号]

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。

- 2 委員が、やむを得ない事由により出席できないときは、委員長の承認を得て、代理者を出席させることができる。
- 3 代理者は、委員の職務を代行する。
- 4 委員会の議事は、出席委員の3分の2以上の賛成をもって決するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会において、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、農学部事務部において処理する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

#### 附 則

1 この内規は、平成29年5月17日から実施し、平成29年4月1日から適用する。

2 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 茨城大学農学部点検・評価委員会内規(平成27年内規第66号)
- (2) 茨城大学大学院農学研究科点検・評価委員会内規(平成27年内規第88号)
- (3) 茨城大学農学部将来構想委員会内規(平成27年内規第68号)
- (4) 茨城大学農学部国際交流委員会内規(平成27年内規第72号)

#### 附 則(平成30年3月20日内規第1号)

1 この内規は、平成30年4月1日から実施する。

2 次に掲げる内規は、廃止する。

- (1) 茨城大学農学部中期計画委員会内規(平成27年内規第67号)

#### 附 則(令和4年3月28日規則第7号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

[[国立大学法人法及び同施行規則の一部改正に伴う学内規則等の整備に関する規則](#)]

## ○茨城大学農学部総合戦略・IR委員会内規

(平成29年5月17日内規第37号)

改正 平成30年3月20日内規第1号 令和4年3月28日規則第7号

(趣旨)

第1条 この内規は、茨城大学農学部総合教授会細則(平成27年細則第52号)第7条第2項の規定に基づき、茨城大学農学部総合戦略・IR委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

[茨城大学農学部教授会細則(平成27年細則第52号)第7条第2項]

(任務)

第2条 委員会は、学部長からの諮問に応じ、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 農学部の将来構想に関する事項
- (2) 農学部の教育研究に係る国際交流事業の推進に関する事項
- (3) 客観的なデータに基づく、農学部及び農学研究科の教育研究活動等についての点検・評価に関する事項
- (4) 中期目標・中期計画に関する事項
- (5) 認証評価に関する事項
- (6) その他学部長から諮問された事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 評議員
- (3) 附属国際フィールド農学センター長
- (4) 学部長補佐
- (5) 各領域から選出された教員 各2人
- (6) 各学科会議から選出された教員 各2人
- (7) 東京農工大学連合農学研究科代議委員会委員として選出された教員 1人
- (8) 事務長
- (9) 学部長が必要と認めた教員 若干人

2 前項第5号、第6号、第7号及び第9号に掲げる委員は、学部長が任命する。

(任期)

第4条 前条第1項第5号、第6号、第7号及び第9号に掲げる委員の任期は、1年以内とし、再任を妨げない。

2 欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、第3条第1項第2号の委員のうちから学部長が指名する。

[第3条第1項第2号]

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。

- 2 委員が、やむを得ない事由により出席できないときは、委員長の承認を得て、代理者を出席させることができる。
- 3 代理者は、委員の職務を代行する。
- 4 委員会の議事は、出席委員の3分の2以上の賛成をもって決するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会において、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、農学部事務部において処理する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

#### 附 則

1 この内規は、平成29年5月17日から実施し、平成29年4月1日から適用する。

2 次に掲げる規則は、廃止する。

- (1) 茨城大学農学部点検・評価委員会内規(平成27年内規第66号)
- (2) 茨城大学大学院農学研究科点検・評価委員会内規(平成27年内規第88号)
- (3) 茨城大学農学部将来構想委員会内規(平成27年内規第68号)
- (4) 茨城大学農学部国際交流委員会内規(平成27年内規第72号)

#### 附 則(平成30年3月20日内規第1号)

1 この内規は、平成30年4月1日から実施する。

2 次に掲げる内規は、廃止する。

- (1) 茨城大学農学部中期計画委員会内規(平成27年内規第67号)

#### 附 則(令和4年3月28日規則第7号)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

[[国立大学法人法及び同施行規則の一部改正に伴う学内規則等の整備に関する規則](#)]



# 茨城大学農学部 「農学分野データサイエンス教育プログラム」



<https://www.agr.ibaraki.ac.jp/educationprogram/>

## 【プログラムについて】

昨今のデジタル社会において「データサイエンス」は、社会で活躍するにあたって身につけるべき基礎的な教養と捉えられつつあります。農学分野においても例外ではなく、気象データ、生育データなど様々なデータを大量に扱う必要があり、データサイエンス教育の必要性が高まっています。またAIと呼ばれる機械学習等を用いた農学分野の課題に対する取組みも、すでに数多く社会実装されており、それらを活用できる農学分野の専門知識を持ったデータサイエンティストの需要も年々高まっています。

## 【プログラムで育成する人材】

そのような社会的背景を受け、農学分野データサイエンス教育プログラムでは、農学分野の専門知識を有し、かつ以下の能力を持つデータサイエンティストの養成を目的とします。

- データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力
- データサイエンスを活用し課題解決につなげる基礎能力
- 農学分野の実課題にデータサイエンスを応用するための大局的な視点から俯瞰する能力

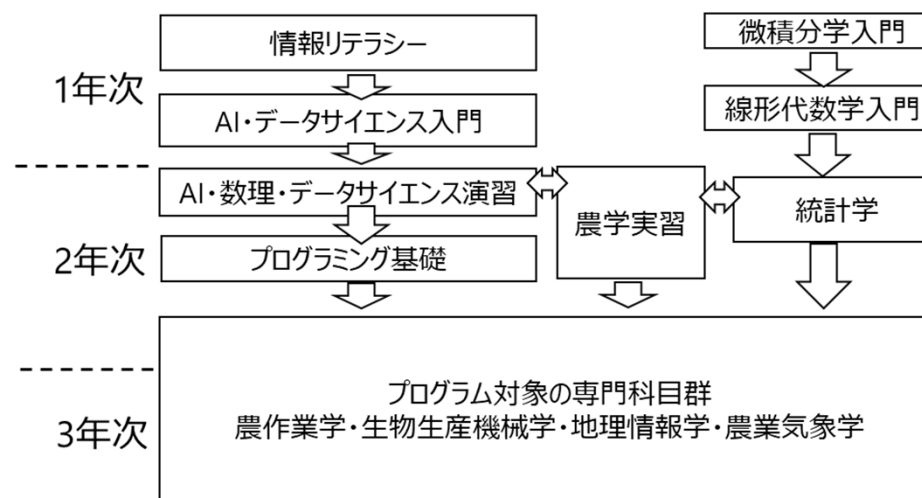


図: 農学分野データサイエンス教育プログラムのカリキュラムマップ